慶應義塾大学学術情報リポジトリ

Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	西ドイツ刑法学の現状:刑法学者の業績を系譜学的にみて
Sub Title	The bibliography of criminal science in west Germany
Author	宮沢, 浩一(Miyazawa, Kōichi)
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication	1965
year	
Jtitle	法學研究 : 法律・政治・社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.38, No.8 (1965. 8) ,p.64- 152
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	刑事法学の当面する諸問題 資料
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19650815-0064

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.



西ドイツ刑法学の現状

---刑法学者の業績を系譜学的にみて----

宮 沢 浩

しかに、私達昭和生れの者は幾多の諸先達によつて多年にわたり究かなりの程度に進歩していることは、よく知られた事実である。た一 日本におけるドイツ法の研究、就中、ドイツ刑法学の研究が

明され、整理されきたつたドイツ刑法学に関する多くの知識によつ

て、どれ程大きな恩恵に裕したことであつたろう。

つ、半思といことかなり、ど、もつである。 学界に足を踏み入れた人々の積年の御努力が、いかに私達の前に導学界に足を踏み入れた人々の積年の御努力が、いかに私達の前に導文、戦後の西ドイツ刑法学の展開についても、私達より数歩先に

すべて物事の始まりは、疑うことから出発する。輝かしいドイツ刑では一体、私達にはどのような仕事が残されているのだろうか。の、学恩をかたじけなうしているのである。

成が終らないうちに、いや古典派の陣営の整備とほぼ並行する形で、

ばたのに対し、我が国の刑法学では真にその名に価する古典派の形は大のに対し、我が国の刑法学が完成した形で一応存在し、それ自治として華麗な体系を誇り、テーゼとして確固とした地歩を築き上なければならない。ヨーロッパ、特にドイツの刑法学において、いたければならなかつたという現実的、政治的な要請が厳密なるべき学問の継承、学説の批判的摂取に強く 作用したという 事情も考え併せなければなるまい。ヨーロッパ、特にドイツの刑法学において、いたければなるまい。ヨーロッパ、特にドイツの刑法学において、いたければなるまい。ヨーロッパ、特にドイツの刑法学において、いたければなるまい。ヨーロッパ、特にドイツの刑法学において、いたければなるまい。ヨーロッパ、特にドイツの刑法学において、いたければなるまい。ヨーロッパ、特にドイツの刑法学において、いたければなるまい。ヨーロッパ、特にドイツの刑法学において、いたければなるまい。ヨーロッパ、特にドイツの刑法学において、とは出発ないので対し、我が国の刑法学が完成した形で一応存在し、それ自わゆる古典派とよばれる刑法学が完成した形で一応存在し、それ自から、テーゼとして確固とした地歩を築き上体として華麗な体系を誇り、テーゼとして確固とした地歩を築き上体として発言という。

ディングの著書を時間をかけて参猟するという余裕の見られなかつ アンチテーゼたる新級刑法学が輸入され、こちらの方がむしろ有力 斯古典根の学者が論争をいどむという形をとるに至つたのである。 は先に主要された新派刑法学に対し、あとから続いた人達、いわゆる な形をとつてしまつたのである。その後の日本における論争の多く ここに見られることは、ドイツの古典派の学者の中、例えばピン

(名)たという重大な事実であり、オェトカー、シェーテンザック、フィたという重大な事実であり、オェトカー、シェーテンザック、フィ

ヤーは極くまれな例外である)の作品の多くは殆んど手つかずに終つ シガーといつた 人達 (日本における学派の争いに登場したビルクマイ

を下しているヘルムート・マイヤー等について一体どれ程の注意が

レーダー、ザックス、くせはあるけれども伝統的な考え方に深く根

払われたことであつたろうか。

たという出来事である。

し批判的に言及している事実も殆んど見落とされてしまつている。(5) な註釈をものしたといつた事実は案外知られていないし、戦争中、横、法学と医学の境界領域をきわめ、株式会社の刑法について精緻 に、ペーリング、マイヤー、メッガーの業績についてはかなりの程 の展開である。これについては、非常に完明がすすんでは居る。特 とに挺身も、又その頃の小者の中ですでにウェルツェルの学説に対 **触草法務官をして活躍し、反ナチス的な裁判官として人権を守るこ** ての評価は殆んどその一部分の拡大に終つている。その法史学の業 慶研究が邀められている。だが、エベルハルト・シュミットについ そして次に関心の対象となつたのが、構成要件論と規範的責任論 自然主義的行為職と目的的行為論とを綜合した社会的行為論の提

义、戦争中にその饗徽を発表し始めた人達に対する研究は殆んど

西ドイツ刑法学の現状

幅も文。シュミットに始まるのである。

と関係のない戦中派の発言、加えて戦後の諸学者の研究業績の多く 目的的行為論との対決にさきすぎたように思われる。従つて、これ をいつているのではない。戦後、我が国では余りにも多くの問題を 無視に近い。勿論、ここではナチス刑法学樹立に一と役かつた仕事 瞳、地味ではあるが非常に力量のあるラング-ヒンリクセン、シュ も殆んど問題としてとりあげられなかつたのである。 ブルンス、ハイニッツ、ペータース、ジーパーツ等の多方面の活

向けた注意と比べて、エンギッシュの精緻な、好意的でもある批評 アルミン・カウフマン、マウラッハ、故ニーゼ、V・ウェーバーに 知る勒の良さと相俟つて、必ずしも実体に即さない認識を拡大鏡に 着しすぎると思われるのではないかという意識が、一を聞いて十を 合に、これ程危険な態度はない筈である。余りにも外国の学説と密 クスがつきまとつてはいないであろうか。 外国の学説を見つめる場 を一体どれほど消化し、原典に当つて研究がなされたであろうか。 目的的行為論の批判的検討においても、ヴェルツェル、ガラス、 三 日本の刑法学には依然としてオリジナリティー・コンプレッ

ず正しく位置づけてから、次に分析をし、そして日本の社会、関民 ど、場合によつては、私のような考え方、つまり、外間の学説をま 私には右のような疑問が常に心の中に渦をまいて い た。なる ほ

かけるといつた操作をくりかえしてきたのではないか。

することは厳につつしむべきであると私は考える。 しい、およそ外国の学説を使用する場合、全体的評価 から 切り 難しし、およそ外国の学説を使用する場合、全体的評価 から 切り 難しし、およそ外国の学説を使用するのではなくて、刑法学を研究する違の方は、刑法学説史を検討するのではなくて、刑法学を研究するという行き方に対して、自分性にあかた機論を展開するべきであると私は考える。

なが見生り雪ドイツ削去学と写平面していた思って里白ま、これとさらに引用しないというのは沙汰の限りである。 の論、自説を展開するに当つて下敷として利用した外国文献をこ

てもついてゆけないものを感じていたからに他ならない。このもやまでの日本刑法学におけるドイツ刑法学の評価のあり方に、どうし私が現在の西ドイツ刑法学を再評価したいと思つた理由は、これ

も中した異和感をまず払拭してかからなければ、どうにも前進する

気持になれなかつたからである。

去る一九六四年五月、三たび西ドイツの地を訪れることが決まつ

学の、あの近代的に運営されている能率的なゼミナールの図書室を来したと思つた。半年という短期間の滞在ではあつたが、ザール大たとき、私は年来の、自分自身に対する宿題をやりとげる機会が到

さになつていつた。西ドイツの刑法学を荷う人々の業績を書きとめたメモはかなりの厚西ドイツの刑法学を荷う人々の業績を書きとめたメモはかなりの厚日のように、雑誌のすべて、論文集の一つ一つを手にとつて、現在、

フルに利用することが出来て、予定の通り仕事は終つた。殆んど毎

ておきたい。以下の業績群の中には、最近イギリスで物故したグリロ ここで、何故、現在のスタッフに限つたかという疑問に答え

うのがおちである。 しかし、この種の仕事には、 まず 始めに 問題の限定が 必要であった限定することは巨視的にみると大きな欠陥である。

私は何よりもまず、今日現在の西ドイツの刑法学者をびしやつと

ェンケ等の研究成果はあげられていない。たしかに、現在のスタッューンフートやニーゼ、ザウアー、メッガー、コールラウジェ、シ

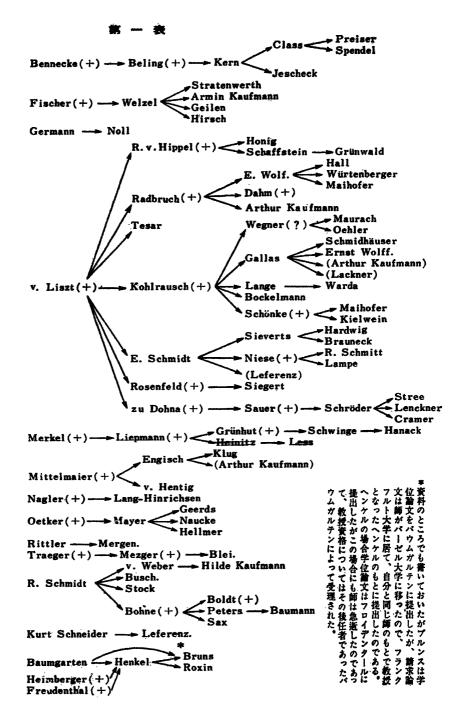
時点でこれをつかまえておかなければならないと考えたのである。際している人は自己と他者の過去をかてとして動的に発展してゆくの死後に展開するためには他者の過去をかてとして動的に発展してゆくってある。発展したかつたのである。死んだ人の思想がその著者押えておきたかつたのである。そして、今後の彼等の展開を客観視

私の調査はこの限度にとどまつている。一表)。 勿論、これはさらに過去に遡るわけであるが、現在までのここで簡単に、西ドイツの刑法学者の系譜を図示してみよう(第

その学説の系譜を論じておいた。

過去とのつながりについては、各学者に関する簡単な解説の中で、

英群を生んだとは考えてもみなかつたことである。したが、その門下からこれ程までに大きな影響を及ぼすに至つた俊したが、その門下からこれ程までに大きな影響を及ぼすに至つた俊い。リストという偉大な刑法学者は学説の上でも巨大な足跡を残



を投資格請求論文 (Habilitation) を書き、それを提出し受理されることが、若い学者達の進む方向を予測し、その展開を跡づける想的なつながりを重視し、節の業績を通してその思想の位置づけを想的なつながりを重視し、節の業績を通してその思想の位置づけを表投資格請求論文 (Habilitation) を書き、それを提出し受理され

地位があくと。その学部に招聘委員会が開かれ、去つてゆく教授の制度について、比較的詳しく書いたからくりかえさない。正教授の又、西ドイツに特徴的な招聘制度というものも見逃せない。この

かなり左右されることも事実である。内々で受諾し、自分の後任について個人的に折衡する教授の意志に内々で受諾し、自分の後任について個人的に折衡する教授の意志に授(その教授としての待遇は終身である)とか、他の大学への招聘をがこれである。学識が高いことも事実であるが、定年で退職する教して文部省に送られ、原則として第一順位が選ばれるという仕組み希望にそつた人選が下相談の形で行われ、三人の候補者に順位を附

は非常に大きな格差があるのである。

ではない人も居る。正教授であるか否かということは、西ドイツで度にもよるし、そのときの運にもよるが、なかなか正教授の地位に可能性が知れると内心的に動揺しがちなものである。請求論文の程可能性が知れると内心的に動揺しがちなものである。請求論文の程

でこれを受理することは出来ないのである。う。しかも、この助手に教授資格請求論文を書かせても、自分だけてないし、秘書もない。助手の数も一人つくのがせいぜ い で あ ろ何えば、研究上のスタッフとして員外教授には自分の研究所は持

せて検討すると、教授庫の移動の多くが、指導教授の系統によつて各大学における刑法学者の移動を示すものである。別表の系譜と併た、どうしても師弟関係をより具体的に知る必要があるのである。従つて、私達が現在の西ドイツの教授陣の構成を見つ める 場合

系列化されていることが分るであろう。

大九

*Nagler -- 1951 (死亡)

→ 印は変動を意味し、その年代の後の()内は転任先の大学名である。ao 又は api は員 外表授,oP は正教授である。HP は名誉表授であり,PD は私謝解,Hab は論文の提出を終 った者、Lb は課題である。* 印は 1930 年のフランク祝賀論文集に客稿した者である。 Berlin (戦後東独の大学となる) *Wegner (1926) → Münster v. Liest→1919 (死亡) Henkel (1935) →1945 (敗戦によりポーラン E. Schmidt (1920 PD)→1921 (Breslau) ド償となる) *Kahl Maurach (1936 Hab) → 1940 (PD) → 1941 → *Klee (Königsberg ac) *Goldschmidt-+1933 (ナチスにより遊放) Bruns (1938 PD)→1939 (Greifswald ac) *Mannheim Erlangen Gleispach *Allfeld Kohlrausch (1919)→1948 (死亡) *Köhler→1933 (追放, 行方不明) Gallas (1933 PD)→1934 (Giessen) Würtenberger (1940 ao) → 1942 (oP) → 1946 Schönke (1935 PD)→1938 (Freiburg PD) (Mainz) Stock (1938 oP)→1941 (Marburg oP) Heinitz (1948 oP)→1952 (Freie Univ. Lange (1938 PD)→1940 (Jena so) Berlin) Bockelmann(1939 PD)→1940 (Königsberg ao) Less (1950 PD)→1957 (ao) Lang-Hinrichsen (1949)→1949 (東独政府 Bruns (1952 oP) の政策に反抗して西独に逃亡) Boldt (1955 oP)→1957 (死亡) Freie Universität Berlin Stratenwerth (1960 ac)→1961 (Basel) Lange (1949 oP)→1951 (Köln) Warda (1962 oP)→1965 (Bochum) Oehler (1951 ao) →1954 (oP) →1960 (Köln) Frankfurt a. M. Heinitz (1952) *Baumgarten→1933 (Basel) Blei (1962) *Heimberger Sarstedt (1963 HP) M. E. Mayer→1923 (死亡) Freudenthal→1929 (死亡) Bechum Warda (1965) Henkel (1930 PD) → 1933 (ao) → 1934 (Marburg) Geilen (1965) Renn Class (1936) Project (1946 PD) -- 1949 (ao) -- 1954 (oP) *Grünhut (1924 oP)→1933 (追放)→1952 Spendel. (1953 PD) →1958 (ao) →1962 (HP)→1964 (死亡) (Würzburg) Zu Dohna→1944 (死亡) Geerds (1964 oP) Schwinge (1930 PD)→1932 (Halle) Preiburg v. Hentig (1934)→1936(追放)→1951(復帰) R. Schmidt (1891 oP)→1913 (Leipzig) v. Weber (1937)→1963 (引退) *Kern (1920 oP)→1936 (Tübingen) Busch (1947 apl) Engisch (1929 ao) →1932 (München ao) Welzel (1952) Class (1933 PD) → 1934 (Giessen) Stratenworth (1956 PD) →1960 (Erlangen so) Wolf (1931 oP) Armin Kaufmann (1957 PD)→1961 Hall (1933 PD) → 1936 (Giessen) (Tübingen ao) Schönke (1938 PD)→1940(oP)→1953(死亡) Hilde Kaufmann (1962 PD) Würtenberger (1939 PD)→1940(Erlangen) Armin Kaufmann (1963 oP) Maihofer (1953 PD) →1955 (Searbrücken) Geilen (1963 PD) →1965 (Boehum oP) Kielwein (1953 PD)→1956 (Searbrücken) Grünwald (1963 oP) Jescheck (1954 oP) Breslau (戦後東逸の大学となる) Würtenberger (1955 oP) Beling (1893 PD)→1896 (oP)→1900 (Glessen) Schwalm (1961 HP) E. Schmidt (1921) → 1926 (Kiel) R. Schmitt (1963 ac)

Giosson

Kohlrausch (1904 ao) → 1906 (oP) → 1914

*Radbruch→1949 (死亡) Beling (1900 oP)→1902 (Tübingen) *Mittermaier (1903 oP)→1938 (Heidelberg) *Engelhard E. Wolf (1928 PD) → 1929 (Rostock) Englisch (1929 PD)→1929 (Freiburg) v. Hentig (1929 PD)→1931 (Kiel) Dahm (1932 PD)→1934 (Kiel) Class (1934 oP)→1936 (Frankfurt) Engisch (1934 oP)→1953 (München) Gallas (1934 ao)→1935 (Königsberg) Mittermaier (1938 oP)→1956 (死亡) E. Schmidt (1948)→1959 (引退) Hall (1936 ao) → 戦後マールブルク大学法 Klug (1950 PD) → 1956 (Mainz) 学部と合併 Gallas (1954 oP) Göttingen v. Hippel (1899 oP) Leferenz (1956 PD) → 1959(ao) → 1963 (oP) *Honig (1920 PD) \rightarrow 1925 (ao) \rightarrow 1931 (oP) Bockelman (1959 oP)→1962 (München) →1933 (追放) Arthur Kaufmann (1960 PD)→1961 (Saar-Schaffstein (1930 PD)→1933 (Leipzig) brücken) Siegert (1933 oP) Hanack (1963 oP) Wolff (1963 PD) Welzel (1937 ao) \rightarrow 1940 (oP) \rightarrow 1952 (Bonn) E. Schmidt (1945)→1948 (Heidelberg) Lackner (1964 oP) Niese (1949 PD)→1951 (Mainz) Jena (戦後東独の大学となる) Bockelmann (1949 oP)→1959 (Heidelberg) Grünhut (1923 ao) → 1924 (Bonn) Schaffstein (1954 oP) *Gerland→1944 (死亡) Schmidhäuser (1959 oP)→1962 (Hamburg) *v. Weber (1928 OP) → 1936 (Bonn) Lange (1940 ao) →1943 (oP) →1949 (Freie Roxin (1962 oP) Uni. Berlin) Grünwald (1963 PD)→1963 (Bonn) Greifswald(戦後東独の大学となる) Kiel v. Hippel (1891 PD)→1892 (Strassburg) *Merkel E. Schmidt (1926 oP)→1929 (Hamburg) v. Gemmingen (1933 PD)→(?) Bruns (1939 oP)→1941 (Posen)→(戦後ポ *Wolf (1930) → 1931 (Freiburg) ーランド領となる) v. Hentig (1931 oP) → 1934 (Bonn) Peters (1942 oP) → 1946 (Münster) Dahm (1934)→1939 (Leipzig) Halle (戦後東独の大学となる) Schaffstein (1935)→1941 (Strassburg) H. Mayer (1944 oP)→1963 (引退) *Finger→1934年 Gerichtsmaal に発表したナ Schröder (1948 oP)→1955 (Tübingen) チス刑法批判の論文未完のまま 行方不明 Geerds (1959 PD)→1964 (Frankfurt) となった Hellmer (1961 PD) Schwinge (1932)→1936 (Marburg) Gemmingen (1940 oP)→1943 年より不明 Naucke (1964 PD)→1964 (oP) Hamburg-Köln Aschaffenburg→1934(追放)→1944 (死亡) Liepmann 1928 (死去) Baumgarten (1920 oP)→1923 (Basel) Wegner (1924 PD)→1926 (Breslau) *Bohne (1923 oP)→1957 (死亡) *E. Schmidt (1929 oP) → 1935 (Leipzig) Coenders→1963 (死亡) Sieverts (1932 PD)→1933 (Marburg) Peters (1931 PD)→1942 (Greifswald oP) Sieverts (1934 oP) Boldt (1935 PD)→1936 (Königsberg) Tesar (1935 oP)→1949 (引退) Welzel (1935 PD)→1937 (Göttingen) Henkel (1951 oP) Lange (1951 oP) Hardwig (1953 PD)→1959 (ao) Sax (1952 PD)→1957 (Würzburg) Brauneck (1958 PD) Lang-Hinrichsen (1954 HP)→1962 (Mainz) Roxin (1962 PD)→1962 (Göttingen) Klug (1961 oP) Schmidhäuser (1963 oP) Oehler (1961 oP) Heidelberg Warda (1961 PD)→1962 (Erlangen) Mittermaier (1899 ao)→1900 (Bern) Königsberg(戦後はソ聯領となった)

Kohlrausch (1903 oP)→1904 (Königsberg)

Sax (1957 oP) Spendel (1962 oP)

Maurach (1947 ao) → 1948 (oP)

5

を完全な形で整理して、公刊してゆくようになるであろう。 を完全な形で整理して、公刊してゆくようになるであろう。 を完全な形で整理して、公刊してゆくようになるであろう。 を完全な形で整理して、公刊してゆくようになるである。 を完全な形で整理して、公刊してゆくようになるである。 を完全な形で整理して、公刊してゆくようになるであろう。 を完全な形で整理して、公刊してゆくようになるであろう。 を完全な形で整理して、公刊してゆくようになるであろう。 を完全な形で整理して、公刊してゆくようになるであろう。

る。 たばかりに、我が国にはモノグラフィーが生れにくかつ た の で あ現実にはそれがなかつたのである。完全な資料のカタログがなかつ現実にはそれがなかつたのである。完全な資料のカタログがなかった。だが、

にその分だけの時間を余分にかけうるよう御利用になるなら幸であれた。一生として本来は秘蔵しておくべき性質のものであるかも知れない。作品の累積を出ないで終る。それでは余りにも情ないではないか。私の同世代の人々、そして少しあとから刑法学を研究しはじめた人々が、少なくとも西ドイツの刑法学の文献に関する限り、この資人々が、少なくとも西ドイツの刑法学の文献に関する限り、この資外によつて各値でそれを調べる時間だけでもはぶけて、実質的検討科によつて各値でそれを調べる時間だけでもはぶけて、実質的検討科によつて各値でそれを調べる時間だけでもはぶけて、実質的検討を会分にかけうるよう御利用になるなら幸であれるのが、から、というないでは、一般に対している。

この御二人からひそかに学んだのである。との御二人からひそかに学んだのである。を蒐集し、検討し、論証するという学問的態度のきびしさを、私は変料をもおろそかにせず、問題の核心をつくに当つて、厳密に資料を見なった。又、我が法学部の英修道教授、手塚豊からの感謝の意を表したい。又、我が法学部の英修道教授、手塚豊からの感謝の意を表したい。又、我が法学部の英修道教授、手塚豊からの郷二人からひそかに学んだのである。

インガー氏に対して、多くの御援助をかたじけなうしたことを、感れッセマー、バックマンの両君、法経学部研究室の図書係フライデルと、との地位を与えて下さつた。又、プラーガ法経学部長、私に客員教授の地位を与えて下さつた。又、プラーガ法経学部長、に対し厚く御礼申上げたい。殊に、キールワイン教授は学長としてに対し厚く御礼申上げたい。殊に、キールワイン教授は学長としてに対し厚く御礼申上げたい。殊に、キールワイン教授は学長として、アール大学の三人の教授、マイホーファー、カウフマン(アースガー氏に対して、多くの御援助をかたじけなうしたことを、感じたりに対している。

 満とともに書き記しておきたい。

要するに、本資料はこれらの多くの方々の御厚意と御協力によつ

- (1) 佐伯千仞·刑事法講座第二巻三〇九頁。
- (3) しかし、その鑑定人論 Der psychiatrische Sachverständige im
- (4) 後に列記する彼の博士論文と教授資格請求論文。Der Arzt im Strafrecht, 1939. Arztliches Strafrecht, in Ponsold: Lehrbuch der Gerichtlichen Mediain. 1950, usw. Aktienstrafrecht, in: Grosskommentar zum Aktiengesetz, bearb. v. Gadaw, Heinichen us, 1940.
- 年一二号三三頁以下。(5) この問題につき、宮沢浩一・社会的行為論、綜合法学一九六三
- い・(6) フィナリストとしてのシャフスタインについて研究されていな
- 発言・特に四四頁、四九頁参照。(7) ドイツ刑法学の現状と評価、ジュリスト三一三号における私の
- (8) ラートブルフ著・菊池栄一・宮沢浩一共駅・一法律家の生涯・(8)
- (9) 宮沢浩一・一九六四年度西ドイツ刑法学会の情況・法律のひろ
- (2) Geerds, Grünwald, Hanack, Lenckner, Naucke, Roxin, Wards

質料 編

以下において使用する略語は次の通りである。

rechtskongress in Athen 1957. DJZ......Deutsche Juristenzeitung. DR Zeitschrift für das gesamte Familienrecht) / Frag. d. Todomtr...... EuF.....Ehe und Familie im privaten und öffentlichen Recht (ab 1962 DS.....Deutsches Strafrecht. DVB1.....Deutsches Verwaltungsblatt. Deutsche Rechtswissenschaft. DRZschr......Deutsche Rechts-Zeitschrift.Deutsches Rocht. DRiZ.....Deutsche Richterzeitung. DRW..... sche Beiträge.....Deutsche Beiträge zum VII. Internationalen Strafsophie. BB.....Betriebsberater. DAR.....Deutsches Autorecht. Deut-Universitatis Saraviensis. ARSP...Archiv für Rechts- und Sozialphilo-Gegenwartsfragen der kriminalbjologischen Gesellschaft. MDR..... schrift. JW1.....Jugendwohl. JZ.....Juristenzeitung. K.Biol.G...... Rundschau. JuS.....Juristische Schulung. JW.....Juristische Wochen-.....Juristische Blätter JJb......Juristenjahrbuch. JR......Juristische recht. GS.....Gerichtsmal. Jb. f. OR.....Jahrbuch für Ostrecht. JBI Fragen der Todesstrafe, 1962. GA......Goltdammer's Archiv für Straftung. Pol. Pra.....Polizeiliche Praxis. Rev. int. def. src......Rovue enschrift. N. Pol......Neue Polinel. öff. Verw......Öffentliche Verwalnational de droit pénal comparé SJZ.....Süddeutsche Juristenzeitung Kriminologie und Strafrechtsreform. NJW...,...Neue Juristische Woch-Monateschrift für Deutsches Recht. MKri......Monateschrift für Internationale de Défense Sociale. Rev. int. dr. pén.Revue inter-AcP.....Archiv für civilistische Praxis. Ann. Uni. Sar......Annales

バウマン (Jürgen Baumann)

一九五〇年、ミュンスター大学のペータースに Die Narkonnalyse 一九五〇年、ミュンスター大学のペータースに Die Narkonnalyse を提出して学位を得た。この論文はタイプ印刷で、公刊されていない。一九五五年にミュンスター大学私講師となつた。請求論文は、Der strafrecktiche Schutz bei den Sicherungerechten des modernen Wirtschafteverkehre. Zugleich ein Beitrag zur Lehre von der Abhängigkeit des Strafrechts vom Zivilrecht. 1956. である。

発表された論文数の多いことは驚くべきものがある。時事問題にも以下にあげる著作群に見られる通り、その研究分野の広いこと、

一九六〇年にチュービンゲン大学教授に招聘され、今日に至つて

つと言わせ、シュミット、ラックナーから強い批判を受けたが、そ思わせる。一九六三年に刑法草案の総則私案を発表して、学会をあ象としているためか、説明が少しくどい ように 思われる。象としているためか、説明が少しくどい ように 思われる。積極的に発言するし、いわゆる勘のいい作品が多いが、掤り下げの

7

れぞれに反論を書いた。

Strafrecht, Allgemeiner Teil. 1. Aufl. 1960, 2. Aufl. 1961, 3. Aufl. 1964. / Zur Problematik der Bestechungstatbestände, 1961. / Grundbegriffe und Systeme des Strafrechts. Eine Einführung an Hand von Fällen, 1962. / Entwurf eines Strafgesetzbuches. Allgemeiner Teil, 1963.

文

手がけたものが多い。

私講師時代に弁護士を兼ねていたためか、民事法との関連領域を

Pönalisierung von Kaufverträge durch Eigentumsvorbehalt. Z Strw. Bd. 68, 1956. S. 522 ff. / Schuldtheorie und Verbotsirrtum im Zivilrecht? AcP. 1956, S. 495 ff. / Pfandenstrickung beim Verkauf gepfändeter Gegenstände, NJW. 1956, S. 1866 ff. / Änderung des Prozessgegenstandes im Zivil- und Strafprozess. ZZ P. Bd. 69. 1956. S. 356 ff. / Betrug durch vom Geschäftspartner nicht verstandene Vertragsformulierung, JZ. 1957, S. 367. ff. /

Strafbare Zahlvaterschaft, EuF. 1957, S. 234 ff. / Wahrheit der kungen zur Beseitigung der Erfolgsrelevanz). GA 1958. S. 193ff. Die Anklagenkatalogen im Strafrecht (Weitere kritische Bemerfolgequalifizierten Delikte. ZStrw. Bd. 70, 1958. S. 227 ff. / 1957. S. 405 ff. / Kritische Gedanken zur Beseitigung der erordinaria (Zugleich eine Entgegnung zu GA 1955. S. 40 ff). GA fahrlässigen Handlung, MDR, 1957. S. 646 ff. / Poena extrades Erfolges, JR. 1957. S. 415 ff. / Die Rechtswidrigkeit der Urtellagründe, NJW. 1957. S. 1017 ff. / Der Erfolg als Causa Sperrkraft der mit unzulässigen Mitteln herbeigeführten Aussage. Straffose Nachtat und Gesetzeskonkurrenz. MDR, 1959. S. 10 ff. / Körperverletzung oder Freiheitsdelikte? NJW. 1958, S. 2092 ft. / ff. / Die Beweislast bei § 199 StGB. NJW. 1958, S. 452 ff. / tung bei Fehlvorstellung über den Tatmittler? JZ. 1958, S. 230 recht, MDR. 1958, S. 394 ff. / Mittelbare Täterschaft oder Anstifgefangenen, DRiZ. 1959, S. 379 ff. / Schuldvermutung im Ver-GA. 1959, S. 33 ff. / Der Briefverkehr des Untersuchungs-Die natürliche Wortbedeutung als Auslegungsgrenze im Strafkehrsstrafrecht? NJW, 1959, S. 2293 ff.

チュービンゲン大学教授就任後 Implizierte Rechtswidrigkeit bei Tathestandsfassung, JZ, 1960, S. 8㎡. / Zur Diskussion um die Todesstrafe, ARSP, 1960. S. 73㎡. / Prima facie Beweis in Strafsschen. MDR, 1960. S. 355㎡. / Probleme der Fahrlässig-

keit bei Strassenverkehrsunfälle. K. Biol. G. 1960. S. 100 ff. / f. E. Schmidt. 1961. S. 525 ff. (紹介・光藤景皎、法学論叢七二卷一 chungstatbestände. BB. 1961. S. 1057 ff. / Die Bedeutung des verkehr? NJW. 1961. S. 1745 ff. / Zur Problematik der Besteund Betrug, NJW. 1961. S. 1141 ff. / Notwehr im Strassen-Unrechtsbewusstseins, JZ. 1961. S. 564 ff. / Amtsunterschlagung Justiz und Politik. JZ. 1961. S. 18 ff. / Zur Teilbarkeit des S. 41 ff. / Neue Haftgründe. JZ. 1962. S. 649 ff. u. 689 ff. / DVB1. 1962. S. 806 ff. / Schuld und Verantwortung. JZ. 1962. Verfassungsmässigkeit des § 2 Abs. 4 VZwG. Eine Erwiderung. den Dieb! (Trunkenheit am Steuer) DAR, 1962. S. 93 ff. / Zur Geschenken durch Bundesbedienstete. BB. 1962. S. 503 ff. / Haltet senerscheinung. 1961. S. 162 ff. / Annahme von Belohnungen und Dogma und Praxis, in: Folgenlose Verkehrsgefährdung als Mas-号(○三頁以下) / Verkehrngefährdung als Ordnungswidrigkeit, Artikels 2 GG für die Freiheitsbeschränkung im Strafprogess. F. Umkehrverhältnis zwischen Versuch und Irrtum im Strafrecht. Rechtsmissbrauch bei Notwehr. MDR. 1962. S. 349 ff. / Das Tat. NJW. 1962. S. 1793 ff. / Schuld und Verantwortung. Ein burger Rundbrief. 1962. S. 29 ff. / Täterschaft und Teilnahme. Beitrag zur juristischen Würdigung des Falles Eichmann. BGH. NJW. 1962. S. 374 ff. / Das Verhalten des Täters nach der NJW. 1962. 16 ff. / Die Täterschaft in der Rechtsprechung des

S. 235 ff. / Eine Auseimandersetzung zum Allgemeinen Teil eines Noch einmal zur ethischen (kriminologischen) Indikation. ZF. 1963. tigheit im Strafrecht, in: Summa iniuria etc. 1963. S. 117 ff. / lung: NJW. 1963. S. 561 ff. / Grenzen der individualen Gerech-S. 802 ff. / Beihilfe bei eigenhändiger voller Tatbestandserfül-MDR. 1963. S. 87 ff. / Zum Entwurf eines StGB. MDR. 1963. Laufzeitgeidstrafe. JZ. 1963. S. 733 ff. / Strafbare Demokratie? Urbeil, JE. 1963. S. 110 ff. / Von den Möglichkeiten einer July 1969 S. 51 ft, 85 ft. u. 125 ft. / Gedanken zum Eichmannder Selbet justiz gegen Erpressung? MDR. 1965. S. 346 ff. Straffecht und vom Sinn staatlichen Strafens. JBI, 1965. S. 113 W. 1964, S. 1398 ff. / Der Schuldgedanke im heutigen deutschen NJW. 1964. S. 705 ff. / Rechtsmässigkeit von Mordgeboten. NJ 1964. S. 57 ff. / Missbrauch polizellicher Aufforderungsschreiben. ff. / Die Dienst- und Vollzugsordnung vom 1, 12, 1961, MKrim. sende politische Reinigung der deutschen Justiz. JZ. 1964. S. 737 ziplinarstrafe: JZ. 1964. S. 612 ff. / Unabdingbare und abschlieskünftigen StGB. GA. 1964. S. 193 ff. / Kritische Gedanken zur Disff. Beeinträchtigung der Verbrechensverfolgung durch die Stra-Three manovelle? JuS. 1965. S. 172 ft. / § 53 StGB als Mittel

伝いをして居た。「の下で助手をして居り、その刑法教程の総論第九版から改訂の手での下で助手をして居り、その刑法教程の総論第九版から改訂の手代の半ばを過ぎているであろう。長い間、ミュンヘン大学のメッガーブライについては余り多くのことが知られていない。年齢は四〇ブライについては余り多くのことが知られていない。年齢は四〇

に転じて、今日に至つている。年にスイスのローザンヌ大学教授、一九六二年にベルリン自由大学学位論文も、請求論文も公刊されていないようである。一九六〇

着權

Mezger-Blei: Strafrecht. Studienbuch. Allgemeiner Teil. 10. Aufl. 1963. Besonder Teil. 8. Aufl. 1964.

論文

nungerecht des Mieters. NJW. 1953. S. 211 ff.

ミュンヘンにおける司法官試補時代

Beschränktes Aufrech-

wind Yahrlässigkeit. NJW. 1954. S. 500 ff. / Zum strafrechtlichen Gewaltsbegriff. NJW. 1954. S. 500 ff. / Zum strafrechtlichen Gewaltsbegriff. NJW. 1954. S. 583 ff. / Nochmals: Sind auch die vor dem 1. 10. 1953 in ein Arbeitshaus Eingewissenen stets schon nach 4 Jahren zu entlassen? NJW. 1954. S. 1756 ff. / Sind Eltern und Kinder des Getöteten Verletzte im Sinne des § 172 St. 1750 ff. NJW. 1955. S. 332 ff. / Probleme des polizeilichen Waffengebrauchs. JZ. 1955. S. 625 ff. / Die Beeinträchtigung der Strassenverkehrssicherheit als Tatbestandsmerkmal des § 315 a. St. GB. NJW. 1957. S. 620. / Falschverständigung durch Beweis-

mitteffliktion. GA. 1957. S. 139 ff. / Das bayerische Landesstrafund Verordnungugesetz. JZ. 1957. S. 602 ff.

ローザンヌ大学教授就任講演 Der Strafrechtsschutz von Familienordnung und Familienpflicht. EuF. 1961. S. 137 ff. / Die Staatsgefährdungsverbrechen des § 94 StGB. GA. 1961. S. 225 ff. ベルリン曲由大学教授 Edmund Mezgert JR. 1962. S. 175 f. / Abtreiburg und Schwangerschaftsunterbrechung. ZF. 1962. S. 403 ff. / Einzelfragen der Strafrechtsnorm: Idee und Wirklichkeit.

ボッケルマン (Paul Bockelmann)

Univ. Tag. 1964. S. 90 ff.

聞くので、学界のまとめ役としても貴重な存在である。 が上手であつて説得力のある議論をする。若手の教授連の話もよくが上手であつて説得力のある議論をする。若手の教授連の話もよく

著書

wy チンゲン大学教授時代 Über das Verhältnis von Täterschaft und Teilnahme, 1949. / Die Unverfolgbarkeit der Abgeordneten nach deutschem Immunitätsrecht, 1951. / Gesetzesrecht und autonomes Recht, 1953. / Strafrechtliche Untersuchungen, 1957. ハイデルベルク大学教授時代 Aufgaben und Aussichten der Hochschulreform. Zur Hochschulkritik und hochschulpolitischen Lage, 1962.

ミュンヘン大学教授時代 Einführung in das Recht. 1963. 発行年度不詳のもの Einheit und Selbstbestimmung der "Dritten Gewalt".

論文

Bemerkungen zu dem Buch von Georg Dahm "Der Tätertyp im Strafrecht". ZAk. 1940. S. 311 ff. / Zur Lehre von der Ideatkonkurrenz. ZAk. 1941. S. 293 ff. / Die Verordnung zum Schutz gegen jugendliche Schwerverbrecher. ZStrw. Bd. 60, 1941. S. 351 ff. / Tatstrafe und Täterstrafe. ZStrw. Bd. 60, 1941. S. 417 ff. / Der Unrechtsgehalt des Betruges. F. f. Kohlrausch, 1944. S. 226 ff.

ゲッチンゲン大学教授時代 Cesare Lombroso. Pol. Pra. 1949. S. 56 ff. / Franz Exner. Pol. Pra. 1949. S. 214 ff. / Strafe und Erziehurg, F. f. Gierke. 1950. S. 27 ff. / Kaspar Hauser. Pol.

Bd. 63, 1951. S. 13 ff. (紹介·平野龍一、刑法権誌二巻一号一九二頁 S. 620 ff. / Zur Schuldlehre des Obersten Gerichtshofes. ZStrw. Kriminalität seit der Währungsreform. Kriminal. 1951. S. 105 ff. Strafensystems. JZ. 1951. S. 494 ff. / Die Entwicklung der schen Absicht im Sinne des § 265 KGB. SJZ. 1950, S. 682 ff. / Vortat. NJW, 1950. S. 850 ff. / Über den Begriff der betrügeri-Fra. 1950. S. 186 ff. / Über das Verhältnis der Hehlerei zur GB statthaft ? MDR. 1953. S. 3 ff. / Zur Problematik der gericht-S. 23 ff. / Zur Strafbarkeit der Scheinausspielung. Kriminal. JW: 1952. S. 855 ff. / Richter und Gesetz. F. f. Smend. 1952. JZ. 1952, S 641 ff. / Zur Strafbarkeit der Scheinausspielung. N 1952. S. 461 ft. / Geschäftsverteilung und gesetzlicher Richter. 以上) / Zum Begriff des Vermögensschaden beim Betrug. JZ. / Über das Verhältnis der Begünstigung zur Vortat. NJW. 1951. Raum" und "Behältnis". JZ. 1951: S. 296 ff. / Zur Reform des zeugen. Zugleich ein Beitrag zu den Begriffen "umschlossener Franz von Liszt. JZ. 1950. S. 154 ff. / Der Diebstahl aus Fahr-F. f. Niedermeyer, 1953. S. 7 ff. / Nochmals über das Verhältnis 1953. S. 35 ff. / Let eine berechtigende Auslegung des § 246 St Weitergabe ehrverletzender Tatsachen strafbar, die der Beleidigte von Täterschaft und Teilnahme. GA. 1954. S. 193 ff. / Ist die rechten politischen Handeln. Bemerkungen zu Stifters "Witiko". Höhen Selbstverwaltung. öff. Verw. 1953. S. 525 ff. / Vom

selbst mitgeteilt hat. JR. 1954. S. 327 ff. / Zur Strafbarkeit der eidbeihilfe durch Unterlassen. NJW. 1954. S. 697 ff. / Der ドイツにおける刑法改正論、二五頁以下)/ Zum Problem der Meinwirken ? Mat. Str. Ref. Bd. 1. 1954. S. 29 ff. (紹介·井戸田保) konsquentes Täterstrafrecht auf ein neues Strafgesetzbuch austung vom Versuch. JZ. 1954. S. 468 ff. / Wie würde sich ein Kuppelei. JR. 1954. S. 361 ff. / Zur Abgrenzung der Vorbereichung des Bundesgerichtshofes zur Abgrenzung der Vorbereitung recht. F. f. Mezger. 1954. S. 363 ff. / Die jüngste Rechtspre-Behandlung unvollkommener Verbindlichkeiten im Vermögensstrafsche Beiträge) S. 46 ff. (紹介·藤木英雄、法学協会雑誌七五卷一号六 GA. 1957. S. 357 ff. / Die moderne Entwicklung der Begriffe Strafprozessuale Zuständigkeitsordnung und gesetzlicher Richter participation à l'infraction. Rev. int. dr. pén. 1956. p. 167 ff. / L'orientation moderne des notions d'auteur de l'infraction et de Rücktritt vom Versuch freiwillig? NJW. 1955. S. 1417 ff. gischer Sachverständiger. GA. 1955. S. 321 ff. / Wann ist der vom Versuch. JZ. 1955. S. 193 ff. / Strafrichter und psycholo-Nachweis des Hehlervorsatzes. NJW. 1954. S. 1745 ff. / Die Täterschaft und Teilnahme im Strafrecht. ZStrw. 1957 (Deutprozess dem Grundgesetz ? NJW. 1958. S. 889 ff. 六頁以下) / Entspricht die Zuständigkeitsordnung im Straf.

ハイデルベルク大学教授時代 Zur Problematik des Diebstahls

Abs. 5 StGB. NJW. 1959. S. 1849 ff. / Zur Konkurrenz der

trotz ausreichender Gläubigersicherung. NJW. 1961. S. 145 ff. / Risiko des Verkehrsteilnehmers. NJW. 1960. S. 1277 ff. / Zur Straffrechtspflege. NJW. 1960. S. 217 ff. / Das strafrechtliche 1960 und seine Kritiker. JJb. 1960. S. 90 ff. / Öffentlichkeit und dung als Massenerscheinung. 1961. S. 181 ff. / Die rationale Gründe für folgenlose Gefährdungsdelikte, in: Folgenlose Verkehrsgefährdanken zur Vereinfachung des Verkehrsstraf- und Verkehrsrechts und Einwilligung des Verletzten. JZ. 1962. S. 525 ff. / Ge-木村帶子、法学論養七一巻六号一二四頁以下) / Operativer Eingriff verübt durch Schweigen. F. f. E. Schmidt. 1961. S. 437 ff. (紹介: rechtsreform. Vortr. Hess. Hochschulw. 1961. S. 138 ff. / Betrug Aufkläungspflicht. NJW. 1961. S. 945 ff. / Stand der Straf-Rechtliche Grundlagen und rechtliche Grenzen der ärztlichen Reform des Verkehrsstrafrecht. DAR. 1961. S. 181 ff. / Betrug Vermögensdelikte, JZ. 1960. S. 621 ff. / Der Strafgesetzentwurf gegen die Todesstrafe. Frag. d. Todesstr. 1962. S. 137 ff.

1964. S. 211 ff.

ブラウネック (Anna-Eva Brauneck)

犯罪を手がけている人である。一九三六年に Pestalozzi's Stallung 犯罪を手がけている人である。一九三六年に Pestalozzi's Stallung Str. で学位をとり、一九五八年に私講師となつた。請求論文は Die Entwicklung jugendlicher Straftäter, 1961. である。

論文

Gespräch mit der deutschen Jugend, 1954. / Zum Schuldstrafrecht des neuesten Entwurf eines Strafgesetzbuches. MKrim. 1958 S. 129 ff.

以講師時代 Der strafrechtliche Schuldbegriff. GA. 1959. S. 261ff. / Zu Lombrosos Methode. MKim. 1961. S. 230 ff. / Die kriminell schwer gefährdeten Minderjährigen. MKrim. 1963. S. 12 ff. / Was lässt die Kriminologie vom Strafrecht übrig? MKrim. 1963. S. 193 ff.

プルンス (Hans-Jürgen Bruns)

rooket. Abkandl. Nr. 295, 1931. で学位を取得した。バウムガルテン Wie Organe juristischer Personen, die im Interesse ihrer Körper-に転じた。戦後は一九五二年にエルランゲン大学教授に就任して今 Strafrechts vom zivilistischen Denken. Beiträge zu einer selbstür-はぞの後一九三三年にスイスのパーゼル大学に転じたので、プルン sur strafrechtlichen Beurteilung der Dinmanngesellschaft) Strafein Beitrag zur Methode der Rechtsanwendung im Strafrecht und echaften Rechtegüter Dritter verletzt, bestraft werden? (Zugleich ンクフルト大学教授パウムガルテンのもとに提出した論文 Können 自に至つている。 九三九年員外教授に任じられた。一九四一年ポーランドのポーセン ***の 1938. を公刊し、 同年グライフスワルト大学私講師、 一 digen, specifisch strafrechtlicken Audegunge- und Begriffsbildungs-スラウ大学に転じてから一九三八年に請求論文 Die Befreiung des スはフランクフルト大学のヘンケルのもとに学び、節とともにプレ 大学(当時ドイツ領であった。現在はポヅナン Poznan という)の教授 | 九〇八年三月二八日、デューレンに生れた。一九三一年、フラ

į

エルランゲン大学に在任中の作品 Der untaugliche Täter im Skrafrecht. 1955. / Teilrechtskraft und interprozessuale Bindungswirkung des Skrafurteils. 1961.

プレスラウ大学助手時代 Die Organeigenschaften des Täters als Strafhinderungsgrund beim Handeln zugunsten der Körperschaften. DJ. 1934. S. 1589 ff. / Die "Bestrafung aus dem mildesten Gesetz" bei wahlbedeutiger Tatfeststellung (§ 2 b StGB). DS. 3. Jg. 1936, S. 277 ff.

パティフスワルト大学時代 Zur Frage der Strafbarkeit des "Versuchs" eines untauglichen Subjekts. Änderung der bisherigen Rechtsprechung des Reichsgerichts? DS. 5 Jg. 1938. S. 161 ff. / Die Bedeutung des krankhaften oder rauschbedingten Irrtums für die Feststellung einer mit Strafe bedrohten Handlung im Sinne der §§ 42 b und 330 a StGB. DJ. 1939. S. 225 ff. / Zur Frage der Autonomie der strafrechtlichen Begriffsbildung. DRW. 1940.

ポーヤン大学教授時代 Beweiserhebung und gerichtliche Aufklärungspflicht. ZAk. 1941. S. 112 ff. / Erweiterung des selbständigen Strafzumessungsbefugnisses des Revisionsgerichts. ZAk. 1941. S. 143 ff. / Untreue durch Bildung "schwarzer Kassen." ZAk. 1941. S. 268 ff. / Zur Lehre vom Tätertyp der Volksschädlings-VO. ZAk. 1941. S. 398 ff. / Über Häufung und Auswahl konkurrierender Sicherungsmassregeln (§ 42 n StGB). ZStrw. Bd. 60. 1941. S. 474 ff. / Zur Verhängung der Todesstrafe nach § 1 der Strafgesetzbuchnovellen v. 4. 9. 1941. ZAk. 1943. S. 53 ff.

エルランゲン大学教授時代 Das Verlobnis des Heiratsschwind-

S. 12 ff. / Sicherungsmassregeln und Verschlechterungsverbot. ters im Zivil-, Straf- und Prozessrecht. MDR. 1953. S. 458 ff. / a StGB). Ein Rückblick auf Rechtsprechung und Lehre aus dem 730 ff. / Die Entziehung der Fahrerlaubnis (§ 42 m StGB, § 111 Über die Organ- und Vertreterhaftung im Strafrecht. JZ. 1954. denfälschung an Stimm- und Wahlzetteln? NJW. 1954. S. 456 ff. / Stransenverkehrs vom 19.12, 1952, GA, 1954, 161 ff. / Urkunersten Jahr seit dem Inkrafttreten des Gesetzes zur Sicherung des Ein Beitrag zur Reform des Strafverfahrensrechts. JZ. 1954, S. 17. / Zur neuesten BGH-Rechtsprechung über die Hehlerei des Methode der Rechtsfindung im Strafrecht. NJW. 1954. S. 948 und Wahlzetteln? Ein notwendiges Wort der Erwiderung zur 1954. S. 857 ff. / Nochmals: Urkundenfälschung an Stimm-Untreue im Rahmen rechts- oder sittenwidriger Geschäfte? NJW. Mezger. 1954. S. 335 ff. / Zur Frage der passiven Beleidigungsordnung auch für und gegen Verbrechen untereinander? F. f. "Gewerbegehilfen". NJW. 1954. S. 1597 ff. / Gilt die Strafrechtsfühigkeit handelsrechtlicher Kapitalgesellschaften im Strafrecht. Lehre bett dem Inkraftreten der 88 23 ff. StGB n. F.) GA. 1966. Strafzumessungsiehre. NJW. 1956. S. 241 ff. / Die Strafaus-Strafrecht? JZ. 1956. S. 147 ff. / Zum gegenwärtigen Stand der NJW. 1955. S. 689 ff. / Venire contra factum proprium im setzung zur Bewährung (Ein Rückblick auf Rechtsprechung und

S. 193 ff. / Zur strafrechtlichen Diskussion über das Züchtigungsdeklaratorischer Urteile der Zivil- und Verwaltungsgerichte auch recht des Lehrers. JZ. 1957. S. 410 ff. / Bindet die Rechtskraft an Hand der Entscheidung BGH. St. 5. 106. F. f. Lent. 1957 S. den Strafrichter? Ein Beitrag zur Präzisierung der Problemstellung Volltrunkenheit, JZ. 1958. S. 105 ff. / Faktische Betrachtungs-107 ff. / Zur neuesten Rechtsprechung über die Strafbarkeit der regeln. Zugleich ein Beitrag zum Geltungsbereich des Grundsatzes Überzeugung bei "Prognose-Entscheidung" über Sicherungsmaseweise und Organshaftung. JZ. 1958. S. 461 ff. / Richterliebe folgungsverjährung beim bewusst fahrlässigen Erfolgsdelikt? NJW. in dubio pro reo. JZ. 1958. S. 647 ff. / Wann beginnt die Vertischen Problematik strafrichterlicher Auslagen. NJW. 1959. S. gen und Weisungen. GA. 1959. S. 193 ff. / Zur rechtsdogma-Rechtsgrundlage und Zulässigkeitsgrenzen strafrechtlicher Aufaim StGB-Entwurf 1956. ZStrw. Bd. 71. 1959. S. 210 ff. / 1958. S. 1257 ff. / Die Massregeln der Besserung und Sieherung GA. 1960. S. 161 ff. (紹介·宮沢浩一、本誌三五巻一号:《三夏以下》) den pflichtvergessenen Vater?) EuF. 1959. S. 129 ff. / Die 1393 ff. / Unterhaltspflichtverletzung und Gleichberechtigung. Grenzen der eidlichen Wahrheitspflicht des Zaugen, insbesondere (Pflichterfüllung der Mutter als "Strafausschliessungsgrund" für bei Tonbandaufnahmen über unwichtige Aussagen im Strafprozess.

Erwicht and Rochtskraft des Straftschie die zusätzliche Verfelgung machträglich eingetresener strafschärfender Tatfolgen? JZ. 1960. S. 14 年. / Der Verbrecher in heutigen Straftscht. SuS. 1960. S. 14 年. / Recht und Grade. SuS. 1960. S. 107 fl. / Zur Positzellungswirkung des rechtskräftigen Straftuteils. F. f. E. Estimiset, 1961. S. 602 fl. (現本、本本教育研究: 法計算報与○無理中心無理中心
建筑技术) / Die "Generalprävention" als Zweck und Zumessungsgenne der Straft? Eine Analyse der Rechtsprechung. F. f. v. Weber. 1963. S. 75 fl. / Zur Problematik rausch-, krankheitzeitsfür. Sicherungs- und Schadensersatzrecht. JZ. 1964. S. 473

ブッシュ (Richard Busch)

#のサビアルト・シェミットのもとに提出した論文。例ypressing sad Berug. Bis Versich der Abgrensing beider Delikte gegeneinan-Berug. Bis Versich der Abgrensing beider Delikte gegeneinan-berug. Bis Versich der Abgrensing beider Delikte gegeneinan-berug der Wrbinde, 1939. fragen der wrafrechtichen Veruntwortlichkeit der Verbinde, 1939. fragen der wrafrechtichen Veruntwortlichkeit der Verbinde, 1939. fragen der wrafrechte Delikte gegeneinan-berug der Wrbinde, 1939. fragen der wrafrechte Veruntwortlichkeit der Verbinde, 1939. fragen der wrafrechte von der verwart veruntwortlichkeit der Verbinde, 1939. fragen der wrafrechte von der verwart verw

をい、この判決を契機として貝的的行為論が強力な論陣をはつたこない。この判決を契機として貝的的行為論案外、こうした事実を日本の学界では見逃して居る。目的的行為論案外、こうした事実を日本の学界では見逃して居る。目的的行為論案外、こうした事実を日本の学界では見逃して居る。目的的行為論といいま常に大きな影響を実務に与えたことを指摘しておきたい。といい非常に大きな影響を実務に与えたことを指摘しておきたい。といい非常に大きな影響を実務に与えたことを指摘しておきたい。この判決を契機として貝的的行為論が強力な論陣をはつたこない。この判決を契機として貝的的行為論が強力な論陣をはつたこない。この判決を契機として貝的的行為論が強力な論陣をはつたことがある。

FAプチッヒ時代 Betrug durch Verschweigen, 1934. / Straffrecht und Straffrozenwecht, 1940. ボン大学時代 Moderne Wandlungen des Verbrecherisiehre, 1949

文

沢法学四巻一号一頁以下)

またいます。と大学無額時代 Kritische Bemerkungen zum poinischen Strafgesetzbuch. ZStrw. Bd. 55. 1936. S. 621 ff. / Betrug durch Verschweigen. F. f. R. Schmidt. 1936. S. 119 ff. / Die systematische Behandlung der sog. Vermögensdelikte im kommenden Strafrecht. ZStrw. Bd. 56. 1937. S. 676 ff. / Zur Neuordnung des Strafreifshreinsrechts. MKri. 1938. S. 88 ff. / Wesenszüge des kommenden Strafverfahreins. MKri. 1940. S. 193 ff. u.

ボン大学時代 Das Verbrechen gegen die Menschlichkeit als

A. 1955. S. 257 fl. / Zum Verbrauch der Strafklage bei späterer Gebot der guten Sitten. SJZ. 1949. S. 650 ff. / Die ersten zwei 1949. / Die Rechtspflicht zur Hilfeleistung ergibt sich aus dem Crimiliage des Organisationsverbrechens. ZentJusBl. f. brit. Zone. 34. / Die Bände 3-7 der strafrechtlichen Entscheidungen des Tatbestands und Verbotsirrium, F. f. Mezger, 1954, S. 165 ff. / hefs, DRiZ. 1953. S. 44 ff. / Der Verbotsirrtum. Deut. L. Ref. 1/ Zum Verhältnis von unektlicher Falschaussage und Meineid. G Binde der strufrechtlichen Entscheidungen des Bundesgerichts-Bundesgerichtshofes, DRiZ, 1956. S. 124 ff. / Le contrôle du Erkenntzis anderweitiger Tatgestaltung. ZStrw. Bd. 68, 1956. S. L'erreur de dreit. Rev. int. dr. pen. T. 26, 1955, p. 309 et suiv. s. 4. Int. Kong. f. Rvgl. Paris. 1954. / Über die Abgrenzung von Bottrago) S. 101 H. (紹介·藤木英雄、法学協会雑誌七五巻二号一八 von Strafen und sichernden Massnahmen. 28trw. 1957 (Deutsche Kontrolle der Ermessensfreiheit des Richters bei der Festsetzung des mesures de súreté. Rev. int. dr. pén. 1956. P. 246 ff. / Die pouvoir d'appréciation du juge dans la determination des peines et Die Rechtsprechung des grossen Senats für Strafsschen des Bundes-Teil des Skrafgesetzbuches (Bände 8 bis 13), DRIZ. 1960. S. 208 ff. / 257 ff. / Entscheidungen des Bundesgerichtshofs zum Allgemeinen 八頁以下) / Über die vorsätzliche Tötung, F. f. Rittler. 1957. S. getichtshofs, DRIZ. 1980. S. 347 ff. / Zum Zengnis- und Unter-

suchungsverweitgerungsrecht der Angehörigen des Beschuldigiest. F.f.E. Schmidt. 1961. S. 569 fl. (紹介・光濃素板、法学論業や「巻川 中や八両式や) / Entscheidungen des Bundesgerichtshofs zum Besonderen Teil des Strafgesetzbuchs. DRiZ. 1962. S. 343 fl. / Begründung, Anfechtung und Revisibilität des Verwerfungsurteilsder 第329 I und 412 I StPO. JZ. 1963. S. 457 fl. / Zur gesetz-lichen Begründung der Strafbarkeit unschten Unterlassens. F. f. v. Weber. 1963. S. 192 fl. (紹介・中山南 / 法学编纂七十巻:申八八頁式下) / Entscheidungen des Bundesgerichtshofs zum Allgeineinen Teil des Strafgesetzbuchs. (Bände 14-18) DRiZ. 1964. S. 188 fl. / Die Zuständigkeit zur Berichtigung des Hauptverhandlungsprotokolls. JZ. 1964. S. 746 fl.

クラス (Wilhelm Class)

授いますでは、Tathestandes. Versuch eines Abrieses der Tutbestander theorie, erster Teil: Die Lehre vom Tatbestand. Str. Abh. Nr. 323. 1933. であつた。これは未完に終つた。 一九三四年ギーセン大学教授の指導を受け、一九三二年に私講師となつた。 前求論文はい表授の指導を受け、一九三二年に私講師となつた。 前求論文はい表授の指導を受け、一九三二年に私講師となった。 前求論文はいません。 するつた。これは未完に終った。 一九三四年ギーセン大学教授、そして一九三大年以来フランクフルト大学教授である。

整接性しているとごろをみると、有能な人であるらしい。 の表が目的ついだにすぎない。もつとも、これまでに二人の弟子をの表が目的ついだにすぎない。もつとも、これまでに二人の弟子をの表が表がにない。大へん勉強家であ

Zum Verhältnis des \$ 211 zu \$ 50 StGB. NJW. 1949. S. 83 ff. Geberalklausel im Straffecht. F. f. E. Schmidt, 1961. S. 122 ff. (紹介。宮内衛、法学論養七二巻四号:1111頁以下)

エンギッシュ (Karl Englisch)

現在西独刑法学会会長である。大柄で気品のある堂々とした体驅現在西独刑法学会会長である。大柄で気品のある堂々とした体驅現在西地別法学会会長である。大柄で気品のある堂々とした体驅現在西地別法学会を設定している。 およれ 1964 である。その後、一九二九年フライブルク大きでは現在でも故意過失を論ずる際に必見の文献といわれている有名をしてがはます。 Ast. 1964 である。その後、一九二九年フライブルク大きでは過ぎた。 Ast. 1964 である。 その後、一九二九年フライブルク大きでは過ぎた。 Ast. 1964 である。 大柄で気品のある堂々とした体驅現在西独別法学会会長である。 大柄で気品のある堂々とした体驅現在西独別法学会会長である。 大柄で気品のある堂々とした体驅現在西独別法学会会長である。 大柄で気品のある堂々とした体驅現在西独別法学会会長である。 大柄で気品のある堂々とした体驅現在西独別法学会会長である。 大柄で気品のある堂々とした体驅

の書評は法哲学界に対する重要な寄与と評価されている。 多くのすぐれた業績があるけれども、全刑法雑誌の書評欄に出る彼 で展開するタイプの学者を研究することは苦手であろうから、ウェ を追及しない学風のところでは、彼のような緻密な叢論を論説の形 がないところにあろう。何しろ体系書で評価し、体系書以外のもの て余り高くないようである。その一つの理由は彼にいわゆる体系書 点でラートブルフに似ている。もつとも、エンギッシュの理論刑法 な考え方、その鋭い分析力の優位に帰因することと思われる。 この て大きな損失である。彼は多くの著書もあるから、決して構成力の たいなら、左にあげるその論稿をつぶさに読まれるとよいと思う。 に断えずさらされているからでもある。若し、この事実をたしかめ の論文)、ウェルツェルの体系が常に動揺しているのは、彼の批判 ルツェルの学説を紹介したのも彼であるし(コールラウシュ祝賀論集 不足を云々することは当らないであろう。むしろ、その相対主義的 エンギッシュに体系書がないということは、たしかに学界にとっ エンギッシュの業績に対する評価は我が国では少数の例外を除い

看

学はラートブルフの刑事政策的な思考とは違うこと勿論である。

Die Kausalität als Merkmal der strafrechtlichen Tatbestände, 1931. この書はギーセン大学で一九三〇・三一年の冬学期に節のミ1931. この書はギーセン大学で一九三〇・三一年の冬学期に節のミ

ハイデルベルク大学時代 Die Einheit der Rechtsordnung. 1935.

喋る姿には哲人の風格がある。刑法理論学はもとより。法哲学にもろから、特に若い世代の信頼は厚い。上向き気味で、目をつぶつてで。明晰な議論を展開すること、人の異説にもよく耳を傾けるとこ

Engische Studien zur Gesetzesanwendung. 1943. 2. Aufl. 1960 / Engische und Vernichtung lebensunwerten Lebens in strafrechtlicher Beleuchtung. 1948. (紹介・平野龍一 刑法推誌 | 卷一号 | 九一夏以下) / Vom Weltbild des Juristen, 1950. / Die Idee der Konkretisierung in Recht und Rechtswissenschaft unserer Zeit. 1953. / Strafbarkeit der juristischen Person, Verh. z. 40. Deut. Jur. Tag., 1953. E. S 7 ff.

1956, 2. Aufl. 1959. (紹介・五十嵐清、法哲学年報、法と裁判二二八頁1956, 2. Aufl. 1959. (紹介・五十嵐清、法哲学年報、法と裁判二二八頁以下) / Die rechtliche Bedeutung der ärztlichen Operation, 1958. 本書は Fehler und Gefahren bei chirurgischen Operationen, Bd 日 begr. Stich u. Makkas, hergg. Stich u. Bauer, 4. neu bearb. Aufl. 1958. の別願である。 / Wahrheit und Richtigkeit im juristischen Benken. 1963. / Die Lehre von der Willenäfreiheit in der strafreihesphilosophischen Doktrin der Gegenwart, 1963. (紹介・平野龍一、法学総会業誌八〇巻五号大六五頁以下)

3

ギーセン大学時代 Die Verletzung der Erkundigungspflicht. Ein Beitrag zur Eidesreform. ZStrw. Bd. 52. 1932. S. 661 ff.

ハイデルベルク大学教授時代 Interessenjurisprudenz im Strafrecht. MKri. 1934, S. 65 ff. / Wesenschau und konkretes Orduungsgedanke im Strafrecht. MKri. 1938. S. 133 ff. / Ärztlicher Eingriff und Einwilligung. ZStrw. Bd. 58. 1939. S. 58 ff. / Zur

> S. 129 ff. / Zur Idee der Täterschuld. Kritische Betrachtungen Strafbarkeit unzüchtiger Handlungen mit Abkömmlingen. ZAk JZ. 1951. S. 787 ff. / Der rechtsfreie Raum. ZStaatsw. Bd. 108 verursacht hat, ist nach der Bedingungstheorie zu entscheiden / Die Frage, ob eine Körperverletzung den Tod des Verletzten Gustav Radbruch zum Gedächtnis. ZStrw. Bd. 63, 1951, S. 147 ff. strafe. Christen und Nichtchristen in der Rechtsordnung, 1950. / helm Sauers Methodenlehre. F. f. Sauer, 1949, S. 85 ff. / Todeskeit und Verhandlungsfähigkeit. F. f. Rosenberg, 1949, S. 101 ff Trichotomie der Straftaten, S.IS. 1948. S. 660 ff. / Prozesefühlg-Kohlrausch, 1944, S. 141 ff. / Die neuere Rechtsprechung zur Bd. 61. 1942. S. 166 ff. / Der finale Handlungsbegriff. F. f. zu: Paul Bockelmann, Studien zum Täterstrafrecht II. ZStrw / Zur Frage des fahrlässigen Unterlassungsdelikts. ZAk. 1941 1939, S. 568 ff. / Der Arzt im Strafrecht, MKri. 1940. S. 414 ff 1952. S. 385f Der Begriff der Rechtslücke. Eine analytische Studie zu Wii-

you don's objektiven Tatbestands- und Unrechtselementen. F. f. Bemerkungen zu Theoder Rittlers Kritik der Lehre HAR SEASON GAL 1955. S. 161-ft. / Shin and Tragwelle American aber dritte Personen im ersten Kreibe: GA. 1957. S. Serial Landier Systematik. St. Gen. 1957, S. 173 ff. / Beleidigende Mr. Sechiabegriffe, Likef. 5. Int. Kong. Rvgl. 1958, S. 59 ff. 外,他我最后,则在大学技术的朱九老一号八八页以下) / Die Relativi-Elittler: 1957, E. 165 ff. / Tathestandsirrtum and Verbotskrtum 1960, S. 47 ff. / Der Unrechtstatbestand im Strafrecht. Eine Life | Die rechtliche Beurteilung des ärztlichen Eingriffs unter Shiefgenetzbuchs (E. 1962). Ein Beitrag zur Strafrechtsreform. For Wolf: 1962. S. 398 ff. / Zur Kritik des § 270 Entwurf eines 1961 S. 90 ff. / Vom Sinn des hypothetischen juristischen Urteils. A Straff Chiatur der Sache" im Straffecht, F. I. E. Schmidt, Reintswidnigkeit im Strafrecht. 100 Jahr: Jur. Tag. 1960. S. 401 krittiche Betrachtung zum heutigen Stand der Lehre von der besinderer Berücksichtigung des Suicidpatienten, Heidelberg. Jb. #1. 1 Day Verbrechen in der heubigen Gesellschaft. Suß. 1960. S. and with the delivery of the second structure of the Western 1960. S. 130 Com, 1959. S. 76 ff. / Die künstliche Schwargerschafts-Shiffsben siner Logik und Methodik des juristischen Denkens. Zine Bd. 76. 1964. S. 177 ff. / Das Problem der psychischen

Kaumlität beim Betrug. F. f. v. Weber, 1963. S. 247 ff.

ガラス (Wilhelm Gallas)

法学会でソビエト刑法学に選じた学者である。在のレニングラード)に生れた。マウラッへと並んで、 西ドイツ刑在のレニングラード)に生れた。マウラッへと並んで、 西ドイツ刑

一九三三年に、ベルリン大学コールラウシュ教授に提出した論文 Rysinsinal politik und Skynfyschkanystematik unter besonderer Bericksichtsigung des Schufsterungsischem Rockts. 1981. により私業師となった。一九三四年にギーセン大学教授、一九三五年ケーニッとスペルク大学、一九四〇年チュービンゲン大学、一九四二年ライブチッと大学教授に転じ(但し、一九四七年はハンブルク大学に出籍していた)、さらに一九五四年、エンギッシュのあとをうけてハイデルベルク大学らに一九五四年、エンギッシュのあとをうけてハイデルベルク大学らに一九五四年、エンギッシュのあとをうけてハイデルベルク大学が提出書きれて、今日に至つている。

心な苦心の所産である。

いな苦心の所産である。

がラスの特徴は実に細かい議論をすることと細心なまでに言葉をが失し、論理的にすきのない論文を書くところにある。刑法改正委員としての仕事の中にはこの彼の特色は随所に見られるが、彼が苦負としての仕事の中にはこの彼の特色は随所に見られるが、彼が苦負としての仕事の中にはこの彼の特色は随所に見られるが、彼が苦負としての仕事の中にはこの彼の特色は随所に見られるが、彼が苦負としての仕事の中にはこの彼の特色は関節によっている。

ガラスは又、フィナリストの一人としても有名である。余り沢山

事者(教者を含む)
が考えは話が大へん下手であり、むずかしい理屈をぼそぼそと喋る。でるといった徹底よりを一九五五年頃から行なつていた由。但し、感理論的所産はないが、その酵素では故意行為と過失行為とを検別

Shwigesetzbuch (Ugolownyi Kodex) der Russischen Sozialistäschen Föderativen Sowjet-Republik (R. S. F. S. R.) vom 22. XI. 1926 mit den Änderungen bis zum 1. VIII. 1930, 1931.

チュービンテン大学書名 Strafgesetzbuch des Russischen Sosiallischen Föderstiven Sowjet-Republik vom 22. November 1926 in der am 1. Januar 1952 gültigen Fassung mit Nebengesetzen und Matorialien. 1953.

ペイデルベルク時代 Die strafrechtliche Verantwortlichkeit der am Bau Betelligten. 1963. / P. J. A. Feuerbachs "Kritik des natürlichen Rechts", 1964.

制文

ベルリン大学群師就任勝濱 Die Krise des Strafrechts und ihre Überwindung im Staatagedanken, ZStrw. Bd. 53, 1934. S. 11 ff. ギリセン大学教授時代 Grenzen zulässiger Verteidigung im Straffprozens. ZStrw. Bd. 53 1934. S. 256 ff.

ゲーニヒスペルク大学教授時代 Zur Kritik der Lehre vom Verbrechen als Rechtspilichtverletzung. F. f. Gleichspach. 1936. 2015 Struktur des kommenden Strafverfahrens. Bewerkungen zu dem Bericht der antiliehen Strafprozeiskominisies.

ZStrw. Bd. 58, 1938. S. 624 ff.

サポーツンケン大学製製世代 Zur Frage nach dem Verletztes beim Betrugsdelikt. ZAk. 1940. S. 246 ff. / Beleidigung und Sittlichkeitsdelikt. ZAk. 1941. S. 15 ff. / Tatstrafe und Täterstrafe. ZStrw. Bd. 60, 1941 S. 374 ff. / Neues französisches Jugendstrafrecht. DRZschr. 1947. S. 280 ff. / Eduard Kohlrausch zum Gedächtnis. ZStrw. Bd. 63. 1951, S. 1 ff. / Zur Revision des § 330 c StGB. JZ. 1952. S. 396 ff.

Str. Ref. Bd. 1. 1954, S. 121 ft. (紹介・平場安治、ドイツにおける
別法改正論「〇一頁以下) / Pflichtenkollision als Schuldausschlier,
sungagrund. F. f. Mezger, 1954, S. 311 ft. / Zum gegenwärtigen
Stand der Lehre vom Verbrechen. ZStrw. Bd. 67, 1955, S. 1 ft.
(斉藤全作駅・早稲田法学二二書・「四三頁以下、五四八頁以下、同、早稲田大学比較法研究所紀要第二二号) / Zum Begriff der "Falschheit" der eidlichen und uneidlichen Aussage. GA. 1957 ft. 315 ft.

Die moderne Entwicklung der Begriffe Täterschaft und
Teilnahme im Strafrecht. ZStrw. 1957 (Deutsche Beiträge), S.
3月、紹介・康木英雄、法学協会雑誌七五巻「号五九頁以下) / Strafbares Unterlassen im Fall einer Selbettötung. JZ. 1960. S. 649 ft.
u. 686 ft. / Der Betrug als Vermögensdelikt. E. f. E. Schmidt.
1961, S. 401 ft. (紹介・平場安治、法学論叢七二巻五号「四七頁以下)
/ Saklo stato attuale della dottrina del reato. Sc. pos. 1963, p. 3

ff: † Der Schutz der Persönlichkeit im Entwurf eines Strafgesetzbuchs. ZStrw. Bd. 75, 1963, S. 16 ff. auch in; Prob. d. Str. Ref. 1963, S. 159 ff.

ゲールズ (Friedrich Geerds)

表表)の助手に招がれたからである。 本表表の助手に招がれたからである。 一九二五年八月二九日、ハンザ 同盟都市 の ルューベックに 生れ を活っている。一九五三年から五一年まで、キール大学で法律学を修め、特に である。一九五三年から五六年まで、フライブルク大学の外国国際 をいた。一九五三年から五六年まで、フライブルク大学の外国国際 をいた。一九五三年がら五六年まで、フライブルク大学の外国国際 は、一九五七年に新設された 刑事学研究所(所長マイヤー を記述した。 一九五二年八月二九日、ハンザ 同盟都市 の ルューベックに 生れ を表表)の助手に招がれたからである。

刑事学研究所の所長の任にある。 書 Zwr Lehre von der Konkurrenz im Strafrecht 1961. である。 書 Zwr Lehre von der Konkurrenz im Strafrecht 1961. である。 書 Zwr Lehre von der Konkurrenz im Strafrecht 1961. である。

Grade, Recht und Kriminalpolitik. 1960. (私講師就任講演に加筆したものである) / Über den Unrechtsgehalt der Bestechungsdelikte und seine Konsequenzen für Rechtsprechung und Gesetzgebung. Eine strafrechtliche und kriminologische Studie. 1961.

貧文

マライアルク大学研究所時代 Die Bekämpfung der Berufs- und Gewohnheitsverbrecher und Behandlung des Rückfalls. Mat. Str. Ref. Bd. 2 I. 1954. S. 175 ff. / Unrechts- und Schuldausschliessungsgründe. Mat. Str. Ref. Bd. 2. I. 1954. S. 367 ff. / Einwilligung und Einverständnis des Verletzten im Strafrecht. GA. 1954. S. 262 ff. / Die Körperverletzungsdelikte. Mat. Str. Ref. Bd. 2 II. 1955. S. 255 ff. / Straftaten gegen die Volksgesundheit. Mat. Str. Ref. Bd. 2. II. 1955. S. 263 ff.

#一次大学睦代 Zum Tatbestand der Hehlerei aus der Sicht des Kriminologen. GA. 1958. S. 129 ff. / Über Diebstahl und unbefugten Gebrauch von Kraftfahrzeugen. Kriminal. 1960. S. 106 ff. 171 ff. u. 212 ff. / Probleme zur Angleichung der europäischen Strafrechtssysteme, in: Internationale Verbrechensbekämpfung. BKA. 1960. S. 273 ff. / Einwilligung und Einverständnis des Verletzten im Strafgesetzentwurf. ZStrw. Bd. 72. 1960. S. 42 ff. (紹介·如尿油 / 本報刊日樂園中 | 〇阿瓦中 / Zur kriminellen Prognose. MKri. 1960. S. 92 ff. / Über das strafrechtliche Gutschten. JuS. 1962. S. 360 ff. u. 394 ff. 1962. S. 24 ff. 70 ff. 106 ff. u. 142 ff. / Zur Kriminologie von Raub und Erpressung. N. Pol. 1962. S. 178 ff. / Warenfälschung—Sammelbezeichnung oder einheitliche Wirtschaftsstraftat? (Ein Beitrag zur Problematik des Wirtschaftsstrafrechts). ZStrw. Bd. 74. 1962. S. 245 ff. /

"Maximen des Strafprozesses". Gedanken zur Funktion des Prozessegrundsätze im deutschen Strafverfahrensrecht. Schl. Holst. Anz. 1962. S. 181 ff. / Die Brandstiftungsdelikte im ausländischen Strafrecht. in: Brandermittelung und Brandverhütung. BK. A. 1962. S. 15 ff. / Die Konkurrenzfragen im strafrechtlichen Gutachten. DRiZ. 1963. S. 429 ff.

S. 6 ff.

フランクフルト大学時代 Das Wirtschaftsstrafrecht als Aufgabe für Wissenschaft und Gesetzgebung. Erläutert am Beispiel der Warenfälschung, in: Grundfragen der Wirtschaftskriminalität, BKA. 1963. S. 211 ff. / Strafrechtspflege und prozessuale Gerechtigkeit. Schl. Holst. Anz. 1964. S. 57 ff.

四下田圖中の繪文等 Über strafprozessuale Massnahmen, insbes. Entnahme von Blutproben bei Verdacht der Trunkenheit am Steuer. GA. 1965. / Beiträge über ① Erpressung. ② Rechtsfriedensdelikte und ③ Rechtspflegedelikte in; Handwörterbuch der Kriminologie. 2. Aufl. hrsg. von Sieverts (1965?).

ガイレン (Gerd Geilen)

高文 Man Aufklärungspflicht. 1963. によつて私講師となつた。 wad ärztliche Aufklärungspflicht. 1963. によつて私講師となつた。

Wegnahmebegriff und Diebstahlsvollendung. JR. 1963. S. 446

ff. / Stillschweigen des Angehörigen beim Mordkomplott. ZF. 1964.
S. 385 ff. / Strafrechtliches Verschulden im Zivilrecht? JZ, 1964.

ゲッピンガー (Hans Göppinger)

位論文二つ、請求論文ともに不明。

「世ンゲン大学の刑事学講座開設に当り教授として迎えられた。学取得後、一時私講師としてボン大学に籍を置いたが一九六二年チュ神医学をチュービンゲン大学のクレッチュマーのもとで学び、学位神医学をチュービンゲン大学のクレッチュマーのもとで学び、学位一九一九年生れである。一九四六年に法律学の学位取得の後、精

7

Die gegenwärtige Situation der Kriminologie, 1964. 教授就任講。

論文

Zur Kriminologie der Verkehrsdelikte, NJW. 1959, S. 2281 ff.

Der Verkehrssünder als krimineller Typus. K. Biol. G. 1960,
S. 76 ff. / Psychopathologische und tiefenpsychologische Untersuchungsmethoden und ihr Aussagenwert für die Beurteilung der Täterpersönlichkeit und der Schuldfähigkeit. NJW. 1961. S. 241
ff. / Methodologische Probleme und ihre Auswirkungen bei der Begutachtung. K. Biol. G. 1962. S. 110 ff.

グリューンワルト (Gerald Grünwald)

西ドイツ刑法学の現状

九〇(二〇九〇)

九大三年一〇月一一日にボン大学の正教授となつた。

九大三年一〇月一一日にボン大学の正教授となつた。

九大三年一〇月一一日にボン大学の正教授となった。

園な研究分野でそれぞれ立派な業績を残している。 大柄な大人の風格をもつた立派な学者であり、若いけれども広範

製文

ゲッチンゲン大学助手時代 Zur gesetzlichen Regelung der unschten Unterlassungsdelikte. ZStrw. Bd. 70, 1958, S. 412 ff. (宮沢喬一・不真正不作為犯と西独刑法改正草案(二)本誌三三巻三号三一頁以下に超介批判した) / Die Beteiligung durch Unterlassen. GA. 1959. S. 110 ff. / Der Versuch des unechten Unterlassungsdelikta. JZ. 1959. S. 46 ff. / Tatrichterliches Ermessen bei der Strafzungswung. MDR, 1959. S. 713 ff. u. 808 ff. / Zur Ankündigung von Strafmilderung für den Fall eines Geständnisses. NJW. 1960. S. 1941 ff. / Die Aufklärungspflicht des Arztes. ZStrw. Bd. 73, 1961. S. 5 ft. (紹介・宮沢浩一本誌三六巻八号一〇二頁)

ボン大学教授時代 Bedeutung und Begründung des Satzes "Nulla poena sine lege" ZStrw. Bd. 76. 1964. S. 1 ff. / Die Frage der

Nichtigkeit von Strafurteilen. ZStrw. Bd. 76. 1964. S. 250 ff. / Sicherungsverwahrung, Arbeitshaus, vorbeugende Verwahrung und Sicherungsaufsicht im Entwurf 1962. ZStrw. Bd. 76. 1964. S.

ハル (Karl Alfred Hall)

に員外教授となつた。すぐれた人であるが、不遇な生活を送つていた員外教授となつた。すぐれた人であるが、不遇な生活を送つていれた。一九三三年にフライブルク大学エーリク・ヴォルフ教授に提出した請求論文 Die Lehre vom Corpus Delicti. Eine dogmatische Guellenexegese sur Theorie des gemeinen deutschen Inquisitions prozesses. 1933. により私講師となり、一九三六年ギーセン大学員外教授となつた。第二次大戦後、同大学法学部は閉鎖となり、マールブルク大学に合併されたのでそこに移り、五〇年に講師、五八年ルブルク大学に合併されたのでそこに移り、五〇年に講師、五八年ルブルク大学に合併されたのでそこに移り、五〇年に講師、五八年ルブルク大学に合併されたのでそこに移り、五〇年に講師、五八年ルブルク大学に合併されたのでそこに移り、五〇年に講師、五八年ルブルク大学に合併されたのでそこに移り、五〇年に講師、五八年ルブルクに生り、「大学」というに表した。

著書

る

į

Fahrlässigkeit im Vorsatz. 1959.

論文

Die Abgrenzung von Versuch und Vorbereitung im Willensstrafrecht. GS. Bd. 110, 1938. S. 95 ff. / Gestaltwandel der Tat im Strafverfahren. DRW. 1941, 6. Jg. S. 305 ff. / Vom Geist des Prozesses Richterliches Denken und Staatsräson. ZStaatsw. Bd. 108, 1952, S. 336 ff. / Die Freiheitsstrafe als kriminalpolitisches

ハナク (Ernst-Walter Hanack)

一九二九年八月三〇日に、カッセルに生れた。一九五〇年から五三年までマールブルタ大学に挙び、一九五七年にマールブルタ大学に挙び、一九五七年にマールブルタ大学シェウィッグ教授に提出した論文 Die strafrecktlicke Zuläseigkeit Einter Unfrucktbarmackungen 1959. で学位をとり、一九大一年に私講師と なった。テーマは Der Ausgleich divergierender Enderiedungen in der oberen Gericktebarkeit: Bine processrocktlicke Deudie, inebesondere zur Vorlegungspflicht und der Rochtsmittelzuläseigkeit vogen Abweichung, 1962. である。

大学教授となつた。 一九六三年、ボッケルマン教授のあとをついで、ハイデルベルク

3

マールブルク大学講節時代 Zur strafrechtlichen Haftung des

西ドイツ刑法学の現状

Arztes. Gedanken zu einer Entscheidung des Bundesgerichtshofs. Ärztliche Mitteilungen. 1958. S. 1192 ff. / Die Arbeitateilung zwischen Arzt und Schwester im Strafrecht. Ärztliche
Mitteilungen. 1959. S. 497 ff. / Die Einschaltung von Gutachterausschüssen bei Sterilisationen. Ärztliche Mitteilungen. 1961. S.
595 ff. / Zur Reform der Revision. Gedanken zu den Verhandlungen des 44. Deutschen Juristentages. NJW. 1961. S. 1991 ff. /
Zum Problem der persönlichen Gutachterpflicht, insbesondere in
Kliniken. NJW. 1961. S. 2041 ff. / Die politische Betätigung des
Richters. F. f. Herrfahrdt. 1961. S. 127 ff.

ペイデルベルク大学教授時代 Die Sterilisation aus sozialer Indikation, JZ. 1964. S. 393 ff. / Hausfriedensbruch durch Testkäufer. JuS. 1964. S. 352 ff. / Zur Aufklärungspflicht, insbesondere bei pauschaler Einwilligungserklärung des Patienten. Medizinische Klinik. 1964. S. 1071 ff.

ハルドウィッヒ(Werner Hardwig)

ポーランド側)に生れた。 一九○七年三月八日、東プロイセンのレッツェン(Lötzen--現在

Ein Zentralproblem des Strafrechts. 1967. である。その後、一九 D. 一九五三年に私講師となつた。 請求論文は Die Zureckmung. 一九四九年ハンブルク大学のジーバーツ教授に提出、公刊した論

五九年に開大学の員外教授となり、今日に至つている。

きらいがある。
さらいがある。
さらいがある。
かまン・カウフマンと論争をするが、両者ともに相手のあげ足をといまン・カウフマンと論争をするが、両者ともに相手のあげ足をといわゆる理論刑法学に属する論稿を数多く発表し、ボン大学のア

N X

S. 65 ff. / Zur Systematik der Tötungsdelikte. GA. 1954. S. 257 S. 353 ff. / Die Persönlichkeit des Beschuldigten im Strafprozess. ff. / Zur Abgrenzung von Mittäterschaft und Beihilfe, GA. 1954. Sachverhaltsirrtum und Pflichtsirrtum. GA. 1956, S. 369 ff. (紹介· 140 ff. / Belträge zur Lehre vom Betrug. GA. 1956. S. 6 ff. / derung eines Strafgesetzes in der Revisionsinstanz bei Vorliegen Strafe. ZStvollz. 1961. S. 59 ff. / Berücksichtigung der Än-Tat- und Täterstrafrecht im Licht der Strafrechtsreform, MKri. Der Versuch bei untauglichem Objekt. GA. 1957. S. 170 ff. nungsmerkmale im Strafrecht. ZStrw. Bd. 68, 1956, S. 14 ff. / 中義語、関西大学法学論集 七卷二 号一〇八頁以下) / Die Gesin-§ 141, 144 StGB. Ein Beitrag zur Strafrechtsreform. GA. 1955. S. pflege, ZStvollz. 1955. S. 1 ff. / Der systematische Ort der ZStrw. Bd. 66, 1954, S. 236 ff. / Öffentlichkeit und Strafrechtsfahren. GA. 1959, S. 229 ff. / Das Verhältnis von Schuld und 1959, S. 1 ff. / Die Wiederholung von Klageerzwingungsver-§ 50 StGB und die Bereinigung des Strafgesetzbuches. GA. 1954,

ハイニッツ (Ernst Heinitz)

開業していた。 開業していた。 開業していた。

戦後は、一九四八年にエルランゲン大学教授に招聘され、一九五

ア刑法学に通じ、又イタリア語で発表した著作もある。いる。一九五八年には部長判事 (Senatapräsident) となつた。イタリニ年にはベルリン自由大学に転じ、併せて裁判官としても活動して

7

Kommentar zum Arbeitsgerichtsgesetz, 1932. / I limiti oggettivi della casa giuridicata, 1937.

スキット四田大学教授 Staatsschutz und Grundrechte, 1953. / Empflehit es sich, die Strafbarkeit der juristischen Person gesetz-lich vorzusehen? Gutacht. z. 40. Deut. Jur. Tag. 1953. / Richter. Staatsanwalt und Rechtsanwalt im geteilten Deutschland, 1959. / Die Individualisierung der Strafe und Massnahmen in der Reform des Strafrechts und Strafprozesses. 1960. / Probleme der Rechtsbeugung. 1963.

N X

エルランゲン大学時代 James Goldschmidt zum Gedächtnis. NJW. 1950, 536 ff. / Strafzumessung und Persönlichkeit. ZStrw. Bd. 63, 1951, S. 57 ff. (紹介・平野龍一、刑法権誌二巻一号一九三頁以下) / Ärztliche Experimente am lebenden Menschen, JR. 1951, S. 333 ff.

ベルリン自由大学時代 Die Grenzen der zulässigen Wahlfeststellung im Strafprozess. JZ. 1952, S. 100 ff. / Der Ausbau des Strafensystems? ZStrW. Bd. 65, 1953, S. 26 ff. / Teilnahme und unterlassene Hilfeleistung beim Selbstmord. JR. 1954, S. 403 ff. /

recht. F. d. Jur. Fak. Frei. Univ. 1955, S. 93 ff. / Nötigung. Strafgesetzbuch? Mat. Str. Ref. Bd. 1, 1954, S. 55 ff. (紹介: Empfiehlt sich die Dreiteilung der Straftaten auch für ein neues L'omicidio doloso nel diritto tedesco. Sc. Pos. 1956. p. 205 ff. S. 3 ff. / Streitfragen der Versuchslehre. JR. 1956, S. 249 ff. (Deut. Beiträge.) 1957. S. 151 ff. / Zweifelsfragen des Opportunitäts-JR. 1957. S. 126 ff. / Die gesetzlichen, verwaltungsrechtlichen Zum Verhältnis der Wahlfeststellung zum Satz in dubio pro rec-Aufruhr und Landfriedensbruch bei Streikausschreitung. JR. 1956. Täter- und Teilnehmerschuld im Deutschen und Italienischen Straf-繁田実造、ドイッにおける刑法改正論四八頁以下) / Gedanken über S. 241 ff. / Zur Entwicklung der Lehre von der materiellen dottrina, 1958, p. 177 e segg. / Der Irrtum des Täters über die punkt aus. ZStrw. Bd. 70, 1958. S. 1 ff. / Der Begriff der Vergemeinen Teils des Strafgesetzbuchs vom kriminalpolitischen Standprinzips. F. f. Rittler, 1957, S. 327 ff. / Der Entwurf des Allund sozialen Folgen der strafgerichtlichen Verurteilung. ZStrw. 忠、法学論叢七〇巻一号一四七頁以下) / Le misure di sicurezza Rechtswidrigkeit, F. f. E. Schmidt, 1961. S. 266 ff. (紹介·森下 JR. 1959, S. 285 ff. / Gedanken zur Strafprozessreform. JR. 1961. disponibilita giuridica attraverso le critiche e le antizipazioni della mögensverfügung im deutschen Strafrecht, in: La teoria dell'in-Rechtspflicht zum Handeln bei den echten Unterlassungsdelikten.

prevists dal progetto del Codice Penale tedesco sotto il profilo costituzionalistico; stato di diritto e misure di sicurezza, 1962, p. 19 e segg. / Die Verwertung von Tagebüchern als Beweismittel im Strafprozess. JR. 1964. S. 441 ff.

ヘルマー (Joschim Helimer)

送ることができるか問題である。 送ることができるか問題である。

1

Erziehung und Strafe, 1957. / Systematik des bürgerlichen Rechts und angrenzender Gebiete, 1958. (紹介・内池豊四郎、本誌計: | 着七号六三七頁以下)

キール大学時代 Kriminalpädagogik. Eine Einführung in ihre Probleme, 1959. / Die Strafaussetzung im Jugendstrafrecht. Versuch einer Grundlegung des Strafaussetzungsgedankens für die gerichtliche und fürsorgerische Praxis. 1959. / Schuld und Gefährlichkeit im Jugendstrafrecht. 1962. (私書師就任書演である)。

誠文

Zur neuen Prüfungsordnung für Juristen. JR. 1952. S. 436 ff. / Die Verwertung von Rechtsmitteln im Jugendstrafverfahren durch Beschluss. JR. 1955. S. 92 ff. / Wiedergutmachung und Skrafe. AcP. Bd. 155, 1956, S. 527 ff. / Das Zusammentreffen von natürlicher Handlungs- und rechtlicher Tateinheit bei Verletzung höchtpersönlicher Interessen. GA. 1956, S. 65 ff. / Die Strafaussetzung zur Bewährung und das Verbot der Schlechterstellung. JZ. 1956. S. 714 ff. / Ist die Wiedergutmachung des Schadens Voraussetzung der Strafaussetzung? NJW. 1956, S. 979 ff. / Kriminalpolitik und Sittenstrafrecht, dargestellt am Beispiel der Familiendelikte. ZStrw. Bd. 70, 1958. S. 360 ff.

nach \$\$ 20ff JGG (Aussetzungsgeeignetheit der Strafe). RdJ. 1959.
S. 209 ff. / Die objektiven Vorauseetzungen der Aussetzung der Strafe). RdJ. 1959.
S. 209 ff. / Die objektiven Vorauseetzungen der Aussetzung der Strafvollzugsstreckung nach \$\$ 20 ff JGG. (Aussetzungsfähigkeit der Strafe). RdJ. 1959, S. 229 ff. / Die subjektiven Vorausetzungen der Aussetzung der Strafvollzugsstreckung nach \$\$ 20 ff JGG (Aussetzungsfähigkeit der Strafe). RdJ. 1959. S. 244 ff. / Allgemeines zum Bewährungsverfahren. RdJ. 1959. S. 321 ff. / Gewohnheitsverbrechertypen. Einige Bemerkungen über die Sicherheitsverbrechertypen. Einige Bemerkungen über die Sicherheitsverbrechertypen als Kriminologie. RdJ. 1960. S. 123 ff. / Kriminalpädagogik als Kriminologie. RdJ. 1960. S. 123 ff. /

Kriminalpädagogik als Verbrechensursschenforschung. RdJ. 1960. S. 167 ff. / Rückfallsverbrechertum und Frühkriminalität. ZStrw Bd. 72, 1960, S. 397 ff. (紹介·宮沢浩一、本誌三五巻四号一一三頁) / Hangtäterschaft und Berufsverbrechertum. ZStrw. Bd. 72, 1961. S. 441 ff. (紹介·宮沢治一、本誌三六巻八号)〇四頁以下) / Verurteilung als gefährlicher Gewohnheitsverbrecher. NJW. 1962.

S. 2040 ff. / Beleidigung und Intimsphäre. GA. 1963. S. 129 ff. / Kriminalität und Kultur. Zur Diskrepanz zwischen dem Menschenbild von heute und dem Strafrecht, MKri. 1963. S. 97 ff. / Zum gegenwärtigen Strand der Lehre vom Verbrechen, JZ. 1963. S. 193 ff. / Zur Rechtskraftwirkung des Strafbefehls. JuS. 1963. S. 311 ff. / Bewährung und Nichtbewährung des Jugendstraf-

ヘンケル (Heinrich Henkel)

rechts. NJW. 1964. S. 177 ff.

学の員外教授に任命されたが、翌三四年マールブルク大学に転じ、学の員外教授に任命されたが、翌三四年マールブルク大学に転じ、getterndern und künstügem Racht, 1932. である。一九三三年に同大な、一九三〇年に私講師となつた。請求論文は Der Nötstand nacht で、一九二〇年に私講師となつた。請求論文は Der Nötstand nacht である。一九三三年に同大ないの後任として就任したバウムガルテン教授について研究を重め、一九三〇年に私講師となつた。請求論文は Der Nötstand nach である。

ないけれども、従来の論争の帰趣をまとめた堅実な作品である。後は一九五一年にハンブルク大学教授となり、今日に至つている。後は一九五一年にハンブルク大学教授となり、今日に至つている。後は一九五一年にハンブルク大学教授となり、今日に至つている。後は一九五一年にハンブルク大学教授となり、今日に至つている。

F

Staat, 1934.

ブレスラウ大学教授時代 Das deutsche Strafverfahren, 1943. ハンブルク大学教授時代 Strafverfahrensrecht, 1953. / Der Begriff der Wissenschaft in Forschung und Lehre, 1953. / Der Strafschutz des Privatslebens gegen Indiskretion, Gutacht, z. 42 Deut. Jur. Tag 1957. / Recht und Individualität, 1958. / Einführung in die Rechtsphilosophie, 1964.

1

w. Bd. 51. 1931, S. 916 ff.

v. Bd. 51. 1931, S. 916 ff.

pv. Bd. 51. 1931, S. 1935. S. 129 ff. | Der Parteigedanke im Strafverfahren, DS. Bd. 2. 1935. S. 129 ff. | Die Hauptverhandlung im kommenden Strafverfahren, DS. 129 ff. | Die Hauptverhandlung im kommenden Strafverfahren, DS. 129 ff. | Die Hauptverhandlung im kommenden Strafverfahren, DS. 129 ff. | Die Hauptverhandlung im kommenden Strafverfahren, DS. 129 ff. | Die Hauptverhandlung im kommenden Strafverfahren, DS. 129 ff. | Die Hauptverhandlung im kommenden Strafverfahren, DS. 129 ff. | Die Hauptverhandlung im kommenden Strafverfahren, DS. 129 ff. | Die Hauptverhandlung im kommenden Strafverfahren, DS. 129 ff. | Die Hauptverhandlung im kommenden Strafverfahren, DS. 129 ff. | Die Hauptverhandlung im kommenden Strafverfahren, DS. 129 ff. | Die Hauptverhandlung im kommenden Strafverfahren, DS. 129 ff. | Die Hauptverhandlung im kommenden Strafverfahren, DS. 129 ff. | Die Hauptverhandlung im kommenden Strafverfahren, DS. 129 ff. | Die Hauptverhandlung im kommenden Strafverfahren, DS. 129 ff. | Die Hauptverhandlung im kommenden Strafverfahren, DS. 129 ff. | Die Hauptverhandlung im kommenden Strafverfahren, DS. 129 ff. | Die Hauptverhandlung im kommenden Strafverfahren, DS. 129 ff. | Die Hauptverhandlung im kommenden Strafverfahren, DS. 129 ff. | Die Hauptverhandlung im kommenden Strafverfahren, DS. 129 ff. | Die Hauptverhandlung im kommenden Strafverfahren, DS. 129 ff. | Die Hauptverhandlung im kommenden Strafverfahren, DS. 129 ff. | Die Hauptverhandlung im kommenden Strafverfahren, DS. 129 ff. | Die Hauptverhandlung im kommenden Strafverfahren, DS. 129 ff. | Die Hauptverhandlung im kommenden Strafverfahren, DS. 129 ff. | Die Hauptverhandlung im kommenden Strafverfahren, DS. 129 ff. | Die Hauptverhandlung im kommenden Strafverfahren, DS. 129 ff. | Die Hauptverhandlung im kommenden Strafverfahren Strafverfahren S

ren. DS. Bd. 2. 1935. S. 401 ff. / Die Gestalt des künftigen

Strafverfahrens. DJZ. Bd. 40, 1935, S. 530 ff. u. S. 727 ff. /

Richter, Staatsanwalt und Beschuldigter im Strafprozess des neuen Staates. ZStrw. Bd. 54, 1935. S. 35 ff. / Die Beteiligung des Verletzten am künftigen Strafverfahren. ZStrw. Bd. 56, 1937. S. 227 ff. / Bemerkungen zum Bericht der amtlichen Strafprozess-kommission. ZAk. 1938, S. 757 ff. / Das Sicherungsverfahren gegen Gemeingefährliche. ZStw. Bd. 57. 1938, S. 702 ff. u. Bd. 58 1939. S. 167 ff. / Das neue schweizerische Strafgesetzbuch im Vergleich zu deutscher Strafrechtsreform. DRW. 1939. S. 40 ff.

Aンプルク大学教授時代 Zumutberkeit und Unzumutberkeit als regulatives Rochtsprinzip, F. f. Mezger, 1954, S. 249 ff. / Kollektivschuld. F. f. B. Kraft. 1954, S. 106 ff. / Die Zulässigkeit und Verwertbarkeit von Tonbandaufnahmen bei der Wahrheitserforschung im Strafverfahren. JZ. 1957. S. 148 ff. / Zur Frage der Verbindung von Erwachsenen- und Jugendstrafsachen. JZ. 1957. S. 565 ff. / Zur Auslegung des \$ 357 StPO. JZ. 1959. S. 690 ff. / Kollektivschuld, in: Internationale Recht und Diplomatie 1960, S. 37 ff. / Der Mensch im Recht. St. Gen. 1960, S. 229 ff. / Die Bestechlichkeit von Ermessensbeamten. JZ. 1960, S. 507 ff. / Das Methodenproblem bei den unechten Unterlassungsdelikten. MKri. 1961, S. 178 ff. / Die "pracsumtio doli" im Strafrecht. F. f. E. Schmidt, 1961. S. 578 ff. (紹介・鈴木茂屬、法学繪叢七〇巻二 中 | 匠 | 東江阿卜)

マ・ヘンティッヒ (Hans v. Hentig)

Der strafrechtliche Schutz des literalischen Eigentums nach deutschem 勉強の合間に金持の子弟に個人的な指導を行なつていた。学位は 思う存分の勉強を何ものにもとらわれめことのない立場で行ない、 才能に恵まれていたので、その昔のドイツの学者によくあるように、 学の私講師となり、三一年にキール大学教授、一九三四年ボン大学に veryleichend dargestellt, 1930. であつた。 一九二九年にギーセン大 的研究などを発表しつづけていたが、エンギッシュのすすめで、ギ によつて取得した。その後、歴史上の人物の精神病理学的・心理学 und österreichischem Recht in rechtsvergleichender Darstellung, 1912 **馩を示している。その資料の多くは在米中に集められたものである** 保養地テルツに引退した。しかしながら、一九五四年頃からV・へ た。一九三六年ナチス政権の文教政策に反対してアメリカに渡り、各 迎えられ、刑法、刑事科学を講じ、一九二五年から三三年迄アシァフ・ Die Wiederaufnahme des Strefverfahrens, dogmatisch und reckts-アカデミカーの生活に入つた。請求論文は Wiederaufnahmerecht. ーセン大学のミッテルマイヤー教授のもとで教授資格を取得して、 地の大学の講師などを歴任し、その間著書、論文を数多く発表した。 ェンブルクとともに月刊犯罪心理学と刑法改正の編集を担当してい から、興味のある事実の記述によつて肉づけら れて いる。もつと ンティッヒは毎年平均一冊の大きな著書を続々と発表し驚くべき書 一八八七年六月九日、ベルリンに生れた。彼は豊かな家庭に育ち、 一九五二年に再びボン大学に復帰したが、間もなくバイエルンの

うち本書に再録したものは目録から除かれていることに注意。 うち本書に再録したものは目録から除かれていることに注意。 Studien zur Kriminalgeschichte, hergg. v. Ch. Helfer, 1962. v. 189 のは、ドイツ的な体系とは違つて、読者は豊富な事実の中に埋没するも、ドイツ的な体系とは違つて、読者は豊富な事実の中に埋没するも、ドイツ的な体系とは違つて、読者は豊富な事実の中に埋没する

Technick der politischen Polizei in nachrevolutionären Perioden. 1918. / Über den Zusammenhang von kosmischen, biologischen und sozialen Krise. 1920. / Robespierre. Studien zur Psychopathologie des Machttriebes, 1924. / Über den Cäsarenwahnsinn. Die Krankheit des Kaisers Tiberius 1924. / Machiavelli. Studien zur Psychologie des Staatsstreiches und der Staatsgründung 1924. / Untersuchungen über den Inzest. (mit Th. Viernstein) 1925. / Psychologische Strategie des griechischen Krieges. 1927. 4— 文大科提名 Die Strate. Ursprung. Zweck, Psychologie. 1932. / Eugenik und Kriminalwissenschaft. 1933.

アメリカ移住時代 Crime, causes and conditions, 1947. The criminal and his victim. 1948.
ボン大学時代 Der Friedensschluss, Geist und Technik einer verlorenen Kunst. 1952. / Zur Psychologie der Einzeldelikte.

Mord, 1956.(紹介·吉益脩夫、犯罪学權誌二五卷 六号二〇〇頁、宮 geschichtliche Zusammenhänge. 1955. (紹介・宮沢浩一、本誌三〇巻 chologische Studie. 1959. (紹介・吉益脩夫、犯罪学雑誌二五巻五号一 der lesbischen Frau. 1959. / Der Gangster. Eine kriminalpsy-Ursprung der Henkersmahlzeit. 1958. / Zur Psychologie der Morde. 1957. (紹介・宮沢浩一、本誌三二巻九号八五頁以下) / Vom 沢浩一、本誌三〇巻五号五八頁以下)/ Probleme des Freispruchs beim Die Strafe, II. Die modernen Erscheinungsformen, 1957. (紹介・資 誌二六巻三号八九頁以下、 宮沢浩一、 本誌 三三巻五号六七頁以下) / Einzeldelelikte, Bd. 3 Der Betrung, 1957. (紹介·菅又淳·犯罪学業 益脩夫、犯罪学雜誌二五卷五号一四九頁以下) / Zur Psychologie der trag zur Psychologie des regressiven Menschen. 1956. (紹介、和 沢浩一、本誌三〇巻一一号五九頁以下) / Der Desperado. Ein Bei-五号五五頁以下) / Zur Psychologie der Einzeldelikte. Bd. 2. Der 卷七号七一頁以下) / Die Strafe. I. Frühformen und kultur-四七頁以下) / Die Kriminalität des homophilen Mannes. 1960. / Einzeldelikte. Bd. 4. Die Erpressung. 1959. / Die Kriminalität 1963. / Der nekrotrope Mensch. Vom Totenglauben zum mor-Griff der Umweltkräfte. 1962. / Studien zur Kriminalgeschichte Zeit und Raum. 1961. / Das Verbrechen. Bd. 2. Der Delinquent im Das Verbrechen. Bd. 1. Der kriminelle Mensch im Kräftespiel von brechen. Bd. 3. Anlage-Komponenten im Getriebe des Delikts. 1962. / Soziologie der zoophilen Neigung. 1962. / Das Ver-

Bd. I. Diebstahl, Einbruch, Raub. 1954. (紹介·宮沢浩一、本誌三〇

biden Totennähe, 1964

1

ている。その発表の年度と頁数だけをあげておく。メイス刑法権誌には一九一二年以来五〇年以上にわたつて寄稿し

1912—S. 355 ff., 1913—S. 403 ff., 1920—S. 80 ff., 1923—S. 29 ff., 1927—S. 32 ff., 1929—S. 23 ff. u. S. 262 ff., 1930—S. 452 ff., 1934—S. 368 ff., 1935—S. 203 ff., 1936—S. 403 ff., 1937—S. 125 f. u. S. 201 ff., 1938—S. 34 ff., 1939—S. 137 ff., 1940—S. 168 ff., 1945—S. 145 ff., 1946—S. 324 ff. u. S. 444 ff., 1947—S. 337 ff., 1948—S. 121 ff., 1951—S. 181 ff., 1952—S. 443 ff., 1954—S. 11 ff. u. S. 48 ff., 1966—S. 32 ff., 1957—S. 276 ff., 1959—S. 16 ff., 1960—S. 281 ff., 1962—S. 281 ff.

りである(スイス刑法雑誌の分は、右の一覧表で補充した)。 前掲のヘルファー編・刑法史研究にある目録を補充すると左の通

Zum Problem der "gefährlichen Sittlichkeitsverbrecher." DJZ. 1934. Bd. 39. S. 529 ff. / The doctrine of mistake. Univ. of Karmas Law Rev. 1948. / Return to the science of the crime, in: Emays in criminal science. 1961. p. 53 ff.

The District Vorment Completion direct Interioral

Der "Räuber" - Vorwand. Grundzüge einer kriminellen Technik.

N. Pol. 1962. S. 12 ff. / Blutschandefälle Mutter-Sohn. MKri.

1962. S. 15 ff. / Die aggressive Frau. MKri. 1962. S. 193 ff. /

Tagebücher als Berichtsurkunde, SchwZStr. Bd. 78. 1962. S. 281

fallmörder. ZStrw. Bd. 74. 1962. S. 562 ff. / Das Problem des Grunus merdae. MKri. 1963. S. 222 ff. / Das Fehlurteil im Bild der Sagen und der Märchen. GA. 1963. S. 115 ff. / Porno-Photographien. Kriminal. 1963. S. 69 ff. / Pubische Zopfschneider. Kriminal. 1963. S. 593 ff. / Am Tatort unversehens hinterlassene Objekte. Ein Beitrag zur Indizienlehre. F. f. v. Weber. 1963. S. 388 ff. / Der Hund, der Mensch und das Verbrechen. N. Pol. 1964. S. 78ff / Zur Genealogie des Scharfrichters. SchwZStr. Bd. 80. 1964. S. 198 ff. / Der Psychopath. ZStrw. Bd. 76. 1964. S. 238 ff. / Beitrag nund Vertrauensleute im Beweisverfahren. MKri. 1965. S. 105 ff.

ホーニッヒ (Richard Honig)

一八九〇年一月三日、グネーゼン(現在はポーランド領グニエゾノGnleano)に生れたユダヤ系の人である。一九一四年にゲッチンゲン大学のR・マ・ヒッペルに提出した論文 Der ungleichartige Rück-大学のR・マ・ヒッペルに提出した論文 Der ungleichartige Rück-取得し、一九二〇年に請求論文 Die Einwilligung des Verletzten. Teil I. Die Geschichte des Einwilligungsproblems und die Methoden-fragen, 1919. によつて私講師となつた。一九二五年、ゲッチンゲンケ学員外教授、一九三一年正教授となつたが、一九三三年の政変によりトルコに逃れ、イスタンブール大学教授として一九三九年までよりトルコに逃れ、イスタンブール大学教授として一九三九年までよりトルコに逃れ、イスタンブール大学教授として一九三九年までよりトルコに逃れ、イスタンブール大学教授として一九三九年まで

に居をかまえ、時として講義、講演を行うため渡欧し、又アメリカ公刊した。その後、アメリカに渡り終戦となつたが、戦後にはそこ行)、法哲学(一九三五年―二版)、ローマ法(一九三八年―三版)を同地で活躍した。 この間トルコ語で 法学入門(一九三四年―三版発

岩田

刑法学の研究を寄稿して居る。

Studien zur juristischen und natürlichen Handlungseinheit. Zugleich ein Beitrag zur Strafrechtsreform. 1925. / Straflose Vorund Nachtat, 1927. / Beiträge zur Entwicklung des Kirchenrechts. 1954. / Humanitas und Rhetorik in spätrömischen Kaisergesetzen. Studien zur Gesinnungsgrundlage des Dominats. 1960.

15

M. Searle Bates: Glaubensfreiheit. 1947. / H. R. Niebuhr:
Der Gedanke des Gottesreichs im amerikanischen Christentum.
1948. / John C. Bennett: Christentum und Gemeinschaft, 1949.

Entwurf eines amerikanischen Musterstrafgesetzbuches, 1965.

論文

Zusammentreffen mehrerer Gesetzesverletzungen. GS. Bd. 92. 1926. S. 115 ff. / Kausalität und objektive Zurechnung. F. f. R. Frank. Bd. 2. 1930. S. 174 ff. / Die Entwicklungslinie des Unterlassungsdelikts vom römischen bis zum gemeinen Recht. F. f. R. Schmidt. 1932, S. 1 ff. / Deutsche Strafrechtsreform im Lichte amerikanischer Strafrechtsgrundsätze. ZStrw. Bd. 70, 1958. S.

616 ff. / Jerome Halls Strafrechtslehre. ZStrw. Bd. 74. 1962.
S. 379 ff. / Entwurf eines Strafgesetzbuches für die Vereinigten
Staaten von Amerika (Model Penal Code). ZStrw. Bd. 75. 1963.
S. 63 ff. / Die Regelung des Irrtums im Model Penal Code. M
Kri. 1964. S. 137 ff. / Entwurf eines amerikanischen Musterstrafgesetzbuches (Model Penal Code) Teil II. ZStrw. Bd. 77.

イェシェック (Hans-Heinrich Jescheck)

1965. S. 37 ff.

一九一五年一月一〇日、シュレジアのリーグニッツ(現ポーラント領)に生れた。父親は司法参事官であつた。一九三九年に Die furistische Ausbildung in Preussen und im Reich, 1939. という論がristische Ausbildung in Preussen und im Reich, 1939. という論がで学位を得た。戦争末期にフランス軍の捕虜となり、戦後一九四文で学位を得た。戦争末期にフランス軍の捕虜となり、戦後一九四七年にフランス占領地区であるフライブルクの地方裁判所に勤務して戦犯裁判に関与したためもあつてフランス語とフランス刑法に通じるようになつた。一九四九年チュービンゲン 大学私継師と なった。請求論文は同大学のケルン教授に提出した Die Verantwortlichkeit der Staatsorgane nach Völkerrecht. Eine Studie zu den Nürnbeger Prozessen, 1952. である。一九五二年にはカールスルースの高等裁判所判事を兼任したが、一九五二年にはカールスルーの連備をするに当つて司法省参事官として招聘された。一九五四年の連備をするに当つて司法省参事官として招聘された。一九五四年の連備をするに当つて司法省参事官として招聘された。一九五四年の連備をするに当つて司法省参事官として招聘された。一九五四年が別議である。

の学者の祝賀論文集にも積極的に寄稿している。但し、残念なことはドイツ刑法学会を代表して小まめに出かけては鸛論をし、又外国刑法学も国際性を失いがちであるが、この中にあつてイェシェック後、ドイツの学者ほとかく国際会議に出席することが少なく、そのイエシェックは非常に流暢なフランス語を喋る。V・リストの死

に刑法理論家としては一流ではない。

力に弱いという一面を示すものといえようか。

改正を強力に押しすすめるという論調に変つてしまつた。人間が権改正草案の世界観的基礎という論文では、すつかり権威的になり、法改正と現代の人間像を論じた頃には、改正について慎重であつた法改正と現代の人間像を論じた頃には、改正について慎重であつた大柄でその頻には若き日の決闘のあとを残しているといつた風貌

1

Entwicklung, Aufgaben und Methoden der Strafrechtsvergleichung, 1955. (斉藤金作訳・比較刑法について・早稲田大学比較法研究所記要第一九号。なお、紹介・同氏、刑法雑誌五巻四号六一頁以下) / Strafrechtsreform. 1957. (紹介・宮沢浩一、本誌三一巻二二号八一頁以下) / Strafrecht und Strafrechtsanwendung in der sowjetisch besetzten Zone Deutschland. 1962. / Das Institut für ausländisches und internationales Strafrecht in Freiburg i. Br. 1938-1963. 1963. (西原春夫・綜合法学 Strafrechtsanwendung in der sowjetisch besetzten Zone Deutsch- land internationales in Freiburg i. Br. 1938-1963. 1963. (西原春夫・綜合法学 Strafrecht und militäri- n九六三年一二月号八一頁以下多照)/ Pressefreiheit und militäri-

sches Staatsgeheimnis. 1964.

**

Das Verfahren in Zivilsachen vor den Gerichten der französischen Militärregierung. DRZschr. 1948. S. 274 ff. / Kriegsverbrecherprozess gegen deutsche Kriegsgefangene in Frankreich. SJZ. 1949. S. 107 ff. / § 74 Abs. 2 S. 1 GKG. ist in der Berufungsinstanz nicht entsprechend anwendbar. DRiZ. 1952. S. 25 ff. / Die Entwicklung der Zivilprozesspraxis seit 1945. ZZP. 1952. S. 364 ff. / Zur Frage der Strafbarkeit von Personenverbände. öffentl. Verw. 1953. S. 539 ff. / La protection pénal des conventions internationales humanitaires. Rev. int. dr. pén. comp. 1953. p. 13 ff. / Die strafrechtliche Verantwortlichkeit der Personenverbände. ZStrw. Bd. 65, 1953. S. 210 ff. / Die Strafgewalt übernationaler Gemeinschaften. ZStrw. Bd. 65. 1953. S. 496 ff.

Die Rechtsprechung des Bundesgerichtshofs in Strafsschen (Bd. 1-5, Entscheidungen zum Allgemeinen Teil des Strafrechts). GA. 1954. S. 322 ff. / Die europäische Konvention zum Schutz der Menschenrechte und Grundfreiheiten. NJW. 1954. S. 783 ff. / Zur Frage der Kuppelei gegenüber Verlobten. MDR. 1954. S. 645 ff. / Die internationale Genocidium-Konvention vom 9. Dezember 1948 und die Lehre vom Völkerstrafrecht. ZStrw. Bd. 66. 1954, S. 193 ff. / Die internationale Rechtshilfe in Strafsschen in Europa.

フライブルク大学教授、外国・国際刑法研究所長時代

S. 225 ff. / Verbrechen gegen das Völkerrecht, Deut. LRef. z. pén. comp. 1956. p. 371 ff. / Anstiftung, Gehilfenschaft und commises à bord des séronefs et leurs conséquences. Rev. int. dr. Strafsschen (Bd. 6 und 7). GA. 1956. S. 97 ff. / Les infractions p. 283 ff. / La fonction sociale de la peine. Rev. int. déf. soc. République Féderal d'Allemagne, Les Grand. Syst. Pén. II. 1955. ZStrw. Bd. 67. 1955. S. 529 ff. / Le system pénitantiaire de la gens. Rev. int. dr. pén. comp. 1955. p. 503 ff. / Die Konkurrenz. deren Teil des StGB). GA. 1955. S. 97 ff. / Crimes du droit des gerichtshofs in Strafsachen (Bd. 1-5, Entscheidungen zum Beson-ZStrw. Bd. 66, 1954. S. 518 ff. / Die Rechtsprechung des Bundes-Die an Bord von Luftfahrzeugen begangenen Straftaten und ihre das strafrechtliche Feststellungsverfahren. GA. 1957. S. 365ff. / der Strafrechtsreform. JZ. 1957. S. 108 ff. / Ehrenschutz durch Mittäterschaft im deutschen Strafrecht. Schw. ZStr. Bd. 72. 1956. 1955. p. 172 ff. / Die Rechtsprechung des Bundesgerichtshofs in 217 ff. / Vom Stil der gegenwärtigen deutschen Strafrechts-Folgen. ZStrw. 1957. (Deut. Beitr.) S. 195 ff. / Die Entwicklung 4. Int. Kong. RVgl. 1956. / Die Behandlung des Zweikampfs in chung des Bundesgerichtshofs in Strafsachen (Bd. 8 und 9). GA. gegen Ausland. F. f. Rittler, 1957. S. 275 ff. / Die Rechtsprepflege. F. f. Germann. (SchwZStr Bd. 75), 1957. S. 56 ff. / Straftaten des Völkerstrafrechts nach Nürnberg. SchwZStr. Bd. 73, 1957. S.

der Sittlichkeitsverbrechen im Entwurf des Strafgesetzbuchs von S. 356 ff. / Das deutsche Wirtschaftsstrafrecht. JZ. 1959. S. 457 Stil der gegenwärtigen deutschen Strafrechtspflege. DRiZ. 1959 der Strafrechtswissenschaft. St. Gen. 1959. S. 107 ff. / Vom 76), 1958. S. 184 ff. / Die Rechtsprechung des Bundesgerichtshofs schen Strafrechts auf das deutsche. F. f. Logos. (Schw. ZStr. Bd. Strafrecht. JZ. 1958. S. 591 ff. / Der Einfluss des schweizeri-1958. S. 1 ff. / Die Entschädigung des Verletzten nach deutschem der Offentlichkeit für die moderne Kriminalpolitik. ZStrw. Bd. 71 Rev. scien. crim. e. dr. pén. 1959. p. 67 ff. / Die Behandlung ff. / Les principes de la réform actuelle du droit pénal allemand. in Strafsachen (Bd. 10 und 11), GA. 1959. S. 65 ff. / Methode 1961. p. 395 ff. / Die Entwicklung des Verbrechensbegriffs in and cultural-historical background. Essays in criminal science. 1959. Bek. d. Sittl. Del. BKA. 1959. S. 267 ff. / Die Bedeutung wicklung, F. f. E. Schmidt. 1961. S. 139 ff. (紹介・藤尾彰、法学論 strafrechtliche Handlungsbegriff in dogmengeschichtlicher Entde l'individu, in: La responsalité penale, 1961. p. 415 ff. / 八号九七頁以下) / La conscience humain et la responsabilité pénale Lehre. ZStrw. Bd. 73. 1961. S. 176 ff. (紹介·宮沢浩一、本誌三六巻 Deutschland seit Beling im Vergleich mit der österreichischen 1959. S. 1 ff. / German criminal law reform; Its development **搬**七二卷二号六八頁以下) / Recht und Praxis der Untersuchungs Der

339 ff. / Schweizerisches Strafrecht und deutsche Strafrechtsoction penale tedesco. Rev. ital. dir, pén. 1962. p. 641 ff. / Der haft in der Bundesrepublik Deutschland. GA. 1962. S. 65 ff. analandischen Recht. Fr. d. Tod. Str. 1962. S. 49 ff. / Aufbau die Zurechnungsfähigkeit aus der Sicht des Juristen. Gerichtl. reform. Schw. ZStr. Bd. 78. 1962. S. 172 ff. (紹介·宮沢浩一、本 strafrechtliche Staateschutz im Ausland. ZStrw. Bd. 74, 1962. S. Gründlagen der Strafrechtsreform. Zum Entwurf des neuen Strafsur la question des effets internationaux de la sentence pénal Universität. Convent. 1963. S. 52 ff. / Rapport général provisoire Wolf. 1962. S. 473 ff. / Gegen eine Erziehungsfunktion der und Stellung des bedingten Vorsatzes im Verbrechensbegriff. F.f. Psychol., hergg. Blau us. 1962. S. 208 ff. / Die Todesstrafe im Bewusstseinsstörungen und seelischer Ausnahmeerscheinungen für 誌三八巻三号一〇八頁以下) / Die Bedeutung nicht-krankhafter geisetzbuchs. Evang. Welt. 1962. S. 721 ff. / Il progetto del nuovo le domaine du droit international pénal. Rev int dr. pén comp. S. 325 ff. / Etat actuel et perspective d'avenir des projets dans nisse in der Bundesrepublik Deutschland. F. f. v. Weber. 1963. 1963. S. 30 ff. / Die Vollstreckung ausländischer Straferkenntund politischen Grundlageu des Entwurfs eines Strafgesetzbuchs rev. int. dr. pén. comp. 1963. p. 205 ff. / Die weltanschaulichen (E 1962). ZStrw. Bd. 75, 1963. S. 1 ff. do, in: Prob. d. Str. Ref.

1964. p. 83 ff. / Le basi ideologiche e politiche del progetto per un nuovo codice penale germanico. Sc. Pos. 1964. p. 11 ff. / Die Behandlung der unechten Unterlassungsdelikten im deutschen und ausländischen Strafrecht. ZStrw. Bd 77. 1965. S. 109 ff.

アルミン・カウフマン (Armin Kaufmann)

あるが、ファイトにあふれたといつた感じの学者である。節のウェ 的々行為論の一大勢力としてポン大学派を形成している 帰つてきた。ウェルツェルと、退任したマ・ウェーバーと三人が目 学員外教授となり赴任したが、一九六三年ポン大学の正教授として Unterlassungsdelikte, 1959 である。一九六一年にチュービンゲン大 ボン大学の私講師となつた。請求論文は有名な Die Dogmatik der logik und moderne Strafrechtsdogmatik, 1954. である。一九五七年 た。論文は Lebendiges und Totes in Bindings Normentheorie. Norm-ときからウェルツェルについて研究を重ね、一九五一年に学位を得 論文ではかなりはげしい調子で、しかも相手の上げ足をとつたり、 師よりははるかにうまい。たしかに、一面的ではあるけれども、ぐ ルツェル以上に徹底したフィナリストであるといわれるが、弁説も 言わないことを揩定して議論したりするところもないわ けで はな いぐいと議論を押しまくる強さをもつ。討論のマナーに比べると、 一九二二年七月六日、パンテルンに生れた。ゲッチンゲン大学の カウフマンは見るからに聡明そうな顔をしている。大へん小柄で

りする芸の細かさもあるという。個人的に会いに行つて反論されると、意外に丁寧な物腰でかわしたøロラキスの批判に対して、高い調子の反批判をしたり、それを又的に誇張して議論するので論争がかみ合わない。ギリシアのアンド的に誇張して議論するので論争がかみ合わない。どちらもかなり一面へルドウィッヒとやり合つたりしているが、どちらもかなり一面

うな傾向が示されている。れてゆくが、この理論の本来の意味合いから次第にはなれてゆくよれてゆくが、この理論の本来の意味合いから次第にはなれてゆくよにつとめているので、ウェルツェルの学説の中の不明確さは払拭さ 非常に論理的に明快な調子の論文を書き、目的的行為論の体系化

三巻三号九七頁)により学位を得た。

貧文

アルトゥール・カウフマン (Arthur Kaufmann)

faden durch moderne Schuldlehre. 1949. (紹介・福田平、刑法兼誌をwww.setsein in der Schuldlehre des Strafrechts. Zugleich ein Leitbewusstesin in der Schuldlehre des Strafrechts. Zugleich ein Leitbewusstesin in der Schuldlehre des Strafrechts. Zugleich ein Leitbewusstesin in der Schuldlehre. 1949. (紹介・福田平、刑法兼誌 中心に表する。一九四九年に公刊された Das Unrechts. ということによっている。

年よりザール大学の正教授となつて今日に至つている。 年よりザール大学の正教授となつて今日に至つている。 年よりザール大学の正教授となって今日に至っている。 年よりザール大学の正教授となって今日に至っている。 年よりザール大学の正教授という不運に遭い、カトリック教徒というた まrafrechtliche Untersuchung, 1961. (紹介・宮沢浩一・法哲学年報・ まrafrechtliche Untersuchung, 1961. (紹介・宮沢浩一・法哲学年報・ またの概念(上)一六七頁以下)を受理したので私講師となり、一九六〇 生の概念(上)一六七頁以下)を受理したので私講師となり、一九六〇 生の概念(上)一六七頁以下)を受理したので私講師となり、一九六〇 生の概念(上)一六七頁以下)を受理したので私講師となり、一九六〇

在論的基礎づけを企て、刑法においても存在論的行為論の完成を志つた幅の広い学識は高く評価されている。法哲学においては法の存の深さ、ヤスパース、ハイデッガーに至る新らしい哲学の受容といの深さ、ヤスパース、ハイデッガーに至る新らしい哲学の受容といの漢さ、ヤスパース、ハイデッガーに至る新らしい哲学の受容というでれた法哲学カウフマンには刑法に関する論文とともに多くのすぐれた法哲学

著書・編書

Naturrecht und Geschichtlichkeit. 1957. (紹介・野口寛・法哲学年報・抵抗権一五八頁以下その他) / Aphorismen zur Rechtsweisheit. 1963. / Recht und Sittlichkeit. 1964. / Die ontologische Begründung des Rechts. 1965. (その一部の翻訳・宮沢浩一・原秀男・本誌三六巻六号七一頁以下) / Analogie und "Natur der Seche." Zugleich ein Beitrag zur Lehre vom Typus. 1965.

merkmalen. JZ. 1954. S. 653 ff. / Zur wiedergutmachungsrechtlichen Stellung der Zeitbeamten. Z. f. BeamtR. 1955. S. 331
ff. / Um das Gesetz gegen jugendgefährdende Schriften. St d.
Zt. 1955/56. S. 421 ff. / Tatbestand, Rechtfertigungsgründe und
Irrtum. JZ. 1956. S. 353 ff. u. 393 ff. / Um die Todesstrafe. RupertoCarola. 1957. S. 44 ff. (翻訳・宮沢治一・法曹時報一九六五年七月号一頁
以下) / Der Mensch im Recht. Rup. Car. 1958. S. 27 ff. / Zur
Rechtsmittelbeschränkung in Jugendstrafsschen. JZ. 1958. S. 9 ff.
/ Ärztliche Schweigepflicht und bonum comune. Die neue
Ordnung. 1958. S. 189 ff. / Recht als Mass der Macht. St. d.
Zt. 1958/59. S. 22 ff. / Zur Frage der Beleidigung von Kollektivpersänlichkeiten. ZStrw. Bd. 72. 1960. S. 418 ff. (紹介・宮沢
浩一・本誌回号) | 回頁以下)

ザール大学教授時代 Die Gedanken zur Überwindung des rechtsphilosophischen Relativismus, ARSP. 1960. S. 553 ff. / Die

> S. 200 ff. (紹介・森井暲、法学論叢七〇巻二号一三三頁以下) / Schuld und Sühne. Zur Reform des deutschen Strafprozesses. Die pothetischer Erfolgsursachen im Strafrecht. F. f. E. Schmidt. 1961 eigenmächtige Heilbehandlung. ZStrw. Bd. 73. 1961. S. 341 ff. S. 425 ff. / Bemerkungen zum Irrtum beim unechten Unterlas-中) / Zur rechtsphilosophischen Situation der Gegenwart. JZ. neue Ordnung. 1962. S. 455 ff. / Gesetz und Recht. F. f. Wolf. (紹介·宮沢浩一·本誌三六巻八号一〇二頁以下) / Die Bedeutung hy-Pol. 1964. S. 51 ff. / Stato della legge e stato di diritto. Riv. sungsdelikt. JZ. 1963. S. 504 ff. / Die Strafrechtsreform. Deut. Unrecht und Schuld beim Delikt der Volltrunkenheit. JZ. 1963. 1963. S. 137 ff. (翻訳・宮沢浩一・本誌三七巻五号四二頁以下) / 1962. S. 357 ff. (翻訳・宮沢浩一・綜合法学一九六三年七月号~一二月 S. 543 ff. / Die ärztrechtlichen Bestimmungen im Strafgesetzenttumsregelung im Strafgesetzentwurf 1962. ZStrw. Bd. 76, 1964. reform. Civitas. Jb. f. chr. Ges. Ord. 1964. 3. Bd. S. 22 ff. / Die Irrint. d. fil. d. dir. 1964. S. 214 ff. / Gedanken zur Strafrechtsund Methodenlehre. JuS. 1965. S. 1 ff. (この職文は、Ernst Fuchs: rechtsbewegung-lebendig oder tot? Ein Beitrag zur Rechtstheorie wurf 1962. Med. Klinik. 59 Jg. 1965. Nr. 11/12. S. 3 ff. / Freilehre, 1965. S. 1ff. に採録されている) Gerechtigkeitswissenschaft. Ausgewährte Schriften zur Freirechte

ヒルデ・カウフマン (Hilde Kaufmann)

処遇等についての発言を聞くことが出来るであろう。表された論文は三つであるが、今後、予測とか保安監置とか少年のよりも大きく、かつ年齢も少しばかり上であるとか。これまでに発大へんふくよかな、笑顔のやさしい感じのいい人である。御主人

文

Was lässt die Kriminologie vom Strafrecht übrig? JZ. 1962. S. 193 ff. / Grammaticas System der Difesa Sociale und das deutsche Schuldstraffecht F. f. v. Weber. 1963. S. 418 ff. / Beleidigung und falsche Anschuldigung, in: Handwörterbuch der Kriminologie, 2. Aufl. 1965, S. 75 ff.

ケルン (Eduard Kern)

であつたという。軍大佐、その先祖は一六・七世紀に彫刻家一族としてならした人達軍大佐、その先祖は一六・七世紀に彫刻家一族としてならした人達(一八八七年一〇月一三日、シュトゥットガルトに生れた。父は陸

ケルンは法実証主義の旗頭、ベーリングの弟子である。一九一二

年に Die systematische Abgrenzung der Verbrechenselemente bei der Beleidigung. 1912. で学位を取得、一九一九年にミュンヘン大学私講師となつた。請求論文は有名な Die Äusserungsdelikte, 1919である。一九二〇年、フライブルク大学より招聘を受け、同大学員である。一九二〇年、フライブルク大学より招聘を受け、同大学員外教授に就任し、一九二三年正教授となつた。一九三六年にはチュービンゲン大学教授に転じ、長くその職にあつたが、一九五六年に退任した。その後も、著書の改訂、新著の公刊をつづけ、又学会に退任した。その後も、著書の改訂、新著の公刊をつづけ、又学会にも出席して居られる。

その学風は堅実そのものであり、刑法、刑訴法にすぐれた研究を発表している。しかし、何といつでも、ケルンの業績について特筆が表している。しかし、何といつでも、ケルンの業績について特筆発表している。しかし、何といつでも、ケルンの業績について特筆発表している。しかし、何といつでもり、刑法、刑訴法にすぐれた研究を

一九五七年以後に公刊された論文をあげるにとどめておく。一・一二月号三八三頁以下にある。ここでは、その代表的な著書となお、ケルンの著作目録はゴルトダンマー刑法雑誌一九五七年一

1

Ausnahmegerichte. 1924. / Neue Formen erlaubter und unerlaubter Ausspielungen. 1925. / Der gesetzliche Richter. 1927 / Zur Strafrechtsreform. 1927. / Der Rechtsstaatsgedanke im Strafrecht und Strafverfahrensrecht von der Reichsgründung bis zur Gegenwart. 1933. / Die Grundgedanken des neuen Gerichts-

1

Ist die Zuteilung eines Richters an einen auswärtigen Spruchkörper seines Gerichts wider seinen Willen zulässig? DRiZ.
1958. S. 135 ff. / Über die Mitwirkung von Richtern bei der
Berufung von Richtern. DRiZ. 1958. S. 301 ff. / Eine Einzelfrage zum Problem des gesetzlichen Richters. JZ. 1958. S. 237 ff.
/ Zum Regierungsentwurf 1958 eines Richtergesetzes. JZ. 1958.
S. 274 ff. / Die deutsche Finanzgerichtsbarkeit. DRiZ. 1960. S.
374 ff. / Das Ende der Friedensgerichte. JZ. 1960. S. 244 ff. /
Das künftige Schicksal der Übertretungen. RPfl. 1960. S. 266 ff. /
Das neue Richtergesetz. JZ. 1961. S. 617 ff. / Lehren des Brüh-

nenprozesses. DRiZ. 1962. S. 353 ff. / Zur Gleichbewertung der verschiedenen Zweige der Gerichtsbarkeit. JZ. 1962. S. 110 ff. / Der Bericht der Kommission zur Vorbereitung einer Reform der Zivilgerichtsbarkeit. ZZP. 1962. S. 145 ff. / Änderung des Grundgesetzes wegen der belasteten Richter? DRiZ. 1963. S. 246 ff. / Die Ausschliessung des Eröffnungsrichters im erkennenden Gericht. F. f. H. v. Weber. 1963. S. 368 ff.

キールワイン (Gerhard Kielwein)

渡つて帰国したという話が残つている。日、ロンドン大学での研究生活をうち切つて最後の船でドーパーを夕大学の シェーンケ教授の 門下生の 一人である。 第二次大戦の前一九二二年一月七日、シュトゥットガルトに生れた。フライブル

を続けた。従軍中、負傷して隻腕となる。戦後、再びイギリスに渡つて研究

際刑法研究所長代理をしていたときにその行政的手腕を発揮したとDie Straftaten gegen das Vermügen im englischen Recht, 1955. であつた。その後、ボン大学の司法省参事官として刑法改正の準備作あつた。その後、ボン大学の司法省参事官として刑法改正の準備作あった。その後、ボン大学の司法省参事官として刑法改正の準備作ある。又、シェーンケ教授の急逝後、フライブルク大学の所語改正の準備作ある。又、シェーンケ教授の急逝後、フライブルク大学の所語改正の連備作ある。又、シェーンケ教授の急逝後、フライブルク大学の開発改正の連備作ある。又、シェーンケ教授の急逝後、フライブルク大学和講師となったが、請求論文は一九五三年にフライブルク大学和講師となったが、請求論文は

長として八年にわたつて活躍したことに負うところが大であるとさ とは学界におけるその存在が貴重であるだけに残念である。 れている。しかし、半面、キールワイン個人の研究業績が少ないこ のことであるがザール大学の今日の隆盛は、法学部長、評議員、学

もつているから、今後の研究成果が待たれるところである。 インの集めた尨大な英・米の刑事学の文献を揃えた刑事学研究所を ルン大学のボーネ教授の遺された蔵書を買い取り、さらにキールワ もどより、ザール大学には故ゼレリッヒ教授が設立し、近くはケ

Sar. Bd. 8, 1960, S, 127 ff tigen Stand der internationalen Kriminalpolitik. F. f Rittler. lassung und Teilnahme. GA. 1955. S. 225 ff. / Zum gegenwär-S. 321 ff. / Die Wirtschaftsspionage. ebenda. S. 493 ff. / Unterschwere Diebstahl, Raub und Erpressung. ebenda. Bd. 2 II. 1955. Freiheit oder Sicherheit. ebenda. Bd. 2 II. 1955. S. 309 ff. / Der Bd. 2. I. 1954. S. 117 ff. / Die Straftaten gegen die persönliche / Nebenstrafen, Ehrenstrafen und Sonderstrafen. Mat. Str. Ref. 1957. S. 95 ff. / Grundgesetz und Strafrechtspflege. An. Uni. Reformsfragen im internationalen Strafrecht, GA. 1954. S. 211ff.

クルーク (Ulrich Klug)

ク大学でエンギッシュについて学び、学位を論文 Die zentrale Be 一九一三年一一月七日、ヴッパータールに生れた。ハイデルベル

> deutung des Schutzgedankens für den Zweck der Strafe, 1938. L 有限会社法、株式法、破産のコンメンタールで、刑法とそれら諸法 る。だが、学界において特にその成果を高く評価されているのは、 法理論学の他に、法哲学、殊に法論理学に見るべき業績を残してい 外教授に転じ、さらに一九六一年ケルン大学正教授に就任した。刑 雑誌七六巻四号四七○頁以下)である。 一九五六年にマインツ大学員 Juristische Logik, 1951, 2. Auft. 1958. (紹介·碧海純一、法学協会 よつて取得し、一九五〇年、同大学私講師と なつ た。 請求論文は との交錯する領域を手がけていることであろう 。

Strafzumessung bei Diebstahl, Einbruch und Raub. 1958. / Klug: Kommentar zum Aktiengesetz. 2. Aufl. 1957. / Lent-Weber: Kommentar zur Konkursordnung. 8. Aufl. 1958. / Probleme der Aufl. 1956. / Fischer-Schmidt-Schilling-Weibert-Meyer=Landrut: in: Konkurs-, Treuhand-, Schiedsgerichtswesen. 23. 1962. S. 65 ff. Aktienstrafrecht. 1962. / Aktuelle Probleme des Konkursstrafrecht Schmidt-Schilling-Goerdeler: Kommentar zum GmbH-Gesetz. 6.

S. 222 ff. / Zur logischen Analyse der Kausalitätsformel im Zur Kritik des rechtsphilosophischen Utilitarismus. ARSP. 1949. wissenschaft, Ursachenbegründung und Neurosenfragen. 1941. / lage der juristischen Kausalitätslehre, in: Martineck; Rechts-Zum Problem der logischen und erkenntnistheoretischen Grund-

rochts, F. f. Walter Schmidt, 1959. S. 39 ff. (この論文の表題をDau: St. Gen. 1959. S. 579 ff. / Die Neuordnung des Bankenstimm-1958. S. 47 ff. / Relatives und absolutes Bankrecht. F. f. Veit. S. 462 ff. / Der Legalitätsbegriff. L. Ref. f. 5. Int. Kong. Rvgl. und Wertpapierverschleuderung im Konkursstrafrecht. JZ. 1957. Bd. 68, 1956. S. 399 ff. / Der Eigentumsvorbehalt bei der Waren-Gegenwart. 1955. / Zum Begriff der Gesetzeskonkurrenz. ZStrw. / Das Menschenbild im Recht, in: Silber; Menschenbild der Strafrecht, in; Menne-Wilhelmy-Angstl; Kontrolle Denken. 1951. 33 ff. / Sozialkongruenz und Sozialadäquanz im Strafrechtssystem. tatbestände. JZ. 1960. S. 724 ff. / Der Handlungsbegriff des und strafrechtliche Folgerungen bei der Auslegung der Bestechungs-Bibliographie juristischer Festschriften und Festschriftenbeiträge 1945-1958, / Kritik in strafrechtlicher und rechtsphilosophischer Sicht. 四八頁。以下)なお、庭山英雄・期待可能性についての一考察 ---F. f. E.Schmidt, 1961.S.249 ff. (紹介·中義勝·法学論叢七〇巻五号一 Finalismus als methodologisches Problem. F. 1. Emge. 1960. S. するが、もとより間違いである) / Psychologische Vereinfachungen 1961-Deutschland-Schweiz-Österreich, 1962, S. 44. H. Umordnung N 1962. S. 332 ff. / Rechtsphilosophische und rechtspolitische Pro-下為底) / Ordnung und Gesellschaft. Das Problem der Ordnung. 社会的相当性との関連において ---- (一橋論叢五二巻四号八七頁以 bleme des Sexualstrafrechts, in: Sexualität und Verbrechen.

1963. S. 27 ff. / Die Reine Rechtslehre von Hans Kelsen und die formallogische Rechtfertigung der Kritik an dem Pseudoschluss vom Sein auf das Sollen. in: Essays in Honor of Hans Kelsen. 1964, S. 154 ff. / Die Verpflichtung des Rechtsstaats zur Verjährung. JZ. 1965. S. 149 ff. / Rechtslücke und Rechtsgeltung F. f. H. C. Nipperdey, 1965. S. 71 ff.

クレブス (Albert Krebs)

での論文の多くは、自らが主宰する行刑雑誌(Zeitschrift für 彼の論文の多くは、自らが主宰する行刑雑誌(Zeitschrift für 次の論文の多くは、自らが主宰する行刑雑誌(Zeitschrift für 彼の論文の多くは、自らが主宰する行刑雑誌(Zeitschrift für 彼の論文の多くは、自らが主宰する行刑雑誌(Zeitschrift für 彼の論文の多くは、自らが主宰する行刑雑誌(Zeitschrift für かない論文の多くは、自らが主宰する行刑雑誌(Zeitschrift für かない論文は、日に はいまましましましましましましまします。

論文

究は高く評価されている。

Strafvollzug)に発表されている。 行刑学の分野における貴重な研

Grundsätze für die Verwaltung der deutschen Gefängnisse und Zuchthäuser. SchwZStr. Bd. 63, 1948, S. 369 ff. / Über die

bruch 1948. S. 174 ff. / Schwedens Gefängniswessen. F. f. Radbruch 1948. S. 174 ff. / Schwedens Gefängniswessen. ZStrw. Bd. 64. 1952, S. 406 ff. / Hauptfragen einer Rechtsverordnung über den Vollzug von Jugendstrafen. MKri. 1953. S. 129 ff. / Grundfragen des Strafvollzugs bei Jugendlichen und Heranwachsenden. Bek. Jug. Krim. BKA. 1955. S. 157 ff. / Probleme der Behandlung Rückfälliger in der Strafanstalt. ZStrw. Bd. 68. 1956. S. 198 ff. / Die heutige Situation des deutschen Strafvollzugs. Krim. u. Vollz. d. Fr. Str. 1961. S. 27 ff. / Die Vorschläge von Heinrich Balthasar Wagnitz zur Ausbildung der Strafanstaltsbediensteten in ihrer Bedeutung für die Gegenwart, F. f. E. Schmidt. 1961. S. 70 ff. (紹介·福斯青川·热学海蒙七〇海四中八〇河元) / Probleme und Erfahrung bei dem Neubau von Strafanstalten. Univ. Tag. 1964. S. 143 ff.

ラックナー (Karl Lackner)

い法律の解説を書くなどの活躍をしていた。
ンの聯邦司法省参事官として活躍し、コンメンタールを書き、新したである。それだけに有能な人であるということが分る。長く、ボを投資格請求論文を書かないで正教授になつた、全く例外的な存

寄与したといわれる。刑法改正委員をしているハイデルベルク大学をした。切れる頭とあざやかな弁舌を駆使し、議事の進行に大きく刑法改正委員会でも、政府側委員として司法省を代表して大活躍

いう。のガラスがほれこんで、一九六四年に正教授のポストを提供したとのガラスがほれこんで、一九六四年に正教授のポストを提供したと

て、見るからに利口そうな風貌である。 中背のがつちりした体の上に、見事な前後デコの頭が の つ て い

著書(共著)

Dallinger-Lackner: Jugendgerichtsgesetz. 1955. 2. Aufl. 1965. / Dreher-Lackner-Schwalm: Wehrstrafrecht. 1958. / Dallinger-Lackner: Rechtsprechung zum Jugendgerichtsgesetz. 1958. / Dallinger-Lackner: Wehrstrafrecht des Jugendgerichtsgesetzes. 1958.

論文

Das Mindestmass der Jugendstrafe. JZ. 1952, S. 359 ff. / Der Strafrechtsteil des Gesetzes zur Sicherung des Strassenverkehrs. MDR. 1953. S. 73 ff. / Das dritte Strafrechtsänderungsgesetz. Die Strafaussetzung zur Bewährung und die bedingte Entlassung. JZ. 1953. S. 428 ff. / Das Jugendgerichtsgesetz. JZ. 1953. S. 527 ff. / Nochmals: Entziehung der Fahrerlauhnis und Beschlagnahme des Führerscheins. NJW. 1953. S. 1172 ff. / Zum Wirtschaftsstrafgesetz 1954. MDR. 1954. S. 578 ff. / Nochmals: Ist die Entziehung der Fahrerlauhnis bei Anwendung des Jugendgerichtsgesetzen möglich? NJW. 1954. S. 629 ff. / Kollisionen zwischen Jugend- und Erwachsenenstrafrecht. GA. 1955. S. 33 ff. / Die Abgabe des Verfahrens nach dem Jugendgerichtsgesetz. GA. 1956. S. 379 ff. / Das vierte Strafrechtsänderungsgesetz. Ma-

Strafgesetzbuches in der Auseinandersetzung. JZ. 1963. S. 618 ff. scheinung. 1961. S. 141 ff. / Für und wider die Strafbarkeit des Zur Reform des Verkehrsstrafrechts und des Verkehrsstrafdem 8. Mai 1945 begangenen Straftaten. NJW. 1960. S. 1046 ff. JZ. 1960. S. 437 ff. / Zur Strafverfolgungsverjährung von vor DAR. 1960. S. 309 ff. / Das fünfte Strafrechtsänderungsgesetz. der leichteren Verkehrszuwiderhandlungen im künftigen Recht. rechtsreform. DAR. 1958. S. 286 ff. / Gedanken über die Ahndung terielles Rocht, JZ. 1957. S. 401 ff. / Verkehrsreicht und Straf-1964. S. 674 ff. / Kriminologie und Strafrecht. Krim. Biol. G. Ehebruchs. ZFam. 1962. S. 411 ff. / Der allgemeine Teil des verfahrens, in: Folgenlose Verkehrsgefährdung als Massenerverkehrs. JZ. 1965. S. 92 ff. u. 120 ff. 1964. S. 6 ff. / Das zweite Gesetz zur Sicherung des Strassen-1963. S. 73 ff. / Das siebente Strafrechtsänderungsgesetz. JZ. Was soll aus den Verkehrsübertretungen werden? JJb. Nr. 4.

ランゲ (Richard Lange)

論文は Die notwendige Teilnahme, 1940. である。 一九四○年、イニ三年に Der moderne Täterbegriff und der deutsche Strafgesetz大学でコールラウシュの助手となつたのが一九三○年である。一九大学でコールラウシュの助手となったのが一九三○年である。一九大学でコールラウシュの助手となったのが一九三○年である。一九大学でコールラウシュの助手となったのが一九三○年である。 一九四○年、イルリンー九〇六年四月二九日、ウィットシュトックに生れた。ベルリンー九〇六年四月二九日、ウィットシュトックに生れた。ベルリン

以来、編集責任者である。これは、コールラウシュの遺著である刑 りベルリン自由大学教授となり、次いで一九五一年にはケルン大学 頃まで留まつていたが、一九四九年西に逃れ、一九四九年冬学期よ 前半に多くのすぐれた難誤論に関する論文があり、又、一九五五年 けたことと併せて、かつてのベルリン大学のリスト研究室の中心が 法註釈書を三九・四○版(一九五○年)から改訂する仕事を引き受 に転じ、今日に至つている。戦後、全刑法雑誌の復刊(一九五〇年) ェーナ大学員外教授、一九四三年同正教授となり、一九四九年五月 刑事学的基礎における変遷』は非常に重要な文献である。 年のドイツ法曹会議創立一〇〇年記念論文集に寄せた『刑法改正の にスイス刑法権誌に発表したドイツ刑法改正の根本問題、一九六〇 うものを骨身にしみて体験したという。それかあらぬか、東独の刑 である。社会主義体制のもつ矛盾、その自由のなさ、非法治性とい コールラウシュからランゲに移つたことを意味するものであろう。 又、ランゲは最後まで東独に居た経験をもつた西独の学者の一人 ランゲの業績には注目すべきものが多いが、中でも一九五〇年の

7

法、裁判制度を批判する論著も多い。

Kohlrausch-Lange: 39/40. Aufl. 1950 (紹介·吉川経夫、刑法雜誌: |巻|号|六四頁以下), 43. Aufl. 1961. / Zur Strafrechtsentwicklung in der sowjetischen Besatzungszone. 1951. / Der Rechtsstaat als Zentralbegriff der neuesten Strafrechtsentwicklung. 1952. / Grundfragen der Bereicherung des Strafgesetzbuches

unter besonderer Berücksichtigung der Strafzwecke, der Strafzunessungsnormen und der Tatbestandstechnik. Verh. d. Jur. Tag. (1951), 1952. / Die Justiz in der sowjetischen Besatzungszone. 1954. / Schutz der Landesverteidigung. 1957. / Rechtsidee und Rechtsideologie in West und Ost. Verh. z. 42. Jur. Tag. 1957.

論文

マリート大学世代 Der gemeingefährliche Rausch. ZStrw. Bd. 59. 1940. S. 574 ff. / Die grundsätzliche Bedeutung der neuen Bestimmungen über den Geltungsbereich des Strafrechts. DS. 1941. S. 6 ff. / Strafbegründung durch Fortsetzungszusammenhang. ZAk. 1941. S. 267 ff. / Täterschuld und Todesstrafe. ZStrw. Bd. 62. 1943/44. S. 175 ff. / Zum Denunziantenproblem. SJZ. 1948. S. 302 ff. / Das Kontrollratsgesetz Nr. 10 in Theorie und Praxis. DRZSchr. 1948. S. 148 ff. u. 185 ff. / Eduard Kohlrausch. DRZschr. 1948. S. 135 ff.

richtshofs für die Britische Zone zum Verbrechen gegen die Menschlichkeit. SJZ. 1948. S. 655 ff. / Probleme des § 1 StGB. MDR. 1948. S. 310 ff. / Die Schuld des Teilnehmers, insbesondere bei Tötungs- und Wirtschaftsverbrechen. JR. 1949. S. 165 ff. / Zur Strafrechtsreform. NJW. 1949. S. 695 ff. / Zur strafrechtlichen Judikatur des Obersten Gerichtshofes für die Britische Zone. JR. 1950. S. 615 ff.

bei den Ordnungswidrigkeiten. NJW. 1953. S. 687 ff. / Das Beitrag zur Tatbestands- und zur Irrtumslehre sowie zum ärztbei der ärztlichen Schwangerschaftsunterbrechung. Zugleich ein widrigkeiten als Vergehen. GA. 1953. S. 3 ff. / Irrtumsfragen deutung der Tiefenpsychologie. Z. Ger. Med. 1952. / Ordnungsvon Personenverbänden. JZ. 1952. S. 261 ff. / Forensische Bewie unzüchtige Handlung? JZ. 1951. S. 561 ff. / Zur Strafbarkeit Asylrechts. ZStrw. Bd. 65. 1953. S. 351 ff. / Ist die Polizeiverdritte Strafrechtsänderungsgesetz (Strafrechtsbereinigungsgesetz). lichen Berufsrecht. JZ. 1953. S. 9 ff. / Ordnungswidrigkeiten S. 373 ff. / Der Strafgesetzgeber und die Schuldlehre. JZ. 1956. fragen der deutschen Strafrechtsreform. SchwZStr. Bd. 70. 1955. Systematik der Strafdrohungen. Mat. St. Ref. Bd. 1. 1954. S. 69 v. 29. 9. 1941 noch anwendbar? NJW. 1954. S. 98 ff. / Die ordnung über die Werbung auf dem Gebiet des Heilmittelwesens NJW. 1953. S. 1161 ff. / Grundfragen des Auslieferungs- und S. 519 ff. / Die Anwendung des sowjetischen Strafrechts nach S. 73 ff. / Die Magna Charta der anständigen Leute. JZ. 1956. 中(紹介・光藤景皎、ドイツにおける刑法改正論六一頁以下)/ Grinddes sowjetischen Strafrechts und sein Einfluss auf die Rechtspre-Inhalt und Form in der sowjetzonalen Praxis, in: Die Entwicklung chung in der Sowjetzone. 1956. S. 41 ff. / Nur eine Ordnungs-ケルン大学教授時代 Unzucht bedeutet in \$175 StGB dasselbe

republik. Jb. f. OR. 1960. S. 9 ff. / Wandlungen in den krimi-Haupttat. JZ. 1959. S. 560 ff. / Zur Frage der Anerkennung RVgl. 1958. S. 217 ff. / Zur Teilnahme an unvorsätzlicher Sanktionen im Wirtschaftsstrafrecht. L. Ref. z. 5. Int. Kong trunkenheit in der Strafrechtsreform. JR. 1957. S. 242 ff. / Die widrigkeit? JZ. 1957. S. 233 ft. / Die Behandlung der Vollforensisch-kriminologische Grenzgebiet. Vom Standpunkt des Objektivität im Recht. Univ. Tag. 1961. S. 104 ff. / Das juridisch-Verbrechensbekämpfung. BKA. 1960. S. 231ff. / Das Problem der Rechtsbrechern nach künftigem deutschen Strafrecht. Internationale Tag. Bd. 1. 1960. S. 345 ff. / Bestrafung und Behandlung von nelogischen Grundlagen der Strafrechtsreform. 100 Jahre Jur. von Strafurteilen der sowjetischen Besatzungszone in der Bundeschtsverfassungsgesetzes in der Sowjetzone? F. f. E. Schmidt. Bd. V. 1961. S. 404 ff. / Was bedeutet die Änderung des Geri-Juristen, in: Handbuch der Neurosenlehre und Psychotherapie. 1961. S. 551ff. (紹介・中山研一、法学論養七二巻三号一一七頁以下) begriff. Beitr. z. Sex. Forsch. H. 28. 1963. S. 1 ff. / Gesetzge-Prob. d. Str. Ref. 1963. S. 75 ff. / Der juristische Krankheits 1963. S. 162 ff. / Zur Preisgabe von Staatsgeheimnis. JZ. 1965. bungsfragen bei den Rechtfertigungsgründen. F. f. v. Weber. Der Strafanspruch des Staates und die Grenzen der Strafbarkeit. Menschenbild und Strafrechtsreform. Zeitwende. 1962. S. 582 ff.

S. 297 ft.

ラング=ヒンリクセン(Dietrich Lang-Hinrichsen)ラング=ヒンリクセン(Dietrich Lang-Hinrichsen)ラング=ヒンリクセン(Dietrich Lang-Hinrichsen)ラング=ヒンリクセンは英語に堪能であり、外国刑法研究にも見るべた。一九五四年聯邦判事に転出し、ケルン大学名誉教授を兼ねた。一九五四年聯邦判事に転出し、ケルン大学名誉教授を兼ねた。一九六三年、マインツ大学正教授に就任して今日に至つている。ラング=ヒンリクセンは英語に堪能であり、外国刑法研究にも見るベング=ヒンリクセンは英語に堪能であり、外国刑法研究にも見るべきものがある反面、ナーグラーゆずりの細かい議論にもすぐれたもきものがある反面、ナーグラーゆずりの細かい議論にもすぐれたものをもつている。

著(訳)書

Das Brasilianische Strafgesetzbuch. 1953. / Das Strafensystem im ausländischen Strafrecht. 1955. / Betrachtungen zur Strafrechtsreform, in: Peters—Lang-Hinrichsen: Grundfragen der Strafrechtsreform. 1959. S. 53 ff. / Die kriminalpolitische Aufgaben der Strafrechtsreform. Gutacht. z. 43. Jur. Tag. 1960.

にいているのは代 Zum 75. Geburtstag Prof. Dr. Johannes Naglars. JR. 1951. S. 97 ff. / Die Lehre von der Geduld in der Patristik und bei Thomas von Aquin. Geist und Leben. 1951. S. 209 ff. u. 284 ff. / Zur Frage des Unrechtsbewusstseins. ZStrw. Bd. 63. 1951. S. 332 ff. / Zur Problematik der Lehre von den Tatbestands- und Verbotsirrtum. JR. 1952. S. 184 ff. / Tatbestandslehre und Verbotsirrtum. JR. 1952. S. 302 ff. u. 356 ff. / Johannes Nagler zum Gedächtnis. ZStrw. Bd. 64. 1952. S. 436 ff. / Strafgeetzgebung in Brasilien. ZStrw. Bd. 64. 1952. S. 514 ff.

フライブルク大学教代 Zum Handlungsbegriff im Strafrecht. JR. 1953. S. 88 ff. / Adolf Schönke †, JR. 1953. S. 217 ff. / Die irrtümliche Annahme eines Rechtfertigungsgrundes in der Rechtsprechung des Bundesgerichthofes. Zugleich ein Beitrag zur Lehre vom Verbotsirrtum. JZ. 1953. S. 362 ff. / Das Strafensystem. Mat. Str. Ref. Bd. 2. I, 1954. S. 33 ff. / Die Schuld- und Irrtumslehre. Bd. 2 I. 1954. S. 381 ff.

聯邦裁判所判事時代 Zur ewigen Wiederkehr des Rechtspositivismus. F. f. Mezger. 1954. S. 1 ff. / Zum System der Strafen und sichernden Massnahmen im englischen Recht. F. f. B. Kraft. 1955. S. 138 ff. / Zu Reinhart Maurachs Lehrbuch des Allgemeinen Teils des Deutschen Strafrechts. MDR, 1956. S. 589 ff. / Zur Frage der Zurechnung von Folgen der Straftat bei der Strafzumessung. GA. 1957. S. 1 ff. / Zur Frage der Schuld bei

Straftaten und Ordnungswidrigkeiten. GA. 1957. S. 225 ff. / Zur Tragweite der Bestimmung des Artikels 104 Abs. 2 des Grundgesetzes, nach welcher über die Zulässigkeit und Fortdauer einer Freiheitsentziehung nur der Richter zu entscheiden hat. JR. 1959. S. 321 ff. / Die Rechtsprechung des Bundesgerichtshofes zum materiellen Strafrecht. DRiZ. 1960. S. 380 ff. / Zur Frage der Todesstrafe. JR. 1961. S. 321 ff. / Zur Krise des Schuldgedankens im Strafrecht. ZStrw. Bd. 73. 1961. S. 210 ff. (紹介·如采地1、本誌日六巻八号 1 〇〇頁以下)

マインッ大学教授時代 Probleme der strafrechtlichen Schuld und der Kriminologie. Civitas. 1963. S. 206 ff. / Betrachtungen zur sog. ethischen Indikation der Schwangerschaftsunterbrechung. JZ: 1963. S. 721 ff. Zum gegenwärtigen Stand der Strafrechtsreform in der Bundesrepublik Deutschland. JR. 1965. S. 201 ff.

レフォレンツ (Heinz Leferenz)

た批判を行なつている。りに思われる。全刑法雑誌の刑事学に関する書評欄で、きびきびしりに思われる。全刑法雑誌の刑事学の中に今や確固とした地位を得たよンフェレンツはドイツ刑事学の中に今や確固とした地位を得たよ

は殆んど注意を払わない。で説明するが、ゲッピンガーとは異なり、アメリカ社会学の成果にて説明するが、ゲッピンガーとは異なり、アメリカ社会学の成果に論文にも講義にも、自分の実際に手がけた臨床例を豊富にとり入れ

第文

Die rechtsphilosophischen Grundlagen des §51 StGB. Nervenarzt. 1948. S. 364 ff. / Die Anwendbarkeit des §51 StGB. auf die kriminelle Psychopathen. SJZ. 1949. S. 251 ff. / Die psychiatrische Indikation der Schwangerschaftsunterbrechung und Unfruchtbarmachung nach geltendem Recht. Nervenarzt. 1952. S. 252 ff. / Neuere Ergebnisse der gerichtlichen Psychiatric. Fortschr. d. Neur. u. Psych. 1954. S. 369 ff. / Psychopathentypen in kriminologischer Sicht. K. Biol. G. 1955. S. 13 ff. / Zur Problematik der kriminologischen Prognose. ZStrw. Bd. 68. 1956. S. 233 ff. / Probleme der kriminologischen Prognose. K. Biol. G. 1958. S. 35 ff. Probleme der kriminologischen Prognose. K. Biol. G. 1958. S. 35 ff. Psychopathentypen in kriminologischer Sicht. ZStrw. Bd. 70. 1958. S. 25 ff. / Die Stellung der Kriminologie zwischen Jurisprudenz und Psychiatrie. St. Gen. 1959. S. 119 ff. / Die Persönlichkeitsbeurteilung jugendlicher Rechtsbrecher. Krim. u. Vollz. d. Freih. Str. 1961. S. 112 ff.

/ Der Beitrag der phänomenologischen Anthropologie zur Kriminologie. F. f. E. Schmidt. 1961. S. 645 ff. (紹介·石原明、法学論表 七一巻五号九七頁以下) / Richter und Sachverständiger. K. Biol. G. 1962. S. 35 ff. / Verantwortung und Verantwortlichkeit des naturwissenschaftlichen Sachverständigen. Z. f. anal. Chemie. 1962. S. 248 ff.

レンクナー (Theodor Lenckner)

tik im Entwurf eines Strafgesetzbuckes (E 1962) である。

tik im Entwurf eines Strafgesetzbuckes (E 1962) である。
一九二八年七月一四日、シュウェービンゲン大学に学び、一九五三年
となつた。請求論文は Der rechtfertigende Notstand. Zur Problemaとなつた。請求論文は Der rechtfertigende Notstand. Zur Problemaとなつた。請求論文は Der rechtfertigende Notstand. Zur Problema-

i V

地位についている。

一九六四年四月、ミュンスター大学正教授として招聘され、その

Die Einwilligung Minderjähriger und deren gesetzlicher Vertreter. ZStrw. Bd. 72. 1960. S 446 ff. (紹介·宮沢浩一、本誌三五巻四号一十四頁) / Vertragswert und Vermögensschaden beim Betrug des Verkäufers. MDR. 1961. S. 652 ff. / Notwehr bei provoziertem

S. 302 ff. / Aussagepflicht, Schweigepflicht und Zeugnisverweigementreffen von strafbarer und strafloser Begünstigung. JuS. 1962. und verschuldetem Angriff. GA. 1961. S. 299 ff. / Das Zusam-

rungsrecht. NJW. 1965. S. 321 ff.

レス (Günter Less)

九〇四年一月三一日、オッペルンに生れた。

sen und Wert des Richterrechts. 1954. である。 受理したのは当時 判所判事でもある。一九五七年同大学の員外教授となり、今日に至 同大学教授だつたハイニッツではなかろうか。なお、レスは高等裁 つている。 九五〇年エルランゲン大学私講師となつた。論文は Vom We

550 ff. / Weniger Dogmatik, mehr Erfahrungswissenschaft. JZ. strafbare mittelbare Täterschaft, wenn der Tatmittler rechtsmässig Richters für das Unpersönliche. JZ. 1951. S. 468 ff. / Gibt es waltschaft. JR. 1951. S. 193 ff. / Über die Vorliebe des deutschen schluss? SJZ. 1950. S. 68 ff. / Die Rechtsstellung der Staatsangen. DRZsch. 1950. S. 322 ff. / Revisionsurteil oder Revisionsbe-700 ff. / Genügt "bedingtes Wollen" zum strafbaren Verbrehandelt? Ein Beitrag zur Lehre vom Verbrechen. JZ. 1951. S. 1952. S. 173 ff. / Kriminologie und Studienreform. JZ. 1955. S. Zur Anwendung experimentar-psychologischer Methode bei Zeu-

> chensversuch? GA. 1956. S. 33 ff. / Der Unrechtscharakter der Wissenschaft. DRiZ. 1961. S. 3ff. / Die Verantwortung des Anstiftung. ZStrw. Bd. 69, 1957. S. 43 ff. / Schuldstrafe und Einzelnen im Rechtsstaat. DRiZ. 1961. S. 133 ff.

マイホーファー (Werner Maihofer)

哲学に数多くのすぐれた業績を残している。 年、ザール大学員外教授に就任し、一九五六年以来正教授である。 legomena zu einer Rechtsontologie, 1954. がそれである。一九五五 九五三年フライブルク大学私講師となつた。Recht und Sein. Pro 取得し、師の急死により教授資格論文をヴォルフ教授に提出して一 1953.(紹介・福田平、神戸法学雑誌三巻四号八四五頁)により 学位を 授に提出した論文 Der Handlungsbegriff im Verbrechenssystem. のスタッフをもち、精力的な研究活動をしている。刑法理論学と法 ザール大学では法及び社会哲学研究所長を兼ね、秘書・助手七人 一九一八年一〇月二〇日、コンスタンツに生れた。シェーンケ教

している。今後の展開には期して待つべきものがある。 に集め、その成果を彼独自の法哲学体系の中にくみ入れようと志向 無駄な表現をなくそうと苦心する人は少いであろう。 いられている。しかし、マイホーファー位、営業を練り、検訂し、 マイホーファーの文章はハイデッガーばりのむずかしい言葉が用 マイホーファーはアメリカ社会学、殊に文化人類学の文献を豊富

著書(編著)

Vom Sian menschlicher Ordnung. 1956. / Naturrecht oder Rechtspositivismus? 1962. / Naturrecht als Existenzrecht. 1963. / Staatzschutz im Rechtsstaat. Veröffentlichung Nr. 53 der Evangelischen Akademie in Hessen und Nassau. 1965.

1958, S 289 ff. / Die Natur der Sache. ARSP. Bd. 44. 1958. S. S. 159 ff. / Die Bindung des Richters an Gesetz und Recht. An. Unitv. Sar. 1960. S. 5 ff. / Das Problem des Naturrechts. 146 ff. / Zur Systematik der Fahrlässigkeit. ZStrw. Bd. 70. 1958 Rittler. 1957. S. 141 ff. / Der Versuch der Unterlassung. GA. S. 165 ff. / Recht und Existenz, in: Vom Recht. 1963. S. 161ff. I. u. II. Bl. f. Deut. Int. Politik. 1963. S. 26 ff. u. 107 ff. / Le E. Wolf. 1962. S. 246 ff. / Pressefreiheit und Landesverrat. über die philosophische Anthropologie Ludwig Feuerbachs. F. f. hangsbegriff. F. f. E. Schmidt. 1961. S. 156 ff. (紹介·平場安治、法 Das Problem der Ordnung. 1961. S. 315 ff. / Der soziale Hand-ARSP. Bd. 46. 1960. S. 417 ff. / Ordnung und Gesellschaft, in: Einführung in die Grundfragen der Rechtsphilosophie. JuS. 1963. phil. d. dr. Nr. 8: 1963. p. 177 ff. / Was ist Recht? Zur droit naturel comme dépassement du droit positive. Arch. d. 学論兼七〇卷一号一四一頁以下) / Konkrete Existenz. Versuch Der Unrechtsvorwurf. Gedanken zu einer Unrechtslehre. F. f.

385 ff. / Menschenbild und Strafrechtsreform—Das philosophische Problem der Strafe. Univ. Tag. 1964. S. 1 ff. / Staatsschutz im Rechtsstaat. Bl. f. Deut. Int. Politik. 1964. S. 32 ff. u. 123 ff. / Das Problem der Todesstrafe. Blätter für deut. und int. Politik. Heft 1. 1965. S. 3 ff. / NS-Verbrechen und Verjährung. Beilage zur Wochenzeitung das Parlament. 24. März 1965. S. 3 ff.

マウラッハ (Reinhart Maursch)

しているのである。 しているのである。 しているのである。 のは西独きつてのソ聯選であり、刑法のみならず、ソビエト法一般にある町、ジンフェロポール(Simferopol)に生れた。マウラッ島にある町、ジンフェロポール(Simferopol)に生れた。マウラッ島にある町、ジンフェロポール(Simferopol)に生れた。マウラッ島にある町、ジンフェロポール(Simferopol)に生れた。マウラッ島にある町、ジンフェロポール(Simferopol)に生れた。マウラッ島にある町、ジンフェロポール(Simferopol)に生れた。マウラッ島にある町、ジンフェロポール(Simferopol)に生れた。マウラッ

が一九四七年である。翌年正教授に任ぜられ、今日に至つている。 一九二六年から三七年まで所長の任にあつた。又、一九三〇年から三九年まで裁判官としても活躍し、一九三四年には教授資格を獲得三九年まで裁判官としても活躍し、一九三四年には教授資格を獲得三た。請求論文は Kritik der Notstandslehre, 1935. である。当時、同大学教授であつたウェーグナーが受理したのであろう。同大学教授であつたウェーグナーが受理したのであろう。である。当時、だが、私講師になつたのは一九四〇年である。一九四一年にはケーニヒスベルク大学員外教授、同大学の東ヨーロッパ研究所員となり、ブレスラウ大学卒業後、同大学の東ヨーロッパ研究所員となり、ブレスラウ大学卒業後、同大学の東ヨーロッパ研究所員となり、

Pressefreiheit und Landesverrat. Arch. f. Presserecht. 1963. S.

とびづくりする程の小柄な人である。養書、数多くの論文を書いたエネルギーはどこにひそんでいるのか、現在、東欧法研究所長を兼ね、年報の責任編集者である。浩滸な

1

System des russischen Strafrechts. 1928. / Grundlagen des rätruseischen Strafrechts. 1933. / Volksethik und Strafrecht. 1934. / Der russische Reichsrat. 1939. / Staatsgehörigkeitsrecht der UdSSR. 1942. / Grundriss des deutschen Strafrechts. Allg. Teil. 1948. / Grundriss des deutschen Strafrechts. Bes. Teil. 1948. (海論、各論心供力に紹介・福田尹、刑法權誌11巻1号1八四頁以下)/ Schuld und Verantwortung im Strafrecht. 1948. (紹介・福田尹、刑法權誌11巻1号1八四頁以下)/ Schuld und Verantwortung im Strafrecht. 1948. (紹介・福田平、刑法權誌11巻1号14号1八11頁以下)/ Ostwärts der Oder und Neisze. 1949. Der Kriegsverbrecherprozess gegen deutsche Gefangene in der UdSSR. 1950. / Deutsches Strafrecht. Bes. Teil. 1. Aufl. 1952. 4. Aufl. 1964. / Das Rechtssystem der UdSSR. 1953. / Deutsches Strafrecht. Allg. Teil. 1. Aufl. 1954. 3. Aufl. 1965. / Handbuch der Strafrechtsreform. Gutacht. z. 43. Deut. Jur. Tag. 1960.

制文

がレステウ大学時代 Der neue Strafvollzug im Sowjetrussland. MKri. 1933. S. 705 ff. / Die Rechtsprechung des Obersten Gerichtshofes der RSFSR in der Periode des "sozialistischen Wiederaufbaus". ZStrw. Bd. 53. 1933. S. 333 ff. / Die Sowjetunion

im Kampf gegen die Kindeskriminalität. MKri. 1936. S. 215 ff. / Handlungspflicht und Pflichtverletzung im Strafrecht. DS. Bd. 3. 1936. S. 113 ff. / Die "richterliche Unabhängigkeit" nach der neuen Sowjetverfassung. ZAk. 1937. S. 685 ff. / Vier Jahre bolschewistischer Strafrechtsgeschichte (1933-1936). ZStrw. Bd. 56. 1937. S. 735 ff. / Treupflicht und Schutzgedanke im internationalen Strafrecht. DS. Bd. 5. 1938. S. 1 ff. / Der Bankrott der bolschewistischer Strafrechtsdoktrin. DS. Bd. 5. 1938. S. 359 ff. / Das neue Gerichtsverfassungsrecht der Sowjetunion. ZAk. 1939. S. 409 ff. / Die judische Sonderbesteuerung im Russland. Ein Beitrag zur Geschichte der russischen Judenpolitik. ZStaatsw. Bd.

ケーニッヒスベルク時代 Die Bekämpfung der Jugendkriminalltät in der Sowjetunion. MKri. 1940. S. 130 ff.

99. 1939. S. 676 ff.

m インベン大学時代 Zur neueren Judikatur über Meineidsbeihilfe durch Unterlassen. SJZ. 1949. S. 541 ff. / Das Kriegsrecht vom Blickfeld der Sowjetunion. Jb. int. u. ausl. öff. R. 1949. S. 736 ff. / Praktische Fragen zur Hehlerei. Polizei. 1949. S. 87 ff. / Aktuelle Grenzprobleme des Betruges. Polizei. 1949. S. 147 ff. / Notstand, Konfliktslage und Schuld. Spruchgericht. Zent. Bl. f. Br. Zone. 1949. Heft 3. S. 45 ff. / Betrachtungen zum Schicksal des deutschen Osts. Archiv. 1950. Nr. 12. / Spitzbergen zwischen Osten und Westen. ZSchr. f. Geopolitik. 1951. S. 349 ff. / Der

und der eigenständigen Verbrechen de lege ferenda. Mat. Str. 231 章 (紹介・阪村幸男、ドイッにおける刑法改正論一八二頁以下) / gerichtshofes. JZ. 1952. S. 714 ff. / Die Systematik des Besonderen Benerkungen zur neuesten Hehlereirechtsprechung des Bundeszum Schutz der persönlichen Freiheit. NJW. 1952. S. 163 ff. Fail Kemritz. ZSchr. f. Geopolitik. 1951. S. 502 ff. / Das Gesetz Ref. Bd. 1. 1954. S. 249 ff. (紹介・中山研一、ドイツにおける刑法改 Die Behandlung der unselbständigen tatbestandlichen Abweichungen Tells eines neuen Strafgesetbuchs. Mat. Str. Ref. Bd. 1. 1954. S. Rechts. R. in Ost und West. 1958. S. 177 ff. / Adaquanz der in der Sowjetzone. 1956. S. 9 ff. / Zum subjektiven Tatbestand sowjetischen Strafrechts und sein Einfluss auf die Rechtsprechung 正論一九八頁以下) / Die politischen und soziologischen Grundblematik der Rechtsbeugung durch Anwendung sowjetzonalen des \$8 176. Nr. 1. 177. StGB, GA, 1956. S. 305 ff. / Zur Prolagen des sowjetischen Strafrechts, in: Die Entwicklung des Jugendstrafrecht. SuS. 1960. S. 91 ff. / Die Problematik der / Vom Wesen und Zweck der Strafe. SuS. 1960. S. 26 ff. / Das der sowjetischen Rechtsgeschichte. Jb. f. Ostrecht. 1960. S. 107 ff. 宮沢浩一、本誌三五巻一号一一三頁)/ Versuch einer Periodisierung BGH. vom 3. 6. 1959—4. StR. 196/59) GA. 1960. S. 97 ff. (紹介・ Verursachung oder der Fahrlässigkeit? (Gedanken zum Urteil des Verbrechensverabredung. JZ. 1961. S. 137 ff. / Die strafrechtliche

> Beurteilung des unberechtigten Erwerbs von russischen Sowjetrepublik vom 27. Oktober 1960. R. in Ost. und Das System der Sanktionen im neuen Strafgesetzbuch der Gross-Notzuchtsbestimmung des § 177 StGB. NJW. 1961. S. 1050 ff. / NJW. 1961. S. 625 ff. / Deliktscharakter und Auslegung der sowjetischen Gerichte zum Allgemeinen Teil des Strafrechts. Jb. StGB). JZ. 1962. S. 559 ff. / Aus der Rechtsprechung der / Zur Rechtsnatur des erpresserischen Kindesraubes (§ 239 a. stimmung des Wahnverbrechens. NJW. 1962. S. 716 ff. u. 767 ff. Beiträge der neueren höchstrichterlichen Rechtsprechung zur Be-Schuld und Strafe, in: Fr. d. Todesstr. 1962. S. 7 ff. / Die und Strafrechtsdogmatik. F. f. E. Schmidt. 1961. S. 301 ff. / 1961. S 374 ff. / Das Unrechtsbewusstsein zwischen Kriminalpolitik West. 1961. S. 85 ff. / Fragen der actio libera in causa. JuS. recht. R. in Ost und West. 1963. S. 137 ff. / Die Objekte der f. Ostrecht. 1963. S. 43 ff. / Das neue sowjetische Jugendstraf-Einziehung nach § 86. StGB. JZ. 1964. S. 529 ff. Volkswagenaktien.

マトキー (Helmuth Mayer)

ついて学び、実務にも長い間たずさわつていた。学位論文は Zuchtさわしい人である。故郷のヴュルツブルク大学のエートカー教授に格といい、これが典型的ないわゆるドイツ的な刑法学者とよぶによー八九五年五月一日、ヴュルツブルクに生れた。考え方といい、風

gewalt and Strafrechtspflege. Ein grundsätzlicher Versuch. 1922. である。一九二六年に請求論文 Die Untreue im Zusammenhang der Vermögensverbrecken. 1926. で教授資格を取得したが、その後はいった正教授となる)。一九二八年にヴュルツブルク大学私講師に就任し、一九二〇年ローストック大学に招聘された(員外教授、一九三六年に正教授となる)。一九四四年にはキール大学に転じ、その後高等裁判所判事を兼ねていた。一九六二年に引退して、後進のの後高等裁判所判事を兼ねていた。一九六二年に引退して、後進のの後高等裁判所判事を兼ねていた。一九六二年に引退して、後進のの後高等裁判所判事を兼ねていた。一九六二年に引退して、後進のの後高等裁判所判事を兼ねていた。一九六二年に引退している。

*

Das Strafrecht des deutschen Volkes. 1936. / Strafrecht. Allgemeiner Teil. 1953. / Strafrechtsreform für heute und morgen. 1962.

論文

時代 Zum Münchener Hochverratsprozess. GS. Bd. 91. 1925. S. 93 ff. / Meineid und falsche Aussage nach dem Entwurf. GS. Bd. 93. 1927. S. 172 ff. / Herbsttagung der Deutschen Strafrechtlichen Gesellschaft. GS. Bd. 94. 1927. S. 30 ff. / Sommertagung der Deutschen Strafrechtlichen Gesellschaft. GS. Bd. 95. 1927. S. 81 ff. / Das Strafbefehlsverfahren. GS. Bd. 96. 1928. S. 397 ff. / Ordentliche Tagung der Deutschen Strafrechtlichen Gesellschaft. GS. Bd. 97. 1928. S. 1ff. / Die Staatsverbrechen in der Reichstagsvorlage. GS. Bd. 98. 1929. S. 1 ff. / Ordentliche Tagung der Deutschen Strafrechtlichen Gesellschaft.

schaft vom 20. und 21. Mai 1929. GS. Bd. 98. 1929. S. 278 ff.

Bd. 98. 1929. S. 330 ff. u. Bd. 99. 1930. S. 36 ff. / Die konstruktive Grundlagen des Wiederaufnahmenverfahrens und seine Reform. GS. Bd. 99. 1930. S. 299 ff. / Die Strafrechtstheorie bei Luther und Melanchthon. F. f. Binder. 1930. S. 229 ff. / Jahresversammlung der Deutschen Strafrechtlichen Gesellschaft in Bamberg am 16. und 17. Oktober 1931. GS. Bd. 102. 1931. S. 101 ff. / Eigentum an Geld und strafrechtliche Konsequenzen. GS. Bd. 104. 1934. S. 100 ff. / Zum Aufbau des Strafprozesses. GS. Bd. 104. 1934. S. 302 ff. / Der Verbrecherbegriff. Ein Forschungsbericht. DS. Bd. 5. 1938. S. 73 ff. / Friedrich Oetker zum Gesisteswissenschaft. ZStrw. Bd. 57. 1938. S. 1 ff. / Die folgenschwere Unmässigkeit (§ 330 a. StGB). ZStrw. Bd. 59. 1940. S. 283 ff.

#一次大学時代 "Das Analogieverbot" im gegenwärtigen deutschen Strafrecht. SJZ. 1947. S. 12 ff. / Zur Abgrenzung des Versuchs von der Vorbereitungshandlung. SJZ. 1949. S. 172 ff. / Die bindende Kraft des Urteils nach deutschem Recht. Zent. Bl. f. Brit. Zone. 1949. Nr. 3. S. 60 ff. / Der strafrechtliche Schutz des Staates. SJZ. 1950. S. 247 ff. / Vülkerrecht und internationales Strafrecht. JZ. 1952. S. 609 ff. / Die gesetzliche Bestimmtheit

mitheit der Tatbestände. Mat. Str. Ref. Bd. 1, 1954, S. 259 ff. (報 der Tathastande. JZ. 1953. S. 105 ff. / Die gesetzliche Bestim-介・中義勝。ドイッにおける刑法改正論二〇九頁以下)/ Die Untreue. Teilnahme, Urheberschaft. R. f. Rittler. 1957. S. 243 ff. / Zum Oppertunitätsprinzip. JZ. 1955. S. 601 ff. / Das Problem des F. f. Mezger. 1954. S. 455 ff. / Klageerziehungsverfahren und Mat. Str. Ref. Bd. 1. 1954. S. 333 ft. (紹介・中義勝、ドイツにおける der Wegnahme. JZ. 1962. S. 617 ff. / Typologie der Gewohn-Prozessrügen? F. f. E. Schmidt. 1961. S. 634 ff. / Zum Begriff Sinne des § 52 StGBt JZ. 1959. S. 119 ff. / Hilfsweise eingelegte Endet mit der Eheschliessung auch das Augehörigenverhältnis im Beweiswert des persönlichen Eindrucks. DRiZ. 1958. S. 140 ff. / und Gefangenenmeuterei. JZ. 1956. S. 434 ff. / Täterschaft. sogehannten dolus generalis. JZ. 1956. S. 109 ff. / Teilnahme 刑法改正論二六九頁以下) / Der Sachverständige im Strafprozess. iseitsverbrecher oder Rezidivisten. K. Biol. G. 1962. S. 135 ff. / Vorbemerkungen zur Lehre vom Handlungsbegriff. F. f. v. Weber.

メルゲン (Armand Mergen)

一九四一年から四三年まで、リットラー教授の助手を勤めた。学位た。ブラッセル大学とインスプルック大学で法律学と医学を学び、一九一九年一月二九日、ルクセンブルクのヘッフィンゲンに生れ

年ルクセンブルクの社会防衛研究所長に就任した。 年からマインツ大学の員外教授として活躍している。又、一九四九年にゲシュタポに捕えられて監禁されたという経歴を持つ。一九四八年にゲシュタポに捕えられて監禁されたという経歴を持つ。一九四論文は Kriminalität der Geisteskranke, 1942. である。一九四四論文は Kriminalität der Geisteskranke, 1942. である。一九四四

刑事学の分野で数多くの著書、編書が多いのに、講座を持つてい 刑事学の分野で数多くの著書、編書が多いのに、講座を持つていた、二〇冊近い養書を編集しているので、かなり過大に評価していち、二〇冊近い養書を編集しているので、かなり過大に評価していち、二〇冊近い養書を編集しているので、かなり過大に評価していち、二〇冊近い養書を編集しているので、かなり過大に評価していち、二〇冊近い養書を編集しているので、かなり過大に評価していち、二〇冊近い養書を編集しているので、かなり過大に評価していた、二〇冊近い養書を編集しているので、かなり過大に評価していた。

著者 (指著)

La Narco-Analyse et son emploi en instruction criminelle. 1949.

/ Die Tiroler Karker. 1949. / La societe des associaux. 1950.

/ Methodik kriminalbiologischer Untersuchungen. 1953. / Das kriminologische Gutachten. 1959. / Die Wissenschaft vom Verbrechen. 1961. / Kriminologie heute. 1961. / Dokumentation über die Todesstrafe. 1963. / Die tatsächliche Situation der Kriminologie in Deutschland (Ein Bericht). 1964. (我派·布拉衛夫、 采罪学業語目(○巻回中 | 河河南平) / Kriminologie morgen. 1964.

f Sexualforschung, Sichwort und Bild, I. u. II. (o. J. 1963/647)

soc. 1949. p. 27 ff. / Selbstmord infolge konventioneller Vorurd. Med. 1949. S. 254 ff. / L'homme anti social. Rev. int. déf. d'examen dans le système de defénse sociale. Rev. int. déf. soc. Sociale, 1951. Rev. int. def. soc. 1951. p. 163 ff. / Les methodes telle. ZSchr. f. Sexualforsch. 1950. S. 224 ff. / L'execution. S. 274 ff. / Die soziale Zweckmässigkeit in der modernen Krikeit im Sinne des § 51. Abs 2 StGB. GA. 1959. S. 193 ff. / Die 1953. p. 57 ff. / Zum Begriff der verminderten Zurechnungsfähig-Rapport général du IIIème Congrès International de Défense Kong. f. Med. Photog. u. Kinemat. 1962. S. 271 ff. / Die Prosund kinematographische Methoden in der Kriminologie. 2. Int. in der Resozialisierung. RdJ. 1959. S. 294 ff. / Photographische minalpolitik. F. f. Rittler. 1957. S. 21 ff. / Zwang und Freiheit schaftlichen Kriminologie. Int. Kriminalpol. Rev. Nr. 102. 1956. Wertsphäre im dogmatischen Strafrecht und in der naturwissentitution, in: Sexualität und Verbrechen. 1963. S. 161 ff. Die Narkoanalyse und ihre Anwendung im Strafrecht. Grenzg.

ナウケ (Wolfgang Naucke)

キール、ローザンヌ、グラスゴーの諸大学に一九五二年から五七年一九三三年六月八日、ザクセン州のカールスフェルトに生れた。

業座を担当している。本年とつて三二才という、西独刑法学者の中業座を担当している。本年とつて三二才という、西独刑法学者の中まで学び、キール大学の本年とつて三二才という、西独刑法学者の中まで学び、キール大学の本年とつて三二才という、西独刑法学者の中でキール大学正教授となり、刑法、刑事訴訟法、刑事学、法哲学のでキール大学正教授となり、刑法、刑事訴訟法、刑事学、法哲学のでキール大学正教授となり、刑法、刑事訴訟法、刑事学、法哲学のでキール大学正教授となり、刑法、刑事訴訟法、刑事学、法哲学のでキール大学正教授となり、刑法、刑事訴訟法、刑事学、法哲学のでキール大学正教授となり、刑法、刑事訴訟法、刑事学、法哲学のでキール大学正教授となり、刑法、刑事訴訟法、刑事学、法哲学のでキール大学正教授となり、刑法、刑事訴訟法、刑事学、法哲学のでキール大学正教授となり、刑法、刑事訴訟法、刑事学、法哲学のでキール大学正教授となり、刑法、刑事訴訟法、刑事学、法哲学のでキール大学正教授となり、刑法、刑事訴訟法、刑事学、法哲学の大学に対している。本年とつて三二才という、西独刑法学者の中

貧文

で最年少の学者である。

Methodenfragen zum "Typ" des Gewohnheitsverbrechers. MKri. 1962. S. 84 ff. / "Reform des Strafrechts" (Tagungsbericht). MKri. 1963. S. 180 ff. / Festnahmerecht aus § 81 a StPO7 Schl. Holst. Anz. 1963. S. 183 ff. / Die Reichweite des Vergeltungsstrafrechts bei Kant. Schl. Holst. Anz. 1964. S. 203 ff. / Über das Regressverbot im Strafrecht. ZStrw. Bd. 76, 1964. S. 409 ff.

ノル (Peter Noll)

gründe, im besonderen, die Binwilligung des Verletzten. 1955. 一九二六年五月一八日、スイスのパーゼルに生れた。その地の大一九二六年五月一八日、スイスのパーゼルに生れた。その地の大

は立派な仕事である。

対する造詣も深い。 て、しつかりした理論家としての筋も通つて居る。法哲学、神学にて、しつかりした理論家としての筋も通つて居る。法哲学、神学に才に満たない若い学者であるが、スイス人の実際的なセンスに加え 一九六二年マインッ大学に招聘され、正教授の地位に居る。四○

1

資に加筆したもの)

文文

Der subjektive Tatbestand der Gefährdung des Lebens nach Art. 129. des Strafgesetzbuches. SchwZStr. Bd. 69. 1954. S. 19 ff. / Der Einfluss von Kompensation und Rentention bei den Deliken gegen Eigentum. SchwZStr. Bd. 69. 1954. S. 148 ff / Das Unrechtsbewusstsein im schweizerischen Strafrecht. Schw Beitr. z. 4. Int. Kong. RVgl. 1954. / Übergesetzliche Milderungsgründe aus vermindertem Unrecht. ZStrw. Bd. 68. 1956. S. 181 ff / Die gesichtspunkten. SchwZStr. Bd. 72. 1957. S. 361 ff. / Des ärztliche Berufageheimnis. Schw. Beitr. z. 5. Int. Kong. RVgl. 1958. / Nebenstrafrecht und Rechtsgleichheit. Schw. ZStr. Bd. 74. 1959. S. 29ff. / Gewaltenteilung und Abhängigkeit des Richters im Serafrecht. F. f. Germann (SchwZStr. Bd. 75) 1959. S. 294 ff. /

Geheimnisschutz und Zeugnispflicht. F. f. Gerwig. 1960. S. 135 ff.

* インツ大学時代 Zum gegenwärtigen Stand der deutschen Strafrechtswissenschaft. SchwZStr. Bd. 78. 1962. S. 377 ff. (緊介・知思語」、本語三八巻三号 | 11頁以下) / Zur Gesetzestechnik des Entwurfs eines Strafgesetzbuchs. JZ. 1963. S. 297 ff / Die Rechtfertigungsgründe im Gesetz und in der Rechtsprechung. SchwZStr. Bd. 80. 1964. S. 160 ff. / Diskussionsvotum an der Strafrechtslehlertagung vom 21. bis 23. Mai 1964 in Hamburg. ZStrwBd. 76. 1964. S. 707 ff. / Vorschläge für eine realisierbare Reform des juristischen Studiums an der Universität Mainz. JZ. 1965. S. 17 ff. / Tatbestand und Rechtswidrigkeit: Die Wertabwägung als Prinzip der Rechtfertigung. ZStrw. Bd. 77. 1965. S. 1ff.

Hーラー (Dietrich Oehler)

一九一五年一〇月四日、ポーランドとの国境の町ゲルリッツに生れた。ニーチェと血縁関係がある。即ち、エーラーの祖父の甥がニーチェなのである。一九五四年頃、精神異常となり共産主義とカトリック教とプロシァの王制の三位一体説をひつさげて 東 独 に 亡命し、その後行方不明のままになつているウェーグ ナーの 弟子である。学位論文は Die Grundlage des Vertrages im deutschen und schweizerischen Recht in rechtsvergleichender Darstellung. 1939.である。一九四九年にミュンスター大学私講師となつた。請求論文である。一九四九年にミュンスター大学私講師となつた。請求論文である。一九四九年にミュンスター大学私講師となった。請求論文である。一九四九年にミュンスター大学私講師となった。請求論文である。一九五1950. (紹介・吉川経夫、刑法権誌三巻三号一〇六頁)である。一九五1950. (紹介・吉川経夫、刑法権誌三巻三号一〇六頁)である。一九五1950. (紹介・吉川経夫、刑法権誌三巻三号一〇六頁)である。一九五1950. (紹介・吉川経夫、刑法権誌三巻三号一〇六頁)である。一九五1950.

の作品を残して居る。学教授に転じ、今日に至つている。一九六〇年頃までは非常に多くに正教授となつた。一九五八年に来日した。一九六一年にケルン大一年ベルリン自由大学より招聘を受け員外教授となり、一九五四年

#

Das objektive Zweckmoment in der rechtswidrigen Handlung.
1959.

論文

ペルッン田田大学時代 Bericht über den 6. Internationalen Strafrechtskongress vom 27. 9-3. 10. 1953 in Rom. JR. 1954. S. 20 ff. , Das erfolgsqualifizierte Delikt und die Teilnahme an ihm GA. 1954. S. 33 ff. / Die Grenzen des aktiven Personalitätsprinzips im internationalen Strafrecht. F. f. Mezger. 1954. S. 83 ff. / Postgeheimnis, in: Neumann-Nipperdey-Scheuner: Die

S. 503 ff. / Moderne Probleme in der deutschen Schuldlehre. qualifizierte Delikt als Gefährdungsdelikt. ZStrw. Bd. 69. 1957. tatvorsätzliche Handlung im Rahmen der Teilnahme. Festschr. d. Grundrechte. II. 1954. S. 605 ff. / Die mit Strafe bedrohte 下) / 現代ドイツにおける刑罰と保安 改善 処 分 (翻訳・平野観 以下。要旨、平野龍一、司法研修所報二〇号)/ 各国国際刑法に於 刑法雑誌七巻二・三・四合併号一頁以下(翻訳・宮沢浩一、岡号一頁 fahrlässigen Körperverletzung. JZ. 1956. S. 630 ff. / Das erfolgsff. / Die amtliche Verfolgung der leichten vorsätzlichen und Vermögensschaden im Rahmen des Betruges vor? GA. 1956. S. 161 Affekts während der Ausführungshandlung. GA 1956. S. 1 ff. Frei. Univ. 1955. S. 255 ff. / Zum Eintritt eines hochgradigen gesetzlichen Unterhaltspflicht in § 170 b. StGB. ZF. 1959. S. ける属人主義と属地主義(翻訳・宮沢浩一、 比較法研究一五号一貫以 / Liegt beim gutgläubigen Erwerb vom Nichtberechtigten ein 一、法学協会雜誌七四巻四号四〇五頁以下) / Umgrenzung der

ケルン大学教授時代 Konkurrenz von unechtem und echtem Unterlassungsdelikt-BGH. 14. 282. JuS. 1961. S. 154 ff. / Die erlaubte Gefahrsetzung und die Fahrlässigkeit. F. f. E. Schmidt. 1961. S. 232 ff. (紹介・森井暲、法学論業 七一巻四号一〇九頁以下) / Handeln auf Befehl. JuS. 1963. S. 301 ff.

ペータース (Karl Peters)

う。 は意外な程なされていない。もつと注目されてよい人 で ある と思 職んに活躍をして居る。この人の作品群に対する日本刑法学の消化 学、少年法そして刑事訴訟法に卓越した数多くの業績を残し、現在 学、少年法そして刑事訴訟法に卓越した数多くの業績を残し、現在 ・教授の残したすぐれた弟子の一人であつて、刑 法 理 論 学、刑事 ・人○四年一月二三日、コブレンツに生れた。ケルン大学のボー

一九三一年、ケルン大学の私講師となつたが、このときの請求論一九三一年、ケルン大学の私講師となつたが、このときの請求論手に転じた。

1

Zeugenlüge und Prozessaussage. 1939. / Reichsjugendgerichtsgesetz. 1. Aufl. 1942, 2. Aufl. 1944.

Entwürf und Begründung zur Neugestaltung des Jugendgerichtsgesetzes. 1947. / Erscheinungen und Ursachen der Jugendverwahrlosung und Jugendkriminalität. 1947. / Jugendstrafrecht.
1948. / Strafprozess. 1952. / In welcher Weise empfiehlt es
sich, die Grenzen des st. chterlichen Ermessens im künftigen

Strafgesetzbuch zu regeln. (Ermessensfreiheit oder gesetzliche Bindung des Richters bei der Verhängung der Strafe und sonstigen Unrechtsfolgen.)? 1955. / Rehabilitierung Straffälliger. Ref. z. 42. Deut. Jur. Tag. 1957. / Grundfragen der Strafrechtsreform. 1959. Peters—Lang-Hinrichsen; Grundfragen der Strafrechtsreform. 1959. S. 13 ff. / Grundprobleme der Kriminalpädagogik. 1960.

Straf prozesses. 1963. (チュービンゲン大学教授就任講演である)

論文

Aufgaben der Rechtsanwendung im Strafrecht. DR. 3. Jg. 1933. S. 178 ff. / Die falsche Aussage und ihre Bekämpfung. DS. Bd. 2. 1935. S. 145 ff. / Verwarnung mit Strafvorbehalt. DS. Bd. 2. 1935. S. 310 ff. / Zur Neuordnung des Strafverfahrens. Eine kritische Stellungnahme zu den Vorschlägen der Abhandlungen über das kommende Strafverfahren im "Deutschen Strafrecht" 1935 Heft 8-11. ZStrw. Bd. 56. 1937, S. 34 ff. / Die Behandlung der Heranwachsenen im kommenden Strafrecht. Ein Beitrag zur Strafrecht volksempfinden. (Ein Beitrag zur Rechtsquellenlehre des 19. und 20. Jahrhunderts.) DS. Bd. 5. 1938. S. 337 ff. / Tat-, Rechts- und Ermessensfragen in der Revisionsinstanz. ZStrw. Bd. 57. 1938. S. 459 ff. / Die Jugendatrestverordnung.

ZStrw. Bd. 60. 1941. S. 551 ff. / Erfahrung mit dem Jugendarrest. MKri. 1942, S. 173 ff. / Das neue Jugendgerichtsgesetz. ZAk. 1944. S. 35 ff. / Einheitsstrafe bei Verbrechensmehrheit. F. f. Kohlrausch. 1944. S. 199 ff.

S. 379 ff. / Liebe und Gerechtigkeit, in: Anruf und Zeugnis der S. 215 ff. / Gerechtigkeit und Rechtssicherheit. ebenda. Lfg. 3. Jg. 1948. Lfg. I. S. 71 ff. / Christentum und Strafrecht. ebenda. S. 215 ff. / Bewährungsfrist vor dem Urteil. UJ. 1950. S. 89 ff. Jugendliche und die Autorität des Gesetzes. F. f. Rosenfeld. 1949. UJ. 1949. H. 5. S. 7 ff. / Das Begreifen des Eigentumsordnung Liebe. 1948. / Zur Lehre von den persönlichen Strafausschlieproblem des Rechts. 1950. / Die soziale Reifung des Jugendlichen des Richters und das Gesetz, in: Konrad und Kipp; Gegenwarts-Menschen in Notsituation. JR. 1950. S. 742 ff. / Das Gewissen in \$184 Abs. 2. StGB. JR. 1950. S. 97 ff. / Die Tötung des / Narkoanalyse? JR.: 1950. S. 47 ff. / Der Begriff der Unzucht als kriminalpolitisches Problem. F. f. Sauer. 1949. S. 9 ff. / Der ssungsgründen. JR. 1949. S. 496 ff. / Der Jugendstaatsanwalt. Caritas. Bd. 151. 1951. S. 212 ff. / Zur Erneuerung des Straf-JWl: 1951. S. 66 ff. / Bewährungshilfe bei Halberwachsenen und vollzugn. JR. 1951. S. 752 ff. / Erwachsenen. UJ. 1951. S. 99 ff. / Die Krisis des Strafrechts. ミュンスター大学時代 Abtreibung, in: Die Kirche in der Welt Die religiöse Kräfte in der

Jugendfürsorge. Schmauck: In memoriam Ernst Lahmayer. 1951. Jugendkriminalität. 1952. S. 77 ff. / Gedanken zur Kriminal-/ Die tragende Gedanken des Jugendstrafrechts, in: F. Schneider; Praxis der Kinderpsychologie. 1953. S. 81 ff. / Kuppelei bei Ver-Sittlichkeitsdelikten. JZ. 1953. S. 207 ff. / Jugend und Recht. nach der Erlaubtheit der Schwangerschaftsunterbrechung. JWI. strafe. St. d. Zt. 1953. S. 12 ff. / Ein hartes Gesetz? Die Frage von Prozess- und Sachentscheidung. ZStrw. Bd. 68, 1956. S. 374 ff. Erwachsenengerichte. NJW. 1956. S. 492 ff. / Die Parallelität JWI. 1956. S. 401 ff. / Zuständigkeitsabgrenzung der Jugend-und Einige Bemerkungen zum Beistand des Jugendgerichtsgesetzen. rungen aus einem Lehrerprozess. F. f. Mezger. 1954. S. 477 ff. / lobten. Euf. 1954. S. 96 ff. / Ein Beitrag zum Fehlurteil-Erfah-Insbesondere ein Beitrag zu dem Begriff des Unzüchtigen bei den 1953. S. 218 ff. / Aktaufnahmen von Kindern und Jugendlichen. zivilrechtlichen Verhältnissen als materiellrechtliches und prozessus. Grundsätzliches über Erziehung und Strafe. Krim. u. Vollz. d. Bd. 77. 1961. S. 162 ff. (紹介·宮沢浩一、本誌三五卷一二号七九頁) / 65 ff. / Probleme der deutschen Strafrechtsreform. Schw ZStr. Pen. 1956. III. / Mehrere Schüsse bei einer Tötung. GA. / Il rispetto della persona umana nella procedura penale. Giust. Freih. Str. 1961. S. 62 ff. / Die Begrenzung des Strafrechts bei 1958. S. 97 ff. / Wilhelm Sauer als Kriminalist. MKri. 1959. S.

les Problem. F. f. E. Schmidt. 1961. S. 488 ff. / Gedanken eines Juristen zum Eichmann-Prozess. Eckart-Jb. 1962. S. 229 ff. / Wilhelm Sauer † JR. 1962. S. 213 ff. / Schuld und Sühne. Ein Beitrag zur Strafrechtareform. MSchr. Hochland. 1962. S. 193 ff. / Die kriminologische Ausbildung der Strafjuristen. Neue Polizei. 1962. S. 10 ff.

pén. 1963. Nr. 3/4. p. 3ff. / Individualgerechtigkeit und Allgemeininteressen im Strafprozess, in: Sum. iur. usw. 1963. S. 191 ff. / Die verspätete Absetzung des Strafurteils im Strafveirfahren. F. f. v. Weber. 1963. S. 374 ff. / Strafvollzug als

プライザー (Wolfgang Preiser)

Resozialisierung. Univ. Tag. 1964, S. 131 ff

市史の講義をもしているという。 新史の講義をもしているという。 新史の講義をもしているという。

3

La philosophie de la Stoa et sa signification pour le droit inter-

phie der Stoa in ihrer Bedeutung für das moderne Völkerrecht. Das Verbrechen als Erscheinung des sozialen Lebens. Hessische ARSP. 1950. S. 364 ff. / Das Machiavelli-Bild der Gegenwart. national moderne. 10. Cong. Phil. Amsterdam. 1948. / Die philoso-S. 373 ff. / Vergeltung und Sühne im altisraelitischen Strafrecht. f. Staatsw. Fortbild. in Bad Wildungen. 1956. / Grundsätzliche Die Epochen der antiken Völkerrechtsgeschichte. JZ. 1956. S. 737 ff. Hochschulwoch. f. Staatsw. Fortbild. in Bad Salzschlirf. 1955. / 1952. / Das Recht zu strafen. F. f. Mezger. 1954. S. 71 ff. / die Ursprünge des modernen Völkerrechts. F. f. Schätzel. 1960 fahrlässige Schuld. Deut. Zt. f. d. Gericht. Med. 1959/60. / Uber / Die rechtlichen Voraussetzungen für bedingte vorsätzliche und Fragen zu einer Reform des Strafrechts. ebenda. 1959. S. 180 ff. d. Todesstr. 1962. S. 35 ff Geschichte der Todesstrafe bis zum Beginn der Aufklärung. Frag alter, Neuzeit bis zum Westfälischen Frieden. 1962. / Die 号一三一頁以下) / Völkerrechtsgeschichte. I. Altertum, Mittel-写. f. E. Schmidt. 1961. S. 7 ff. (紹介・真鍋正一、法学論叢七〇巻三 / Das Strafrecht in der freien Gesellschaft. Hessische Hochschulw.

ロクシン (Claus Roxin)

目に価する人である。ハングルク大学のヘンケル教授が百年に一人ドイツの刑法学者の中で最年少グループの一人で、しかも最も注

た容姿は魅力的である。おじしない堂々たる議論、そして童顔ではあるが、きりつとしまつター的存在になるであろうと期待されている。若さがあふれ、ものの秀才といつたとか。とにかく、あと一〇年もすれば刑法学会のス

も、どれ程大きく学界に稗益するか、瀕り知れない。いが、間違いをおそれて凡百の当らずさわらずの仕事を する よりの論、ロクシンの著作には、若さに基づく過誤もないわけではな

シンが三二才のときである。

ハンブルク大学時代

Die Irrtumsregelung des Entwurfs 1960 und die strenge Schuldtheorie. MKri. 1961. S. 211 ff. / Pflichtwidrigkeit und Erfolg bei fahrlässigen Delikten. ZStrw. Bd. 74. 1962. S. 411 ff.

スStrw. Bd. 74. 1962. S. 515 ff. / Straftaten im Rahmen organisatorischer Machtapparate. GA. 1963. S. 193 ff. / Die provozierte Notwehrlage. ZStrw. Bd. 75. 1963. S. 541 ff. / Zur Abgrenzung von bedingtem Vorsatz und bewusster Fahrlässigkeit. JuS. 1964. S. 53 ff. / Verwerfbarkeit und Sittenwidrigkeit als unrechtsbegründende Merkmale im Strafrecht. JuS. 1964. S. 373 ff. / Die provozierte Staff. / Die provozierte von bedingtem Vorsatz und bewusster Fahrlässigkeit. JuS. 1964. S. 53 ff. / Die provozierte von bedingtem Vorsatz und bewusster Fahrlässigkeit. JuS. 1964. S. 53 ff. / Die provozierte von bedingtem Vorsatz und bewusster Fahrlässigkeit. JuS. 1964. S. 53 ff. / Die provozierte von bedingtem Vorsatz und bewusster Fahrlässigkeit. JuS. 1964. S. 53 ff. / Die provozierte von bedingtem Vorsatz und bewusster Fahrlässigkeit. JuS. 1964. S. 53 ff. / Die provozierte von bedingtem Vorsatz und bewusster Fahrlässigkeit. JuS. 1964. S. 53 ff. / Die provozierte von bedingtem Vorsatz und bewusster Fahrlässigkeit. JuS. 1964. S. 53 ff. / Die provozierte von bedingtem Vorsatz und bewusster Fahrlässigkeit. JuS. 1964. S. 53 ff. / Die provozierte von bedingtem Vorsatz und bewusster Fahrlässigkeit. JuS. 1964. S. 53 ff. / Die provozierte von bedingtem Vorsatz und bewusster Fahrlässigkeit. JuS. 1964. S. 53 ff. / Die provozierte von bedingtem Vorsatz und bewusster Fahrlässigkeit. JuS. 1964. S. 53 ff. / Die provozierte von bedingtem Vorsatz und bewusster Fahrlässigkeit. JuS. 1964. S. 53 ff. / Die provozierte von bedingtem Vorsatz und bewusster Fahrlässigkeit. JuS. 1964. S. 53 ff. / Die provozierte von bedingten Vorsatz und bewusster Fahrlässigkeit. JuS. 1964. S. 53 ff. / Die provozierte von bedingten Vorsatz und bewusster Fahrlässigkeit. JuS. 1964. S. 53 ff. / Die provozierte von bedingten Vorsatz und bewusster Fahrlässigkeit. JuS. 1964. S. 53 ff. / Die provozierte von bedingten Vorsatz und bewusster Fahrlässigkeit.

ザルシュテット (Werner Sarstedt)

長判事がその本務である。主として刑事訴訟法についての著書、論一九六三年よりベルリン自由大学の名誉教授で、聯邦裁判所の部

子子 (共客)

文がある。

In welcher Weise empfiehlt es sich, die Grenzen des strafrechtlichen Ermessens im künftigen Strafgesetzbuch zu regeln (Ermossensfreiheit oder gesetzliche Bindung des Richters bei der Verhängung der Strafe und sonstiger Unrechtsfolgen)? Verh. des 41.

Deut. Jur. Tag. 1956. / Die Revision in Strafsachen. 4. Aufl. 1962. / Löwe=Rosenberg: Die Strafprozessordnung und das Gerichtsverfassungsgesetz mit Nebengesetzen. 21. Aufl. 1962 ff.

mals: Bindung des Vorderrichters (§ 358. Abs. 1. StPO) trotz sichernden Massregeln. ZStrw. 1957. (Deutsche Beiträge) S. 133 ff. ensfreiheit des Richters bei der Festsetzung von Strafen und im Gerichtsmaal. JR. 1956. S. 121 ff. / Die Kontrolle der Ermess-Revisionsgericht. NJW. 1955. S. 1629 ff. / Rundfunkaufnahme Verletzung der Vorlagepflicht (§ 121 Abs. 2 GVG) durch das dungsbericht zur Revision in Strafsachen. R. Pfl. Bl. 1963. S. 81ff. Untersuchungshaft. Die Justiz. 1963. S. 184 ff. / Der Übersenrichterlicher Rechtsfindung. DRiZ. 1962. S. 164 ff. / Reform der verfahren. DRiZ. 1960. S. 349 ff. / Methode und Technik höchstoffensichtlich unbegründete Revisionen. JR. 1960. S. 1 ff. / Strafstatistik und Richterbeurteilung. DRiZ. 1959. S. 138 ff. / Über (紹介・藤木英雄、法学協会雑誌七五巻二号|九六頁以下)/ Revisionsung von Strafurteilen. JZ. 1965, S. 238 ff. Staatsanwaltschaft. NJW. 1964. S. 1752 ff. / Verspätete Absetz-Der Richter und die Presse. DRiZ. 1964 S. 43 ff. / Gebundene Betrug durch Amtserschleichung, JR. 1952. S. 308 ff. / Noch-

ザックス (Walter Sax)

一九一二年四月一五日、ソリンゲンに生れた。ケルン大学のボーオ教授のもとで教授資格を取得したが、学位は民事法関係の論文をする。 でででいます。 ではいるとで教授資格を取得したが、学位は民事法関係の論文を でででいます。 である。一九五二年のことである。請求論文は Das strafrecht-になったのは一九五二年のことである。請求論文は Das strafrecht-になったのは一九五二年のことである。請求論文は Das strafrecht-になったのは一九五二年のことである。請求論文は Das strafrecht-になったのは一九五二年のことである。請求論文は Das strafrecht-になったのは一九五二年のことである。 である。一九五七年より、ヴュルツブルク大学の正教授である。 である。一九五七年より、ヴュルツブルク大学の正教授である。

著書 (共訳)

Altavilla, übers. v. Bohne―Sax: Forensische Psychologie. I. 1955, II. 1958.(紹介・植村秀三、犯罪学業誌二七巻四号一五二頁以下、五・六号二〇二頁以下)

かれい大学時代 Der strafrechtliche Schutz der Berufsgeheinnisse. Beitr. z. öff. Recht. 1950. S. 159 ff. / Das rechtliche Verhältnis von fälschlicher Herstellung (Verfälschung) und Gebrauchen einer Urkunden in § 267 StGB. MDR. 1951. S. 587 ff. / Der Grundtatbestand bei den Tötungsdelikten und beim Delikt der Abtreibung, ZStrw. Bd. 64. 1952. S. 393 ff. / Parlamentsnötigung durch Streik? NJW. 1953. S. 368 ff. / Das unrichtige Sachurteil als Zentralproblem der allgemeinen Prozessrechtslehre.

ZZP. 1954. S. 21 ff. / Der Begriff der "strafbaren Handlung" im Hehlereitatbestand (§ 259 StGB). MDR. 1954. S. 65 ff. / Zur Frage der Kuppelei bei Geschlechtsverkehr unter Verlobten. JZ. 1954. S. 474 ff. / Verbotsirrtum als strafrechtsdogmatisches Grenzproblem. Ann. Univ. Sar. Bd. 4. 1955. S. 415 ff.

Fine Park 中央 大学 世代 Kriminalpolitik und Strafrechtsreform. JZ. 1957. S. 1 ff. / Dogmatische Strafgesetzbuches nach den Entwurf des Allgemeinen Teils eines Strafgesetzbuches nach den Beschlüssen der Großen Straffechtskommission. ZStrw. Bd. 69. 1957. S. 414 ff. / Grundsätze der Straffechtspflege, in: Neumann-Nipperdey, Grundrechte. IV. 1959. S. 909 ff. / Zur Frage der Notwehr bei Widerstandsleistung gegen Akte sowjetzonaler Straffustiz. JZ. 1959. S. 385 ff. / Über Rechtsbegriffe. Gedanken zur Grenze rechtlicher Begriffsbildung. F. f. Nottarp. 1961. S. 133 ff. / Der Bundesgerichtsbof und die Täterlehre. JZ. 1963. S. 329 ff. / Zum Verfahren in Staatsschutzsachen im Ausland. JZ. 1964. S. 41 ff. / Zum logischen und sachlichen Gehalt des sogen. "Umkehrschluss aus § 59 StGB". JZ. 1964. S. 241 ff. / Über die Zulässigkeit der prozessualen Verwertung privater Tagebuchaufzeichnungen als Beweismittel. JZ. 1965. S. 1 ff.

シャフスタイン (Friedrich Schaffstein)

一九〇五年七月二八日、ゲッチンゲンに生れた。ロバート・フォ

からということになる。とッペルはハルレ大学でマ・リストの外帯子ということになる。学位論文は Die Behandlung der Schuldarten im ausländischen Strafrecht seit 1908. Strafrechtl. Abh. Nr. 232. 1928. である。一九三〇年にゲッチンゲン大学私講師となつた。請求論文は Die Entwicklung der allgemeinen Lehren vom Verbrechen in der deutschen Wissenschaft des gemeinen Strafrechts. 1930. である。

一九三三年、ナチスの政権獲得の頃、ダームとともに『自由刑法や権政刑法か』という小冊子を公刊し、フランクフルトでの刑法学をでラートブルフ、E・シュミット等から徹底的な批判を受けた。もつとも、これによつてラートブルフは教験を追われてしまつた。一九三三年にライブチッヒ大学教授、一九三五年にキール大学に転じた。ここで、ダームとともに、いわゆるキール学派とよばれるナチス刑法学、権威刑法を主唱した。一九四一年にシュトラスブルク大学に転じたが、終戦を迎え、暫く政治的に追放されていた。一九五四年に、故郷のゲッチンゲン大学教授、一九三五年にキール大学に利法学会の中では、その才能は認められてはいるが、ナチス時代の発言がたたつて、何となく小さくなつている。ガラスとかウェルの発言がたたつて、何となく小さくなつている。ガラスとかウェルの発言がたたつて、何となく小さくなつている。ガラスとかウェルの発言がたたでで、が多別によるともに『自由刑法学に転じたときでないと出席しないということである。

私はシャフスタインに会うまで、何となく黒幕的な、切れ味のあるような。官僚的な感じの人を想像していた。ところが、学会の店で漁夫か農夫のような、全くばつとしない、およそ都会的ということとは羅のない赤ら顏の野人の風貌をした風采のあがちない男がシャフスタインであると紹介されて面喰つたことを思い出す。戦後のたのような素朴な人間の心をつかんだものこそ野喜の骨頂な、赤裸へに力を前面に押し出し、ドイツ民族の栄光を誇示したナチスの魅人に力を前面に押し出し、ドイツ民族の栄光を誇示したナチスの魅人に力を前面に押し出し、ドイツ民族の栄光を誇示したナチスの魅人に力を前面に押し出し、ドイツ民族の栄光を誇示したナチスの魅人に力を前面に押し出し、ドイツ民族の栄光を誇示したナチスの魅人に対している。

ることも、もう少し順慮されていい。少年法については実務家達から最も信頼されている学者の一人であた理論をもつたフィナリストであることは余り知られていないし、後のものはかなりすぐれている。彼が、地味だけれどもしつかりし、戦前の発言の多くは、今さら使用に堪えるものは多くないが、戦

Dahm-Schaffstein: Liberales oder autoritäres Strafrecht? 1933. / Die Nichtzumutbarkeit als allgemeiner übergesetzlicher Schuldausschliebsungsgrund. 1933. / Politische Strafrechtswissenschaft. 1934. / Die Erneuerung des Jugendstrefrechts (1936?) / Wilhelm von Humboldt. 1952. / Die europäische Strafrechtswissenschaft im Zeitalter des Humanismus. 1954. / Jugendstrafrecht. 1959. (古川道夫歌·法務資料第三七一号、昭和三五年一一月)

Beiträge zur Strafrechtsentwicklung von der Carolina bis Carpzow. GS. Bd. 101, 1932. S. 14 ff. / Die Carolina in ihrer Bedeutung für die strafrechtliche Begriffsentwicklung. ZStrw. Bd. 52, 1932. S. 781 ff.

ライプチッヒ大学時代

Der Begriff der Zueignung bei Diebstahl und Unterschlagung. GS. Bd. 103. 1933. S. 292 ff. / Ehrenstrafe und Freiheitsstrafe in ihrer Bedeutung für das neue Sträfrecht. DS. Bd. 1. 1934. S. 273 ff. / Bemerkungen zur gesetzlichen Regelung der Strafbemessung im kommenden deutschen Strafrecht. DS. Bd. 1. 1934, S. 369 ff. / Politische Universität und Neuordnung des juristischen Studiums. DJZ. 1934. S. 511 ff. / Der Begriff "Strafanspruch" und sein rechtspolitischer Gehalt. DJZ. 1934. S. 1174 ff. / Nationalsozialistisches Strafrecht. Gedanken zur Denkschrift des preussischen Justizministers. ZStrw. Bd. 53. 1934. S. 603 ff.

キー文大学世代 Das Verbrechen eine Rechtsgutsverletzung? DS. Bd. 2. 1935. S. 97 ff. / Revision und Berufung im künftigen Strafverfahren. DS. Bd. 2. 1935. S. 465 ff. / Die Bedeutung des Ehrenschutzes im nationalsozialistischen Strafrecht. DR. Jg. 5. 1935. S. 269 ff. / Grundsätzliches zur Erneuerung des Strafverfahrens. DR. Jg. 5. 1935. S. 520 ff. / Die weltanschaulichen Grundlagen der deutschen Strafrechtsentwicklung seit der Carolina. ZAk. 1935. S. 106 ff. / Das subjektive Recht im Strafrecht. DRW.

keit im kommenden Strafrecht. ZStrw. Bd. 55. 1936. S. 18 ff. / Gleispach. 1936. S. 70 ff. / Zur Problematik des teleologischen Die Bedeutung des Erziehungsgedankens im neuen deutschen S. 806 ff. / Zur Abkehr der strafrechtlichen Tatbestandsaus-S. 121 ff. / Gemeinschäftsarbeit am neuen Straftrecht. ZAk. 1938. allgemeinen Teils im gemeinen deutschen Strafrecht. DRW. 1938. Tiberius Decianus und seine Bedeutung für die Entstehung des des neuen Strafrechtseystems. ZStrw. Bd. 57, 1938. S. 295 ff. / 4. 1937. S. 335 ff. / Rechtswidrigkeit und Schuld im Aufbau ff. / Der Streit um das Rechtsgutsverletzungsdogms. DS. Bd. Zur Neugestaltung des Jugendstrafrechts. DS. Bd. 4, 1937. S. 73 Begriffsbildung im Strafrecht. F. f. R. Schmidt. 1936. S. 47 ff. / Unterlassungsdelikte im System des neuen Strafrecht. F. f. Strafvollzug. ZStrw. Bd. 55. 1936. S. 276 ff. / Die unechten strafrecht. DR. Jg. 1936. S. 64 ff. / Die materielle Rechtswidrig-1940. S. 518 ff. in der neuen italienischen Strafrechtswissenschaft. ZStrw. Bd. 59. 241 ff. / Methodenwandel, Analogieverbot und Rechtsgutslehre legung von der zivilrechtlichen Begriffsbildung. DRW 1939. S. S. 39 ff. / Strafe und Erziehung im künftigen Jugend-

Kriegustrafrecht, DS. Bd. 9. 1942. S. 33 ff.

通故中 Putative Rechtfertigungsgründe und finale Handlungs-

lehre. MDR. 1951. S. 196 ff. / Der Irrtum bei der Wahrnehmung berechtigter Interesse. NJW. 1951. S. 691 ff. / Notwehr und Güterabwegungsprinzip. MDR. 1952. S. 132 ff. / Die neuen Voraussetzungen der Wahlfeststellung im Strafverfahren. NJW. 1952. S. 725 ff. / Zum rechtswissenschaftlichen Methodenstreit im 16. Jahrhundert. Die "Apologia pro iurisprudentibus qui responsasuaedunt" des Tiberius Decianus. F. f. Niedermeyer. 1953. S. 195

ゲッチンゲン大学時代

Zur jugendstrafrechtlienen Behandlung der Heranwachsenden. NJW. 1955. S. 1577 ff. / Die Kriminalität der Jugendlichen, Heranwachsenden und Jungerwachsenen in Niedersachsen von 1948 bis 1955. MKri. 1956, S. 126. ff. / Soziale Adäquanz und Tatbestandslehre. ZStrw. Bd. 72. 1960. S. 369 ff. / Tatbestandsirrtum und Verbotsirrtum. Gött. F. f. OLG. Celle. 1961. S. 175 ff. / Die Behandlung der Heranwachsenden im künftigen Strafrecht. ZStrw. Bd. 74. 1962. S. 1 ff. / Die vorbeugende Verwahrung nach dem StGB-Entwuf 1962. F. f v. Weber 1963. S. 121 ff. / Zur Abgrenzung von Diebestahl und Gebrauchsanmassung, insbesendere beim Kraftfahrzeugdiebstahl. GA. 1964. S. 97 ff. / Die Jugendkriminalität in der industriellen Wohlsbandsgesellschaft. MKri 1965. S. 53 ff.

シュミット木イザー (Eberhard Schmidhäuser)

の体験に基づいたすぐれた論稿である。 MKri. 1939. S. 258 ff. はハイルブロンの少年刑務所長時代の実務上マンは行刑官であつたが、その論文 Zur Frage des Jugendarrestes.

エベルハルトは一九五五年にチュービンゲン大学私講師となつたが、その論文は Gesinnungsmerkmale im Strefrecht, 1957.であり、が、その論文は Gesinnungsmerkmale im Strefrecht, 1957.であり、が、その論文は Gesinnungsmerkmale im Strefrecht, 1957.であり、ガラス教授の指導で研究を重ねた所産である。一九五九年ゲッチン数法学にも数こそ少ないが立派な仕事を残している。文章も上手で数法学にも数こそ少ないが立派な仕事を残している。文章を上手である。はじめはガラスの影響でフィナリストのような論文を書いてある。はじめはガラスの影響でフィナリストのような論文を書いてある。はじめはガラスの影響でフィナリストのような論文を書いてある。はじめはガラスの影響でフィナリストのような論文を書いてある。はじめはガラスの影響でフィナリストのような論文を書いてある。はじめはガラスの影響でフィナリストのような論文を書いてある。

みが今日の彼をつくつたのであろう。 真面目な、穏厚な人柄であるが、戦争によつて雙脚となつた苦し

著書

Vom Wesen der Strafe. 1963.

製文

Willkürlichkeit und Finalität als Unrechtsmerkmal im Strafrechtssystem. ZStrw. B. 66. 1954. S. 27 ff. (紹介·井戸田侯' 公會報告 学 | 川中 | 六七寅) / Fluchtverbot und Anzeigegebot bei Verkehrsunfällen. JZ. 1955. S. 433 ff. / Zum Begriff der bewussten Fahrlässigkeit. GA. 1957. S. 305 ff. / Der Begriff des bedingten

Vorsatzes in der neuesten Rechtsprechung des BGH und in § 16 Kommissionsentwurf StGB. Allgemeiner Teil 1958. GA. 1958 S. 161 ff. / Zeuge, Sachverständiger und Augenscheingehilfe. Ein Beispiel prozessrechtlicher Begriffsbildung. ZZP. 1959. S. 365 ff. / Objektive Strafbarkeitsbedingungen. ZStrw. Bd. 71. 1959. S.

学男、法学論表七一巻一号一一八頁以下) 幸男、法学論表七一巻一号一一八頁以下)

シュミット (Eberhard Schmidt)

一八九一年三月一六日、ユーテルボルクに生れた。父は医者であった。一九一四年から二〇年まで、ベルリン大学でマ・リストの助手を勤めていた。学位論文は Die Kriminal politik Preussens unter Friedrich Wilhelm I. und Friedrich II. 1914. である。 一九二〇年、ベルリン大学私講師となつた。請求論文は Fiskalat und Strafprozess. Archivalische Studien zur Geschichte der Behördenorgunisation und des Strafprozesserechts in Brandenburg-Preussen. 1921. である。

ライブチッヒ大学、一九四五年ゲッチンゲン大学と次々に招聘を受じ、一九二九年にはハンブルク大学教授に招聘された。一九三五年一九二一年ブレスラウ大学教授、一九二六年キール大学教授と転

すように、まことに輝かしい学者の道を歩み続けたのである。教授の後任として赴任して、ここで定年退職をした。その経歴が示諾して転任を重ね、一九四八年ハイデルベルク大学にラートブルフ

スペーテント教授について、何も語る必要はない位有名であるし、ハイデルベルク大学で現役として最後の講義を聴講したときのことのイデルベルク大学で現役として最後の講義を聴講したいことは、シュミット教授をマ・リスト流の実証主義者と考えることは当つていないという点である。教授は医師であつた父親の影響をうけ、さらには博士論文、教授資格請求論文、主著の一つである刑法史学の研究に現われているように、研究資料を入手しうる限り蒐集して着実に事実を追及し、それに立脚した理論をくみ立てるという手堅さが、シュミット教授の真価であり、その特色である。シュミット教授には註釈書を書くことが最もふさわしい仕事なのである。又、シ授には註釈書を書くことが最もふさわしい仕事なのである。又、シ授には註釈書を書くことが最もふさわしい仕事なのである。又、シガ、シュミット教授の筆値であり、その特色である。シュミット教授には註釈書を書くことが最もふさわしい仕事なのである。又、シガでは記訳書を書くことが最もなさわしい仕事なのである。又、シガでは主教授の筆度の美しさは定評がある。

と、一九六一年以後の論文は以下の通りである。 教授の著作録は七○才記念論文集六六二頁以下にある。主な著書

1

Liszt-Schmidt: Lehrbuch des deutschen Strafrechts. 23. Aufl. 1921. 24. Aufl. 1924. 25. Aufl. 1927. 26. Aufl. 1932. / Strafrechtsreform und Kulturkrisis. 1931. / Militärstrafrecht. 1936. / Die militärische Straftat und ihre Täter. 1936. / Der Arzt im Strafrecht. 1939. / Justitia fundamentum regnorum. 1947

(紹介・平野龍一、刑法雜誌一卷一号一八九頁以下) / Einführung in die Geschichte der deutschen Strafrechtspflege. 1. Aufl. 1947.
2. Aufl. 1951. / Das neue Westdeutsche Wirtschaftsstrafrecht.
Grundsätzliches zu seiner Ausgestaltung und Anwendung. 1950. / Lehrkommentar zur Strafprozessordnung und zum Gerichtsverfassungsgesetz. 1. Teil. 1952. (2. Aufl. 1965) 2. Teil. 1957. 3. Teil. 1960. / Die Reform des Strafrechts im Rückblick auf Berliner Impulse in der Geschichte der modernen Kriminalpolitik. 1955. (紹介・西原春夫、刑法雜誌九卷一号一〇四頁以下)/ Die Bestechungstatbestände in der höchstrichterlichen Rechtsprechung von 1879-1959. 1960. / Die Sache der Justiz, 1961. / Empflehlt es sich, dass der Gesetzgeber die Fragen der ärztlichen Aufklärungspflicht regelt? Verh. d. 44. Deut. Jur. Tag. 1962.

論文 (一九六一年以後)

Rechtsauffassung der Staatsanwaltschaft und Legalitätsprinzip.
MDR. 1961. S. 269 ff. / Ist ein Folgerecht im Konkur massezugehörig? Versicherung u. Recht. 1961. S. 493 ff. / Verhaftungsantrag, Rechtsmittelerklärung und \$136 a StPO. JR. 1962. S. 290 ff. / Probleme der richterlichen Unabhängigkeit. DRiZ. 1962. S. 401 ff. / Zieländerung bei der kleinen Strafprozessreform? DRiZ. 1963. S. 176 ff. / Probleme der richterlichen Verantwortung. DRiZ. 1963. S. 376 ff. / Das deutsche Richtergesetz. JZ. 1963. S. 73 ff. / Ein Gegenentwurf zum Entwurf eines StGB.

1962—Kritische Erörterungen. MDR. 1963. S. 629 ff. / Anklageerhebung; Eröffnungsbeschluss, Hauptverfahren, Urteil-Betrachtungen sur Strafprozessreform. NJW. 1963. S. 1081 ff. / Der
Inqusitionprozess in ober- und niederbayerischen Rechtsquellen
des 15. und 16. Jahrhunderts. F. f. v. Weber. 1963. S. 32 ff. /
Der Stand der Rechtsprechung zur Frage der Verwendbarkeit von
Tonbandaufnahmen im Strafprozess. JZ. 1964. S. 537 ff. / Zur
Rechtsstellung und Funktion der Staatsanwaltschaft als Justizbehörde. MDR. 1964. S. 629 ff. u. 713 ff.

ショット (Rudolf Schmitt)

3

Zur Systematik der Unterlassungsdelikte. JZ. 1959. S. 432 ff. / Können Beschlüsse aus §\$346, 349 StPO zurückgenommen werden? JZ. 1961. S. 15 ff. / Rücktritt vor der Verabredung zu einem Verbrechen. JuS. 1961. S. 25 ff. / Die Bestechungstatbestände

im Entwurf 1960 (Übersicht und Kritik). ZStrw. Bd. 73. 1961. S. 414 ff. (紹介·宮沢浩一、本誌三六巻八号一〇五頁) / Vorsätzliche Tötung und vorsätzliche Körperverletzung. JZ. 1962. S. 389 ff.

フライブルク大学時代 Subjektive Rechtfertigungselemente bei Fahrlässigkeitsdelikten? JuS. 1963. S. 64 ff. / Die Konkurrenz im geltenden und künftigen Strafrecht. 1. Teil u. 2. Teil. ZStrw. Bd. 75. 1963. S. 43 ff. u. 179 ff. / Strafprozessuale Präventivmassnahmen. JZ. 1965. S. 193 ff.

シュレーダー (Horst Schröder)

一九一三年三月九日、ブレーメンに生れた。父親は銀行家であつた。その影響もあつてか彼の論稿は実務上の解決に資することを常た。その影響もあつてか彼の論稿は実務上の解決に資することを常た。その影響もあつてか彼の論稿は実務上の解決に資することを常た。その影響もあつてか彼の論稿は実務上の解決に資することを常た。その影響もあつてか彼の論稿は実務上の解決に資することを常た。 まュンスター大学私講師とないが、これは師弟関係によるものではなくて、チュービンゲンにあるが、これは師弟関係によるものではなくて、チュービンゲンにあるが、これは師弟関係によるものではなくて、チュービンゲンにあるが、これは師弟関係によるものではなくて、チュービンゲンにあるが、これは師弟関係によるものではなくて、チュービンゲンにあるが、これは師弟関係によるものではなくて、チュービンゲンにあるが、これは師弟関係によったものであるという。

著書

Schönke-Schröder: Strafgesetzbuch, ab 7. Aufl. 1954. / Sch-

inke-Schröder-Niese: Lehrbuch des Zivilprozessrechts. 8. Aufl. 1956 / Gesetz und Richter im Strafrecht. 1953. / In welcher Weise empfiehlt es sich, die Grenzen des strafrichterlichen Ermessens im StGB. zu regeln? Gutacht. z. 41. Deut. Jur. Tag. 1955. / Die kriminalpolitische Aufgabe der Strafrechtsreform 1962.

waixxx一大学的代 Ehrenschutz von Gemeinschaften im kommenden Strafrecht, GS. Bd. 110, 1938. S. 77 ff. / Der Täterbegriff als "technisches" Problem. ZStrw. Bd. 57, 1938. S. 459 ff. / Über die Abgrenzung des Diebstahls von Betrug und Erpressung. ZStrw. Bd. 60, 1941. S. 33 ff.

ファーツ大学時代 Die Teilnahme im internationalen Strafrecht. Zugleich ein Beitrag zur Lehre vom Geltungsbereich des deutschen Strafrechts. ZStrw. Bd. 61, 1942. S. 57 ff. / Zum Aufbau der deutschen Gerichte. ZAk. 1943. S. 175 ff. / Notwehrüberschreitung und Putativnotwehr. ZAk. 1944. S. 123 ff.

*- ~ 大学整化 Teilnahmeprobleme bei der Abtreibung. MDR. 1949. S. 391 ft. / Der Rücktritt des Teilnehmers vom Versuch nach § 46 und 49 a. MDR. 1949. S. 714 ff. / Begünstigung und Hehlerei. F. f. Rosenfeld. 1949. S. 161 ff. / Aufbau und Grenzen des Vorsatzbegriffs. F. f. Sauer. 1949. S. 207 ff. / Sicherungsbetrug und Sicherungserpressung. MDR. 1950. S. 398 ff. / Vorsatz und Schuld. MDR. 1950. S. 646 ff. / Zur Abgrenzung

Tötungsdelikte. SJZ. 1950. S. 560 ff. / Der Eid als Beweismittel. der Vermögensdelikte. SJZ. 1950. S. 94 ff. / Der Aufbau der S. 649 ff. / Zur Abgrenzung zwischen Mord und Totschlag. JZ. MDR. 1951. S. 387 ff. / Die Rechtsnatur der Begünstigung und ZZP. Bd. 64, 1950. S. 216 ff. / Tatbestands- und Verbotsirrtum des mesures de sécurité. Rev. int. dr. pén. 1953. p. 621 ff. dem BGH. MDR. 1953. S. 70 ff. / L'unification de la peine et 1952. S. 526 ff. / Der Irrtum über Rechtfertigungsgründe nach Hehlerei. MDR. 1952. S. 68 ff. / Bedingte Verurteilung. NJW Mat. Str. Ref. Bd. 1. 1954. S. 295 ff. (紹介・前川信夫、ドイツにお 論二二七頁以下) / Die Neugestaltung der Abtreibungsdelikte. Ref. Bd. 1. 1954. S. 283. (紹介・光藤景皎、ドイッにおける刑法改正 178 ff. / Die künftige Gestaltung der Tötungsdelikte. Mat. Str. Die Irrtumsrechtsprechung des BGH. ZStrw. Bd. 65. 1953. S. 1952. S. 6 ff. / Zur Teilnahme an Tötungsdelikten. NJW 1952. 1954. S. 415 ff. / Gesetzliche und richterliche Strafzumessung. F. f. Mezger. und der sichernden Massnahmen. ZStrw. Bd, 66. 1954. S. 180 ff. ける刑法改正論二四〇頁以下) / Die Vereinheitlichung der Strafe

サュービンゲン大学時代 Rechtswidrigkeit und Irrtum bei Zueignungs- und Bereicherungsabsicht. DRiZ. 1956. S. 69 ff. / Die Freiwilligkeit des Rücktritts vom Versuch. MDR. 1956. S. 321 ff. / Konkurrenzprobleme bei den erfolgsqualifizierten Delikten. NJW.

Heilbehandlung im geltenden Strafrecht und im StGB-Entwurf des Ermessensbeamten. GA. 1961. S. 289 ff. / Eigenmächtige ff. / Das Rechtsgut der Bestechungsdelikte und Bestechlichkeit und schweizerischen Strafrecht. Schw. ZStr. Bd. 76. 1960. S. 1 Not als Rechtfertigungs- und Entschuldigungsgrund im deutschen licher Beweisregeln im Strafrecht. NJW. 1959. S. 1903 ff. / Die im § 170 b StGB. JZ. 1959. S. 346 ff. / Zur Zulässigkeit gesetz-1958. S. 205 ff. / Der Begriff der "gesetzlichen Unterhaltspflicht" bende Entscheidungen im Zivil- und Strafprozess. F. f. Nikisch. des \$ 330 a StGB. DRiZ. 1958. S. 219 ff. / Die Bindung an aufhelibera in causa. GA. 1957. S. 297 ff. / Der subjektive Tatbestand 1956. S. 1737 ff. / Verbotsirrtum, Zurechnungsfähigkeit, actio S. 1958 ff. / Beförderung von Gütern durch Handelsvertreter, Konkurrenzprobleme bei Untreue und Unterschlagung. NJW. 1963. der drei Begünstigungstatbestände. NJW. 1962. S. 1037 ff. / dens beim Betrug. NJW. 1962. S. 721 ff. / Die Koordinierung vom Versuch. JuS. 1962. S. 81 ff. / Grenzen des Vermögenscha-学論養七〇巻三号一二六頁以下) / Grundprobleme des Rücktritts wurfs 1959 II. F. f. E. Schmidt. 1961. S. 290 ff. (紹介·森下忠、法 1960. NJW. 1961. S. 951 ff. / Die Notstandsregelung des Ent-Handelsmakler und Kommissionäre. Verkehrssteuer-Rundschau. beständen. F. f. v. Weber. 1963. S. 233 ff. 1963. / Eigenhändige und Sonderdelikte bei Fahrlässigkeitstat-

> 発表年代不詳のふの Die Herrschaft der Parteien im Zivilprozessrecht mit rechtsvergleichenden Hinweisen auf die neue italienische ZPO. Annuario di diritto comparato e di studi legislativi. XVI.

の中でも理論家として通つている。 る。ハイデルベルク大学教授に転じたラックナーと並んで、法務省る。ハイデルベルク大学教授に転じたラックナーと並んで、法務省がソの司法省参事官で、フライブルク大学の名誉教授をかねていシュワルム(Georg Schwalm)

著書(共著)

Dreher-Lackner-Schwalm: Wehrstrafrecht. 1958

が文

Heimtücke und achtenswerter Beweggrund. MDR. 1957. S. 260 ff. / Das Einführungsgesetz zum Wehrstrafrecht. JZ. 1957. S. 398 ff. / Zur Kasuistik der Mordmerkmale. MDR. 1958. S. 396 ff. / Strafrechtliche Probleme der künstlichen Samenübertragung beim Menschen. GA. 1959. S. 1 ff. (宮沢浩一・人工授精に関する刑法上の諸問題・比較法と私法の諸問題――小池隆一博士還歷祝賀論文集法上の諸問題・比較法と私法の諸問題――小池隆一博士還歷祝賀論文集法学界の動向、一四五頁以下として再録。この論稿はシュワルムの論文によつて書いたものである)/ Der Stand der Strafrechtsreform. MDR. 1959. S. 797 ff. 884 ff u. 965 ff. 1960. S. 6 ff. / Gibt es objektive Strafbarkeitsbedingungen? MDR. 1959. S. 906 ff. / Kriminal-

politik im Strafgesetzentwurf 1960. DRiZ. 1960. S. 277 ff. / Die Schuldfähigkeit nach dem Strafgesetzentwurf. MDR. 1960. S. 537 ff. / Die straffrechtliche Bedeutung der ärztlichen Aufklärungspflicht. MDR. 1960. S. 722 ff. / Gesetzliche Regelung der ärztlichen Aufklärungspflicht. MDR. 1962. S. 689 ff. / Straffrechtsreform und Sozialhygiene, Int. Jour. f. prophyl. med. u. soz. hyg. 1962. S. 121 ff. / Der straffrechtliche Schutz der Persönlichkeitsspäre im technischen Zeitalter. ZStrw. Bd. 74. 1964. S. 488 ff. / Die kriminalpolitische Bedeutung des Entwurfs eines Strafgesetz-

シュウィンゲ (Erich Schwinge)

buches (E 1962, Bundestagsvorlage). GA. 1964. S. 257 ff.

ブルク大学にもどつた。

著書(共著)

Schwinge-Zimmerl: Der Methodenstreit in der heutigen Rechtswissenschaft. 1930.

Der fehlerhafte Staatsakt in Militärvollstreckung. 1930. /

(ペン大学時代 Das neue Untreuestrafrecht in strafrechtlicher und zivilrechtlicher Beleuchtung für die Praxis. 1933. / Grundlagen des Revisionsrechts. 1. Aufl. 1935, 2. Aufl. 1960. / Militärstrafgesetzbuch. 1. Aufl. 1936, 2. Aufl. 1940.

konkretes Ordnungsgedanke im Strafrecht. 1937. / Irrationalismus und Ganzheitsbetrachtung in der Strafrecht. 1937. / Irrationalismus und Ganzheitsbetrachtung in der Strafrechtswissenschaft. 1938. / Militärisches Gehorsam und Verantwortung. 2. Aufl. 1940. / Die Entwicklung der Mannes-Zucht in der deutschen, britischen und französischen Wehrmacht seit 1914. 1941. / Kommentar zum Militärstrafrecht. 6. Aufl. 1944. / Welt und Werkstatt des Forschens. 1957. / Der Jurist und sein Beruf. 1960. / Der Jurist in der modernen Gesellschaft. 1964.

製や

Identität der Tat im Sinne der Strafprozessordnung. ZStrw. Bd. 52. 1932. S. 203 ff. / Die Reform des höchstinstanzlichen Rechtsmittels. ZAk. 1935. S. 546 ff.

マールブルク大学時代 Abschaffung der Rechtsmittel im Straf-

wegen verfahrensrechtlicher Verstüsse, F. f. Jung. 1937. S. 212 ff. / Befehl und Gehorsam. Bemerkungen zur Frage der Neugestaltung des § 47 MiStGB. ZAk. 1938. S. 147 ff. / Gehorsam und Verantwortung. Zur Frage des übergesetzlichen Notstands im Militärstrafrecht. DRW. 1939. S. 119 ff.

Wehrmacht und der SS. vor französischen Militärgerichten. MDR. 1949. S. 650 ff. / Die deutsche Kriegsgerichtsbarkeit und die Kriegsgefangene. Neue-Welt-Kalender. 1950. S. 49 ff. / \Zur Reform des Beleidigungsrechts. GA. 1956. S. 309 ff. / Die deutsche Militärgerichtsbarkeit im zweiten Weltkrieg. DRiZ. 1959. S. 350 ff. / Der Wissenschaftler und die Freiheit der Meinungsseseng. F. f. Herrfahrdt. 1961. S. 177 ff. / Die Bekämpfung des Obszönen im angio-amerikanischen Recht. F. f. v. Weber: 1963

ジーゲルト (Karl Siegert)

一九〇一年七月二日、ウスラールに生まれた。ミュンスター大学 wa得したのは Die Processhandlungen, ihr Widerruf und ihre Wackholung. Ein Beitrag zu den Lehren des allgemeinen Prozess-

五八年、第一線を退いた。である。一九三三年よりゲッチンゲン大学正教授になつたが、一九講師に就任したが、請求論文は Notstand und Putativnotstand. 1931.講師に就任したが、請求論文は Notstand und Putativnotstand. 1931.

稿を発表している。リア刑法の研究を数多く発表し、同時に又、イタリアの学界にも論し、刑訴の分野に見るべきものが多い。戦後は外国刑法、特にイタシーゲルトは戦前、ナチス刑法に同調する論著を残したが、しかジーゲルトは戦前、

7

Grundzüge des Strafrechts im neuen Staate. 1934. / Deutsches-Wirtschaftsstrafrecht. 1939. (紹介、回藤重光·法学協会業誌五八巻九号 | 〇四 | 頁以下) / Grundlinien der Reform des Zivilprozess-rechts im Nachkriegseuropa. 1952. / Der Missbrauch der Schall-aufnahmegeräte im geltenden Strafrecht. 1953. / Grundlinien des Völkerstrafprozessrechts. 1953. / Repressalie, Requisition und Höh. Befehl. 1955.

論文

Unverrückbare Situation im Entwurf des Einführungsgesetzes zum ADStGB. ZStrw. Bd. 51. 1931. S. 379 ff. / Notstand und Putativnotstand. ZStrw. Bd. 52. 1932. S. 48 ff. / Kritische Bemerkungen zum Schnellverfahren. GS. Bd. 102. 1933. S. 30 ff. / Nulla poena sine lege. Kritische Bemerkungen zu den Vorschlägen der amtlichen Strafrechtskommission. DS. 1934. S. 376 ff. / Die

schuldigter im Strafprozess des neuen Staates. ZStrw Bd. 54. Jg. 1935. S. 533 ff. / Die Zwecke des neuen Strafprozessrechts. S. 549 ff. / Die Rechtsmittel im neuen Strafverfahren. DR. 5. Die Lage des Strafverfahrensrechts. DRW. 2. Jg. 1937. S. 47 ff. / vision im Strafverfahren. F. f. Gleichspach. 1936. S. 138 ff. / Strafmass. ZStrw. Bd. 54, 1935. S. 418 ff. / Berufung und Re-DJZ. Bd. 40. 1935. S. 851 ff. / Richter, Staatsanwalt und Be-283 ff. / Wie lassen sich Riesenprozesse abkürzen? ZAk. 1935. Rechtskraftswirkungen im künftigen Strafprozess. DS. 1935. S. gigkeit des Staatsanwalts. DRiZ. 1956. S. 224 ff. / L'indepenfondamentali del nuovo diritto penale economica germania. F. f. für fremde Schuld im Steuer- und Wirtschaftsstrafrecht. NJW. Recht und Hochschule im Umbruch. DR. 8. Jg. 1938. / Haftung 1935. S. 14 ff. / Der Einfluss der Strafzwecke auf Schuld und bandaufnahmen und ihre Verwertung im Zivilprozess. NJW. 1957. Strafprozess. GA. 1957. S. 265 ff. / Die aussergerichtlichen Ton-1956. p. 191 ff. / Verwertung rechtsmässiger Tonbandaufnahmen im denza del pubblico ministero. Studi di memoria F. Grispigni. sätze im Zivilprozess. AcP. 1956. S. 28 ff. / Sachliche Unabhän-Manzini. 1954. / Allgemeine anerkannte und regionale Grunddant l'instruction. Rev. int. dr. pén. 1953. p. 201 ff. / Idee 1953. S. 1333 ff. / La protection de la liberté individuelle pen-1953. S. 527 ff. / Westeuropäisches Wirtschaftsstrafrecht. NJW

> S. 689 ff. / Fehlerhafte Besetzung des Kollegialgerichts nach der of further international commercial arbitrat. Martin Domke: Insionsinstanz. DRiZ. 1958. S. 191 ff. ! Die \$\$ 139, 286 und 287 sehrecht und Schutz der Einzelperson. NJW. 1963. S. 1953 ff. neuesten italienischen Strafrecht. GA. 1963. S. 334 ff. / Fern-Italienisches Strafrecht und Strafprozessrecht in neuen Veröffentund italienischen Strassenverkehrsrecht. DAR. 1960. S. 277 ff. // NJW. 1959. S. 2152ff. / Schuld und Trunkenheit im deutschen 1959. S. 243 ff. / Die "offensichtlich unbegründeten" Revisionen. und Strafprozessrecht nach Frosali, Bettiol und Battaglini. GA. ternational trade arbitrat. 1958. / Das italienische Strafrecht W. 1958. S. 1025 ff. / Universal, regional and national measures ZPO in der neuesten Rechtsprechung des Bundesgerichtshofs. NJ Nachprüfung der Besetzung von Kollegialgerichten in der Revi-Rechtsprechung des Bundesgerichtshofs. NJW. 1957. S. 1622 ff. / lichungen. GA. 1962. S. 74 ff. / Tradition und Fortschritt im

ジーバーツ (Rudolf Sieverts)

tersuchungshaft auf die Psyche der Gefangenen. Phünomenologische tersuchungshaft auf die Wirkungen der Freiheitestrafe und Un-を取得した。論文は Die Wirkungen der Freiheitestrafe und Un-

Studien an literarischen Selbstzeugnissen ehemaliger Häftlingen. 1929. である。一九二八年にリープマンが急逝したので、その後任として赴任した臣・シュミット教授についてさらに研究生活を続け、一九二二年にハンブルク大学私講師となつた。請求論文は Beitrüge zur Lehre von den subjektiven Unrechtselementen im Strafrecht. 1934. である。一九三三年にマールブルク大学員外教授に就任した1934. である。一九三三年にマールブルク大学員外教授に違えられ、今日に至つが、一九三四年にはハンブルク大学正教授に違えられ、今日に至つが、一九三四年にはハンブルク大学正教授に違えられ、今日に至った。

に活躍した。
一名の研究領域は現在では殆んど刑事学、特に少年犯罪に限られて
その研究領域は現在では殆んど刑事学、特に少年犯罪に限られて

著書(共著、訳書)

Die Behandlung der jungen Rechtsbrecher in England unter besonderer Berücksichtigung des Borstal Systems. 1937. / Das englische Jugendwohlfahrts- und Jugendgerichtsgesetz vom 13. April 1933 (Children and Young Act. 1933) 1938. / Die strafrechtliche Behandlung der Frühkriminalität. 1938. / Das englische Gesetz über Kriminalrechtspflege von 1948 (Criminal Justice Act 1948), 1952.

以文

Die preussische Verordnung über den Strafvollzung in Stufen vom 7. Juni 1929, in: Rechtsstaatsidee und Erziehungsstrafe. Abh. z. Erinnerung v. Liepmann. 1930. S. 129 ff. / Die Arbeitsgemein-

5ff. / Gegenwartsfragen des deutschen Jugendrechts. Jb. d. S. 771 ff. / Das neue Reichsjugendgerichtsgesetz. ZAk. 1944 S. Übergangsheime für entlassene Strafgefangene. ZStrw. Bd. 55. mental Committee on Persistent Offenders. May 1932). ZStrw. Bd. schaft für die Reform des Strafvollzuges, Tagungen 1929 und 1930 sie auszugestalten? Mat. Str. Ref. Bd. 1. 1954. S. 107ff. (架 sich ein neues Strafgesetzbuch die Einführung der unbestimmten S. 298 ff. / Zur Notwendigkeit und Gestaltung der Gerichtshilfe einer Heil- und Pflegeanstalt oder in Sicherungsverwahrung. SJZ eines vermindert zurechnungsfähigen Gewohnheitsverbrechers in Jugendarbeit. 1949. S. 58 ff. / Zur Frage der Unterbringung Jugendlichen und ihre Reformbedürftigkeit. ZStrw. Bd. 57. 1938 strafvollzugs. MKri. 1938. S. 31 ff. / Die Strafregistrierung bei Bd. 56. 1937. S. 551 ff. / Zur Neuordnung des deutschen Jugend-MKri. 1937. S. 449 ff. / Das englische Borstalsystem. ZStrw. 1936. S. 307 ff. / Zur Frage der gerichtlichen Ermittlungshilfe. Teilaufgabe der deutschen Hochschulen. MKri. 1935. S. 1 ff. / 53. 1934. S. 676 ff. / Kriminologische Forschung als Landschaftsdie Behandlung hartnäckiger Verbrecher (Report of the Depart-ZStrw. Bd. 51. 1931, S. 255 ff. / Die englische Denkschrift über Verurteilung empfehlen und in welchem Umfang? Wie wäre im allgemeinen Strafverfahren. MKri. 1953. S. 129 ff. / Würde 1950. S. 510 ff. / Der Jugendliche im Strafvollzug. St. Gen. 1952.

Criminality in Germany, in: Sexual Crime Today, 1960. S. 51 ft. / recht. u. JWohlf. R. 1959. S. 241 ff. / The Evolution of Sexual urteilung der Funktionen zwischen dem Jugendrichter und der der Bundesrepublik. F. f. Gieseke. 1958. S. 259 ff. / Die Vergleichung. Bd. 2. 1958. S. 37 ff. / Zum Wasserhaushaltsgesetz rechtliche Behandlung von jungen Rechtsbrechern (über 18 Jahren) Neue Wege zur Bek. d. JKrim. 1955. S. 15 ff. / Die kriminalgerichtsgesetz von 1953 und die deutsche Jugendgerichtsbewegung. 介・前川信夫・ドイツにおける刑法改正論八九頁以下) / Das Jugend-Strafrechtsreform" und das materielle Jugendkriminalrecht. MKri. buches dem Strafvollzug? ZStVollz. 1961. 45 ff. / Die "Grosse anderen Mitarbeitern in der Jugendkriminalpflege. ZBl. f. Jugendin der Bundesrepublik Deutschland, in: Arbeiten zur Rechtsver-Aufgaben innerhalb einer modernen Strafrechtspflege. Gerichtl. Krim. u. Vollz. d. Frei. Str. 1961. S. 150 ff. / Fachpsychologische 1961. S. 222 ff. / Die Erziehungsaufgabe des Jugendarrestes. Welche Aufgabe stellt der Regierungsentwurf eines Strafgesetz-Psychol. 1962. S. 91 ff

シュペンデル (Günter Spendel)

theorie für die Handlungsdelikte. Eine kritische Untersuchung・一九二二年七月一一日、ウェストファーレンのヘレネに生れた。

授となつたが、一九六二年にヴュルツブルク大学正教授に招聘された。 Lehre vom Strafmass. 1954. である。一九五八年に同大学員外教 した。師の逝去の後、フランクフルト大学のクラスについ でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 では、 でいる。 でい。 でいる。 で

館文

て今日に至つている。

Strafrecht. ZStrW. Bd. 65, 1953. S. 519 ff. / Max Alsberg (Neue Gustav Radbruch. NJW. 1950. S. 17 ff. / Das richterliche Bera-/ §51 Abs. II. StGB und das Problem des Strafmasses. NJW 65. 1953. S. 403 ff. / Zur Notwendigkeit des Objektivismus im tungsgeheimnis und seine Grenzen im Strafprozess. ZStrw. Bd. sammenhang im Strafrecht. SJZ. 1949. S. 130 ff. / Zum Tode Jurisprudenz. F. f. Radbruch. 1948. S. 68 ff. / Der Kausalzuund strafprozessuale Teilrechtskraft. ZStrw. Bd. 67. 1955. S. 556 ff. Deutsche Biographie, Bd. 1.) 1953. / Materiellrechtliche Straffrage Vollmacht und Rechtsstellung des Strafverteidigers. JZ. 1959. S. Paul Johann Anselm Feuerbach. NJW. 1958. S. 815 ff. / Zur zur Systematik des Strafrechts. F. f. Rittler. 1957. S. 39 ff. / 441 ff. / Grundfragen jeder Strafrechtsreform. Eine Studie nach der subjektiven Versuchstheorie. ZStrw. Bd. 69. 1957. S. 1956. S. 775 ff. / Der sogenannte Umkehrschluss aus § 59 StGB Über eine rationalistische Geisteshaltung als Voraussetzung der

737ff. / Die kriminalpolitischen Aufgaben der Strafrechtsreform. NJW. 1960. S. 1700ff. / Zur Unterscheidung von Tun und Unterlassen. F. f. E. Schmidt. 1961. S. 183 ff. (紹介・中山研一・法学論養七一卷五号九〇頁以下) / Die Begründung des richterlichen Strafmasses. NJW. 1964. S. 1758 ff.

シュトック (Ulrich Stock)

一八九六年五月八日、ライブチッヒに生れた。父親は医師であった。ミュンヘンとライブチッヒに学び、リヒアルト・シュミットのた。ミュンヘンとライブチッヒに学び、リヒアルト・シュミットのを移を取得して後、裁判官の生活を送つていたが、一九三八年にベルリン大学表授に就任した。一九四一年にはザール大学を転投に招聘され就任したが、一九三一年に私講師となつたが、請求論文はど、一九四七年までその任にあつた。一九四八年にはザール大学を転投に招聘され就任したが、一九三一年にはヴュルップルク大学に転投に招聘され就任したが、一九五一年にはヴュルップルク大学に転投に招聘され就任したが、一九五一年にはヴュルップルク大学に転投に招聘され就任したが、一九五一年である。

著書(共著を含む)

Die Strafe als Dienst am Volk. Der Ausgleichungsgedanke in seiner Bedeutung für das Strafrechtssystem. 1933. / Wehrstrafrecht und allgemeines Strafrecht, in: Die militärische Gerichtsverfassung und ihr Verhältnis zur allgemeinen Gerichtsbarkeit. (契行年度休眠) / Strafprozessrecht. Ein Grundriss. 1952.

S. 97 ff. / Die strafrechtliche Behandlung des politischen Mordes. IV. 1951. / Die Strafe als Leistung. Ann. Univ. Sar. 1952. punkt der Abkürzung sogen. Monstreprozesse. ZAk., 1935. S. 541 ff. 148 ff. / Die Reform der Strafprozessordnung unter dem Gesichts 925 ff. / Zur Frage der Übernahme anglo-amerikanischer Strafrechtliche Beurteilung und seine Lehre. F. f. Lehmann. 1956. S. tag. JR. 1955. S. 98 ff. / Der Fritsch-Prozess 1839, Seine Mezger, 1954. S. 429 ff. /. August Schoetensack zum 75. Geburts-F. f. Senn. 1954. S. 97 ff. / Das Ziel des Strafverfahrens. F. f. III. 1950. S. 251 ff. / Die Schwangerschaftsunterbrechung. ebenda volizugs gegenüber Erwachsenen und zum Strafmass. F. f. v. prozessgrundsätze in das deutsche Strafprozessrecht. F. f. Rittler. Weber. 1963. S. 407 ff. F. f. Nottarp. 1961. S. 149 ff. / Zur Neugestaltung des Straf-1957. S. 305 ff. / Ist Strafschärfung bei Rückfall berechtigt? Die Abschaffung der Todesstrafe. Die Kirche in der Welt. Zur Strafprozesserneuerung. F. f. R. Schmidt. 1936. S. 197ff. Zur Abgrenzung von Mord und Totschlag. SJZ. 1947. S. 529 ff. Über Staatsnotwehr und Staatsnotstand. GS. Bd. 101. 1932. S.

シュトラーテンウェルト (Günter Stratenwerth)

五〇年まで、ゲッチンゲン大学に学び、ウェルツェル教授の指導を一九二四年一月三一日、ナウムブルクに生れた。一九四五年から

そけた。学位は Die Naturrechtslehre des Johannes Duns Scottus. 1951. という論文による。一九五六年にポン大 学 私 講 師 となつたが、請求論文は Verantwortung und Gehorsam. 1958. である。一九六〇年にエルランゲン大学員外教授、そして一九六一年よりパーカ六〇年にエルランゲン大学員外教授、そして一九六一年よりパーサル大学正教授である。

3

Das rechtstheoretische Problem der Natur der Sache. 1957. 化五巻三号三五七頁以下)

調文

Zur Behandlung des Merkmals "böswillig" in § 1 KWVO. JR. 1949. S. 408 ff. / Der agent provocateur. MDR. 1953. S. 717 ff. / Prinzipien der Rechtfertigung. ZStrw. Bd. 68. 1956. S. 41 ff. / Strafprozessuale Zwangsmassnahmen bei inzidenter Normen-kontrolle. JZ. 1957. S. 299 ff. / Schuld und Sühne. Evang. Theol. 1958. S. 337 ff. / Zur Beschlagnahme von Behördenakten im Strafverfahren. JZ. 1959. S. 693 ff. / Dolus eventualis und bewusste Fahrlässigkeit. ZStrw. Bd. 71. 1959. S. 51 ff. / Objektive Strafbarkeitsbedingungen im Entwurf eines StGB. 1959. ZStrw. Bd. 71. 1959. S. 565 ff. / Arbeitsteilung und ärztliche Sorgfaltspflicht. F. f. E. Schmidt. 1961. S. 383 ff. (紹会、母妻子、选卦論養与1 海1 中 4 代頁以上) / Entwicklungstendenzen der neueren deutschen Strafrechtsdogmatik. JJb. Bd. 2. 1961/62. S.

シュトレー (Walter Stree)

一九二三年五月四日、シュレスウィック・ホルシュタインのホーー九二三年五月四日、シュレスウィック・ホルシュター大学より Massnahmen. 1960. である。一九六二年、ミュンスター大学より Massnahmen. 1960. である。一九六二年、ミュンスター大学より Wassnahmen. 1960. である。一九六二年、ミュンスター大学より Austrahmen. 1960. である。一九六二年、ミュンスター大学より Austrahmen. 1960. である。一九六二年、ミュンスター大学より Massnahmen. 1960. である。一九六二年、ミュンスター大学より Massnahmen. 1960. である。一九六二年、ミュンスター大学より Massnahmen. 1960. である。一九六二年、ミュンスター大学より Austrahmen. 1960. である。

114

In dubio pro reo. 1962

論文

Gesetzliche Schranken für vertragliche Wettbewerbsverbote.

erfolgequalifizierter Delikte.) GA. 1960. S. 289 ff. (紹介·宮沢浩 gegen Vorlegungspflicht. NJW. 1959. S. 2051 ff. / Zur Ausleg-Verw. 1958. S. 172 ff. / Verfassungsbeschwerde bei Verstoss derer Berücksichtigung des Strafantragsrechts der Behörden. öff. 1956. S. 723 ff. / Strafantrag und Gleichheitssatz (unter beson-1956. S. 454 ff. / Zum Strafantrag durch Strafanzeige. MDR. 1956. S. 365 ff. / Zur Vertretung beim Strafantrag. NJW Minderjährigen vor und nach der Ehescheidung. Fam. R. Zig erworbener Güter. GA. 1961. S. 33 ff. / Die Ersatzhehlerei als ung der §§ 224, 226 StGB. (Zugleich ein Beitrag zum Versuch S. 1 ff. / Zur Problematik des publizistischen Landesverrats. JZ. Ersetzhehlerei von der Hehlerei. JuS. 1961. S. 83 ff. / Der Auslegungsproblem. JuS. 1961. S. 50 ff. / Abgrenzung der 1962. S. 93 ff. / Teilnahme am Unterlassungsdelikt. GA. 1963. Z. Fam. 1962. S. 55 ff. / Beteiligung an einer Schlägerei. JuS. Irrtum des Täters über die Angehörigeneigenschaft seines Opfers. 1963. S. 527 ff. 一·本誌三五巻一号一一五頁) / Mitwirken zum Absatz strafbar 1954. S. 1025 ff. / Strafantragsrecht der Eltern eines

テザール (Ottokar Tesar)

の弟子の中、生存している者の最長老である。一九〇八年にプラリー八八一年一二月三一日、プリュンに生れた。マ・リストの直接

大学私講師となつたが、請求論文は有名な Die symptomatische Nerkaltens. 1907. である。一九一九年にはウィーン大学私講師に転じた。一九三五年以来、一九四九年に現役を退くまでハンブルク大学教授の地位にあつた。Monatsschrift Kriminologie und Strafrechtsreform. 1961. の第二分冊は、テザールの生誕八〇歳を祝賀した特別号となつている。

1

Staatsidee und Strafrecht. Eine historische Untersuchung. I. Teil. Das griechische Recht und die griechische Lehre bis Aristoteles. 1914. / Die Überwindung des Naturrechts in der Dogmatik des Strafrechts. Ein Beitrag zur Problematik der Strafrechtswissenschaft. 1928.

盆文

Gesetzestechnik und Strafrechtsschuld. ZStrw. Bd. 32. 1911. S. 379 ff. / Die Rechtsverwirklichung im Strafrecht. Öst. ZStr. Bd. 8. 1920. S. 368 ff. / Freiheitsidee und Strafrecht. F. f. Frank. Bd. 1. 1930. S. 62 ff. / "Die Unwissenschaftlichkeit der Rechtswissenschaft." Bemerkungen zu der Lehre von Anders Wilhelm Lundstedt. MKri. 1938. S. 94 ff. / Die Rechtsprobleme im Kontrollratsgesetz Nr. 50. Untersuchungen zum Wirtschaftsstrafrecht des Kontrollratsrechts. F. f. Wüstendörfer. 1948. S. 232 ff. / Die naturrechtlichen Grundlagen der "crimes against Humanity".

ワルダ (Heinz-Günter Warda)

で一九五四年以来ケルン大学助手として研究を続けた。 で一九五四年以来ケルン大学助手として研究を続けた。 で一九五四年以来ケルン大学のランゲ教授に提出した論文 Die Abgrenzung von Tat-bestande- und Verbotsirrtum bei Blankettstrafgesetzen. 1955. で学を販得した。一九五四年に関いて、中九五四年に、東プロイセンのグロース・ロミンテンにで一九五四年以来ケルン大学助手として研究を続けた。

一九六一年六月五日にケルン大学に提出した請求論文 Dogma-tieche Grundlagen des richterlichen Ermessens im Strafrecht. 2962. により私講師となり、一九六一年一〇月にエルランゲン大学表授に就任した。正教授に任ぜられたのは一九六二年二月である。その後、新設されたボッフム大学の正教授に招聘されたのを機会と、これを受諾したとのことであり、本年三月に正教授に任命された、これを受諾したとのことであり、本年三月に正教授に任命された、これを受諾したとのことであり、本年三月に正教授に任命された。これを受諾したとのことであり、本年三月に正教授に任命された。

Die Verbotsirrtumsregelung des §31 WiStG in ihrer Abgrenzung gegen die allgemeine Irrtumsbestimmung des §59 StGB. JR. 1950. S. 546 ff. / Tatbestandsbezogenes Unrechtsbewusstsein. NJW. 1953. S. 1052 ff. / Kann ein Beamter gegen seinen Willen in eine Richterstelle "versetzt" werden? DRiZ. 1956. S.

107 ff. / Zur Zulässigkeit der Bildung mehrerer Sonderstrafkammern nach § 74 a GVG. DRiZ. 1957. S. 35 ff. / Um die Rechtsmittelbelehrung im Strafprozess. MDR. 1957. S. 717 ff. / Zur gesetzlichen Regelung des vermeidbaren Verbotsirtums. ZStrw. Bd. 71. 1959. S. 252 ff. / Obligatorische Entziehung der Fahrerlaubnis. JZ. 1962. S. 304 ff. / Grundfragen der strafrechtlichen Konkurrenzlehre. JuS. 1964. S. 81 ff. / Das zweite Gesetz zur Sicherung des Strassenverkehrs. MDR. 1965. S. 1 ff. / Das Fahrverbot gemäss § 37 StGB. GA. 1965. S. 65 ff.

マ・ウェーバー (Helmuth von Weber)

一八九三年七月四日、ナッセンに生れた。一九二四年、ライプチッヒ大学私講師となつたが、請求論文はリヒアルト・シュミット教ッヒ大学私講師となつたが、請求論文はリヒアルト・シュミット教ッヒ大学教授に転じた。一九三七年に現役を退いた。一九二八年にはイエーナ大学教授に転じた。一九三七年に現役を退いた。一九六三年にはその也位にとどまり、一九六二年に現役を退いた。一九六三年にはその地大学教授に転じた。一九六二年に現役を退いた。一九六三年にはその地大学教授に転じた。一九六二年に現役を退いた。一九六三年にはその七〇歳誕生を祝う論文集が公刊された。マ・ウェーバーの全著作はその四四五頁以下にある。

りである。 著書の中、主なものと一九六三年以後に発表された論文は次の通

¥

Strafprozess. 5. Aufl. bearb. v. R. Schmidt und v. Weber. 1927. / Grundriss des techechoslowakischen Strafrechta. 1929. / Rechtssinheit und Rechtsprechung. 1929. (ヘェーナ大学教授就任業業) / Aufland der deutsch-österreichischen Strafrechtsvereinheitlichung. 1931. / Internationale Strafgerichtsbarkeit. 1934. / Zum Aufhau des Strafrechtssystems. 1935. / Kriminalsoziologische Einzelforschungen. 1939. / Die Grenzen der strafrechtlichen Verantwortlichkeit. 1943. / Benedict Carpzow (ein Bild der deutschen Rechtspflege im Barockzeitalter). 1944. / Grundriss des deutschen Strafrechts. I. Aufl. 1946. 2. Aufl. 1948. (紹介・種田里・和法業誌1 巻 中 | 七川東京下) / Die strafrechtliche Verantwortlichkeit für Handeln auf Befehl. 1948. / Anleitung für die Strafrechtsübung. 1952. / Die richterliche Strafzumessung. 1956. (紹介・植村秀田・犯票学業誌1 大巻1 中八九東以下) / Die Planung in der Unternehmung. 1963.

Zum Begriff des Staatsgeheimnises. JZ. 1964. S. 127 ff. / Amtsdelikte, Hwb. d. Kriminologie, 2. Aufl. 1965. S. 56 ff.

ウェルツェル (Hans Welzel)

|部は Die kalturphilosophische Grundlagen der Naturrechtslehre Samuelルベルクに学び、プーフェンドルフの自然法論に関する研究(その一九○四年三月二五日、アルテルンに生れた。イェーナとハイデ

Fufendorfe und ihre kulturhistorische Bedeutung, Vierteläuhrecht. Lit. W. s. Kunstpeschichte. Bd. 9. 1930. S. 585 ff. として発表された)
Lit. W. s. Kunstpeschichte. Bd. 9. 1930. S. 585 ff. として発表された)

により学位を取得し、一九三五年ケルン大学私講師となつた。請求

であり、養父であるフィッシャーに提出されたものである。一九三

七年ゲッチンゲン大学員外教授、一九四〇年正教授となり、一九五

二年には終戦直前に逝去したグラーフ・ツー・ドーナのあとをうけ

「二年には終戦直前に逝去したグラーフ・ツー・ドーナのあとをうけ

てボン大学正教授となり、今日に至つている。目的的行為論の推進

者としてのウェルツエルの名前は余りにも有名である。

1

Wahrheitspflicht im Zivilprozess. 1935. / Der allgemeine Teil des deutschen Strafrechts. 1. Aufl. 1940. 2. Aufl. 1943. 3. Aufl. 1944. / Das deutsche Strafrecht. Eine systematische Darstellung. 1. Aufl. 1947. 2. Aufl. 1949. 3. Aufl. 1954, 4. Aufl. 1954. 5. Aufl. 1956. 6. Aufl. 1958. 7. Aufl. 1960. 8. Aufl. 1963. 9. Aufl. 1965. (1 | 版の紹介・布井要太郎・刑法雑誌二巻一号一七五頁以下) / Um die finale Handlungslehre. 1949. (紹介・福田平・刑法雑誌二巻一号一八〇頁以下) / Vom irrenden Gewissen. 1949. / Das neue Bild des Strafrechts. 1. Aufl. 1951. 2. Aufl. 1952. 3. Aufl. 1957. 4. Aufl. 1961. (翻訳・福田平・大塚仁・目的的行為論入門)(二版の紹介・吉川経夫、法学志林五一巻二号一二三頁以下) Naturrecht und materiale Gerechtigkeit. 1. Aufl. 1951. 4. Aufl. 1962. (矢崎光因・自然法に本

書の詳細な紹介、引用がなされている) / Aktuelle Strafrechtsprobleme im Rahmen der finalen Handlungslehre. 1953. (紹介・内田文師・北法七巻ニ号 — 九頁以下) / Die Naturrechtslehre Samuel Pufendorfs. Ein Beitrag zur Ideengeschichte des 17. und 18. Jahrhunderts. 1958. / Fahrlässigkeit und Verkehrsdelikten. 1961. / Wahrheit und Grenzen der Naturrechtslehre. 1963. (紹介・金沢文庫・政経論業 — 四巻五号五九頁以下) / Vom Bleibenden und vom Vergänglichen in der Strafrechtswissenschaft. 1964. (紹介・金沢前田、六六頁以下)

論文

ケルン大学時代

Kausalität und Handlung. ZStrw. Bd. 51. 1931. S. 703 ff. / Über Wertungen im Strafrecht. Eine prinzipielle Bemerkung zur sog. emotionel-normativen Logik. GS. Bd. 103 S. 340 ff.

Pッチントン大学会代、Tradition und Neubau in der Strafrechtswissenschaft. Bemerkungen zur Ideengeschichte. DRW. 1938. S. 113 ff. / Über die Ehre von Gemeinschaften. ZStrw. Bd. 57. 1938. S. 28 ff. / Studien zum System des Strafrechts. ZStrw. Bd. 58. 1939. S. 491 ff. / Persönlichkeit und Schuld. ZStrw. Bd. 60. 1941. S. 428 ff. / Über die substantiellen Begriffe des Strafgesetzes. F. f. Kohlrausch. 1944. S. 101 ff. / Über die ethische Grundlage der sozialen Ordnung. SJZ. 1947. S. 645 ff. / Zur Kritik der subjektiven Teilnahmelehre. SJZ. 1947. S. 645 ff. /

Der Irrtum über die Rechtswidrigkeit des Handelns. SJZ. 1948.

S. 368 ff. / Das Gesinnungsmoment im Recht. F. f. v. Gierke.
1950. S. 290 ff. / Robert v. Hippel. JZ. 1951. S. 536 ff. / Eine wahlweise mit Zuchthaus oder Gefängnis bedrohte Handlung ist stets ein Verbrechen. JZ. 1951. S. 754 ff. / Schuld und Bewusetsein der Rechtswidrigkeit. MDR. 1951. S. 65 ff. / Nochmals der Verbotsirrtum. NJW. 1951. S. 577 ff. / Zum Notstandsproblem. ZStrw. Bd. 63. 1951. S. 47 ff. (紹介·中讀書 | ・東法書記書 | 中 | 九川寅) / Der Irrtum über die Rechtsmässigkeit der Amteausübung. JZ. 1952. S. 19 ff. / Zur Systematik der Tötungsdelikte. JZ. 1952. S. 72 ff. / Der Irrtum über die Zuständigkeit einer Behörde. JZ. 1952. S. 133 ff. / Der Irrtum über die Amteptlicht. JZ. 1952. S. 208 ff.

ポン大学時代

Auf welche Bestandteile einer Strafvorschrift bezieht sich der Satz: nulla poena sine lege? JZ. 1952. S. 617 ff. / Zur Abgrenzung des Tatbestandsirrtum vom Verbotsirrtum. MDR. 1952. S. 584 ff. / Der Irrtum über einen Rechtfertigungsgrund. NJW. 1952. S. 564 ff. / Ein Kapitel aus der Geschichte der amerikanischen Erklärung der Menschenrechte (John Wise and Samuel Pufendorf). F. f. Smend. 1952. S. 387 ff. / Arten des Verbotsirrtums, JZ. 1953. S. 266 ff. / Zur Dogmatik der echten Unterlassungsdelikte, insbesondere des § 330 c StGB. NJW. 1953. S. 327

Strafgesetzbuchs auswirken? Mat. Str. Ref. Bd. 1. 1954. S. 45 ff. die uneidliche Falschaussage und den Meineid. JZ. 1954. S. 227 ff. / 1953: S. 279 ff. (derselbe; in: Naturrecht oder Rechtspositivismus. 652 ff. / Naturrecht und Rechtspositivismus. E. f. Niedermayer. Zam Schadensbegriff bei Erpressung und Betrug. NJW. 1953. S. # / Irrtumsfragen im Steuerstrafrecht. NJW. 1953. S. 486 ff. / ff. / Die Regelung von Vorsatz und Irrtum im Strafrecht als unvorsätzlichen Handlungen? JZ. 1954. S. 429 ff. / Wie würde und Subsumtionsirrtum). JZ. 1954. S. 276 ff. / Teilnahme an Der Parteiverrat und die Irrtumsprobleme. (Tatbestands-, Verbots-1962. S. 322 ff.) / Über das Verhältnis der Strafbestimmung für und die fahrlässige Handlung. JZ. 1956. S. 316 ff. / Zur Pro-Nebenstrafrecht. JZ. 1956. S. 238 ff. / Die finale Handlungslehre 井戸田侃、刑法雑誌七巻一号五八頁) / Der Verbotsirrtum im legislatorisches Problem. ZStrw. Bd. 67. 1955. S. 196 ff. (紹介・ gesetzliche Notstand und die Irrtumsproblematik. JZ. 1955. S. 142 sich die finalistische Lehre auf den Allgemeinen Teil eines neuen S. 257 ft. (紹介·宮沢浩一·本誌三五巻一号一一四頁以下) / Gesetz II. 1959. S. 833 ff. (紹介・金沢前出六二頁以下) / Der Gewahrund Recht (Rechtspflicht und Rechtsgeltung). F. f. Hugelmann. břematik der Unterlassungsdelikte. JZ. 1958. S. 494 ff. / Macht samsbegriff und die Diebstähle in Selbstbedienungsladen. GA. 1960. (紹介・中山研一・ドイッにおける刑法改正論三七頁以下)/ Der über-

und Gewissen. F. f. 100 Jahre deut. Jur. Tag. 1960. S. 383 ff. 線令、發彩補出公司資本) / Vorteilsabsicht beim Betrug. NJW. 1962. S. 20 ff. / Das Verhältnis der Tötungsdelikte zu den Körperverletzungen. F. f. v. Weber. 1963. S. 242 ff. / Gesetzmässige Judentötung? NJW. 1964. S. 521 ff. / Diskussionsbemerkungen zum Thema "Die Irrtumsregelung im Entwurf". ZStrw. Bd. 76, 1964. S. 619 ff.

作をも参照されたい(政経論叢一四巻五号七三頁以下)。なお、ウェルツェル教授の著作目録は、金沢文雄助教授の御労

ヴォルフ (Ernst Amadeus Wolff)

Fュービンゲン大学でガラス教授のもとで学位をとり(テーマは Handlungsbegriff in der Lehre vom Verbrechen. 1964. が公刊されているにすぎない。

ヴュルテンベルガー (Thomas Würtenberger)

ヘン、フライブルクの諸大学に学んだ。一九三四年より、E・ヴォ教授であつた。チューリッヒ、フランクフルト、ベルリン、ミュン一九○七年一○月七日、チューリッヒに生まれた。父親は美学の

教授に招聘されて今日に至つている。

法哲学等、多彩なものがある。「刑事学・行刑学研究所長を兼ね、その論文には法史学、法の美学、

着自

Die deutsche Kriminalerzählung. 1941. / Der Kampf gegen das Kunstfälschertum in der deutschen und schweizerischen Strafrechtspflege. 1951. / Die geistige Situation der deutschen Strafrechtswissenschaft. 1. Aufl. 1957. 2. Aufl. 1959. (翻訳・小泉敏二・司法研修所報二四・二五・二六・二七・二九・三一号分載)

3

Philipp Allfeld. ZAk. 1940. S. 270 ff. / Aufgabe und Wege der deutschen Strafrechtsgeschichte. DRW. 1942. S. 114 ff. / Die deutsche Strafrechtsgeschichte im 19. Jahrhundert. Eine wissenschaftsgeschichtliche Studie. GS. Bd. 116. 1942. S. 261 ff. / Albrecht Dürer und das Strafrecht der Stadt Nürnberg. ZStrw. Bd. 61. 1942. S. 139 ff. / Aus der Geschichte der unbestimmten Verurteilung. DS. Bd. 10. 1943. S. 81 ff. / Volk, Recht und

Gesetz bei Johann Gottlieb Herder. ZAk. 1944. S. 140 ff. / Die Legalität der staatlichen Herrschaft. Bemerkungen zur Wieder-Goethes. Zur 200. Wiederkehr seines Geburtstags ausgewählt von 650 ff. / Von den Grenzen des Strafrechts. Univ. 1948. S. 785 ff. / über die Völkerrechtsmässigkeit des höheren Befehls im Strafrecht. gungsrechts des Lehrers. DRZschr. 1948. S. 291 ff. / Der Irrtum 1947. S. 241 ff. / Zur strafrechtlichen Bedeutung des Züchtibelebung eines rechts- und staatsphilosophischen Begriffs. DRZschr. rechtliche Aspekte der Kunstfälschung. Univ. 1949. S. 655 ff. / Thomas Würtenberger. DRZschr. 1949. S. 337ff. / Historische und Fehr. 1948. S. 221 ff. / Recht—Gerechtigkeit—Gesetz. Aussprüche Recht und Gerechtigkeit in der Kunst Albrecht Dürers. F. f. MDR 1948. S. 271 ff. / Humanität als Strafrechtswert. SJZ 1948. S. F. f. Rosenfeld. 1949. S. 51 ff. / Naturrecht und Geschichte bei Der Mainzer Professor Johann B. Horix (1730-92) als Kriminalist. Strafverfahren zulässig? JZ. 1951. S. 772 ff. / Betrug durch S. 502 ff. / Ist die Anwendung des Lügendetektors im deutschen Eckart. 1950. S. 121 ff. / Fénelon und das Naturrecht. JZ. 1951. rheinischer Münzfälscher zu Anfang des 19. Jahrhunderts. F. f. zum Gedenken. JR. 1950. S. 257 ff. / Karl Wilhelm Becker. Ein Josef Görres. F. f. Sauer. 1949. S. 279 ff. / Gustav Radbruch liche vor dem Strafrichter. St. Gen. 1951. S. 291 ff. / Die An Schweigen im Kunsthandel. NJW. 1951. S. 176 ff. / Der Jugend-

des Geldstrafenwesens. ZStrw. Bd. 64, 1952. S. 17 ff. / Der S. 545 ff. / Zur Beurteilung der Persönlichkeit des Rechtsbrechers 64: 1952. S. 190ff. / Versuch einer Typisierung jugendlicher die Strafrechtsgeschichte der italienischen Renaissance. ZStrw. Bd. zwölfte internationale Kongress für Strafrecht und Gefängniswesen vor dem richterlichen Urteil. NJW. 1952. S. 249 ff. / Die Reform Revisibilität und Anrechnung in der Revisionsinstanz. JZ. 1952. rechnung der Untersuchungshaft. Grundsätze für die Bemessung, ihres rechtsphilosophischen Sinngehalts). 1953. / Zur Problematik pén. 1953. p. 437 ff. / Die Legalität (Versuch einer Deutung Des Problèmes du droit pénal en matière economique. Rev. int. dr. / Zur Kriminologie der Kuppelei. Krim. Biol. G. 1953. S. 34 ff. / Rechtsbrecher. Jugendkriminalität, hgg. Schneider. 1952. S. 67 ff. im Haag. ZStrw. Bd. 64, 1952. S. 82 ff. / Jakob Burckhardt und recht. MDR. 1955. S. 9 ff. / Considerations criminologiques sur Iff. (Derselbe, in: Naturrecht oder Rechtspositivismus. 1962. S. Das Naturrecht und die Philosophie der Gegenwart. JZ. 1955. S. widrigkeit der Kriegsverbrechen. F. f. Mezger. 1954. S. 193 ff. / 介・藤尾彰・ドイッにおける刑法改正論七七頁以下) / Zur Rechtsunbestimmte Verurteilung. Mat. St. Ref. Bd. 1. 1954. S. 89 ff. (紹 Der internationale "Geigenkrieg". Univ. 1954. S. 215 ff. / Die der strafrechtlichen Zurechnungsfähigkeit. JZ. 1954. S. 209 ff. / 429 ft.) / Uber die Rechtsnatur der Bewährungshilfe im Straf-

des Verletzten im deutschen Adhäsionsprozess. F. f. Pfenniger. f. Kisch. 1955. S. 283 ff. / Kriminologie-die Wissenschaft vom Rechtsphilosophisches in Gottfried Kellers "Grünem Heinrich". F. Jugendliche Tätertypen. Bek. JKrim. BKA. 1955. S. 93 ff. les causes de la récidive. Rev. int: dr. pén. 1955. p. 202 ff. / Gen. 1958. S. 63 ff. / Psychoanalyse, Psychohygiene und Ver-Vom milieubedingten zum existentialistischen Künstlertum. St. der strafrechtlichen Rechtswidrigkeit. F. f. Rittler. 1957. S. 125 ff. i. Br. 1957. S. 23 ff. / Vom Rechtsstaatsgedanken in der Lehre Fakultät, in: Aus der Geschichte der R.-Staw. Fak. zu Freiburg der Geschichte der Freiburger Rechts- und Staatswissenschaftlichen schichte. JZ. 1957. S. 137 ff. / Die Strafrechtswissenschaft in 1956. S. 193 ff. / Johann Gottfried Herder und die Rechtsge-Verbrechen. Univ. 1956. S. 951 ff. / Über Rechte und Pflichten der öffentlichen Jugendhilfe. ZStrw. Bd. 71. 1959. S. 15 ff. / Das Kriminalpolitik. JZ. 1958. S. 430 ff. / Recht und Erziehung in brechensprophylaxe. Heinrich Mengs Beitrag zur Kriminologie und und Auslegung des § 183 StGB. JZ. 1960. S. 342 ff. / Er mahnung p. 69 ff. / Strafrichter und Aufgabe des Richters im moder-Kunstfälschertum. Bek. v. Betrug und Urkundenfälschung. BKA. nen Strafrecht. F. f. Germann. 1959. S. 35 ff. / Kriminologie logie in Deutschland. Etudes intern. d. psychosociol. crim. 1959. 1959. S. 119 ff. / Uber Entwicklung und Stand der Krimino-

Baden-Durlach (1622/1654). F. f. E. Schmidt. 1961. S. 54 ff. (紹介・ strafrechtlichen Schutz von Fürst und Staat im Landrecht von blematik der Todesstrafe. F. f. Messner. 1961. S. 521 ff. / Zum Todesstrafe. Univ. 1961. S. 1091 ff. / Zur naturrechtlichen Proin: La responsabilité pénale. 1961. p. 327 ff. / Das Problem der pénales. Rev. int. dr. pén. 1961. p. 523 ff. / La doctrine de la publicité donnée aux actes criminels et aux procédures F. f. Mathesius. 1960. S. 149 ff. / Les problèmes posés par und Verwarnung als erzieherische Aufgabe des Jugendrichters nologie in Deutschland. JJb. Nr. 5. 1964 / 1965. S. 147 ff. v. Weber. 1963. S. 271 ff. / Entwicklung und Lage der Krimi-75. 1963. S. 98 ff. / Zur Strafbarkeit der Homosexualität. F. f. 8. 19 ff. / Strafrechtspflege und Strafrechtsreform. ZStrw. Bd. vollzug im Lichte der Strafrechtsreform. Bewährungshilfe. 1963. fenden Gewissen. F. f. Wolf. 1962. S. 337 ff. / Sinnvoller Straf-Rechtsbrecher. Kri. Biol. G. 1962. S. 154 ff. / Vom rechtsschaf-1962. S. 323 ff. / Der Jugendrichter als Miterzieher jugendlicher DRIZ. 1962. S. 272 ff. / Erik Wolf zum 60. Geburtstag. JZ. liche Rechtsprechung und die Mitwirkung der Fachwissenschaft. 宮内格 · 法学論叢七三巻一号一四六頁以下) / Die höchstrichter-Franz von Liszt de la culpabilité et de la responsabilité pénale,

た登場してくると思われる新進の学者である。 簡 単 に 絽 介しておに登場してくると思われる新進の学者である。 簡 単 に 絽 介しておたにあげる人々は、近い将来、教授資格請求論文を書いて、学界

ベントン (Günter Bemmann)

求論文は仲裁裁判官の法歪曲をテーマとしているという。 り、その後、同大学に残つて請求論文を就筆しているという。 済 がったがっ大学の頃に公刊した学位論文 Zur Frage der objektiven という。 だっけったがったがったいるという。 だっちん はっかったい ベルク に移

論文

Was bedeutet die Bestimmung "wenn nicht diese Tatsache erweislich wahr ist" im § 186 StGB? MDR. 1956. S. 387 ff. / Zum Fall Rose-Rosahl. MDR. 1958. S. 817 ff. / Welche Bedeutung hat das Erfordernis der Rauschtat im § 330 a StGB? GA. 1961. S. 65 ff. / Zur Rechtsbeugung des Schiedsrichters (Gedanken zu § 455 des jüngsten Strafgesetzbuchentwurfs). ZStrw. Bd. 74. 1962 S. 295 ff.

クラーマー (Peter Cramer)

Valirauschiathestand als abstraktes Geführdungsdelikt. 1962. で学のホープの一人である。一九六二年に公刊したモノグラフィー Derチュービンゲン大学でシュレーダー教授の助手を勤めている岩手

論文 位を取得した。この人も又、近い中に私謝師となるであろう。

Missbrauch und Erschleichen von Ausweispapiere. GA. 1963. S. 363 ff. / Praktischer Fall. "Der Rabenvater." JuS. 1964. S. 360 ff. / Die Neuregelung der Sprengstoffdelikte durch das 7. Strafrechtsänderungsgesetz. NJW. 1964. S. 1835 ff.

ヒルシュ(Hans Joachim Hirsch)

gungogrund. 1960. はすぐれた業績である。請求論文が待たれる。要の毛の薄さからいつても助手であるのが気の毒な位である。容貌を配あられた感じである。学位論文 Die Lehre von den negotierti-tem über einen Rechtferti-tem über einen Rechtferti-tem über einen Rechtferti-tem über einen Rechtferti-

Ist die versuchte falsche eidesstattliche Versicherung noch strafbar? JZ. 1955. S. 234 ff. / Soziale Adäquanz und Unrechtslahre. ZStrw. Bd. 74. 1962. S. 78 ff. / Eigenmächtige Zueignung geschuldeter Sache, Rechtswidrigkeit und Irrtum bei den Zueignungsstrafbestimmungen. JZ. 1963. S. 149 ff.

ランペ (Ernst-Joachim Lampe)

しかし、シュミットはフライブルクの員外教授に転じ、自分はマイルドルフ・シュミットについて請求論文を提出しようとしている。マインツ大学のニーゼ教授の助手であつたが、節の急逝により、

じが似ている。線の細いところも。さに感心した。その人柄からいつてアルトゥール・カウフマンに感立ミットとランペと三人で食事をしたとき、ランペの人柄と頭の良いささか不安な状態にある。私はハンブルクの学会でルドルフ・シンツに残つているから、はたして学究の道を続けてゆけるかどうかンツに残つているから、はたして学究の道を続けてゆけるかどうか

耸文

Genügt für den Entschluss des Täters in \$43 StGB sein bedingter Vorsatz? NJW. 1958. S. 332 ff. / Negative Tätermerkmale. GA. 1959. S. 367 ff. / Täterschaft bei fahrlässiger Straftat. ZStrw. Bd. 71. 1959. S. 579 ff. / Ingerenz und dolus subsequens? ZStrw. Bd. 72. 1960. S. 93 ff. (紹介·如采班 | · 本提刊用港巴中 | 1 | 回 / Die sogenannte Gesamturkunde und das Problem der Urkundenfälschung durch den Aussteller. GA. 1964. S. 321 ff. /

追記

Unterdrückung unechter Urkunden. JR. 1964. S. 64 ff.

せた。御参照を乞う。界の群像というものを書き、その中に十人余の近影をも併せて載れの群像というものを書き、その中に十人余の近影をも併せて載れて法律のひろば」一八巻四号から七号まで、ドイツ刑法学